

令和7年度

障害者総合福祉推進事業

「共同生活援助における重度障害者への生活支援に係る調査研究」

事業報告書

令和8年3月

PwC コンサルティング合同会社

概要

【事業目的】

平成 30 年度障害福祉サービス等報酬改定において、障害者の重度化・高齢化に対応するために創設された「日中サービス支援型共同生活援助事業所」は、短期入所を併設するなど入所施設からの地域移行の推進においても重要な役割を担っている。しかしながら、重度障害者（特に強度行動障害のある者や医療的ケアが必要な者）に対応できる事業所の整備が進んでいない現状があり、令和 4 年の社会保障審議会障害者部会においても、日中サービス支援型共同生活援助事業所について次のような指摘がされている。

- 日中の人員を配置することで支援の程度にかかわらず一定の報酬が支払われる仕組みであることから、支援の必要性が乏しい者の日中の利用や適切な支援の実施について懸念される状況がある
- 上記を踏まえ、日中サービス支援型共同生活援助事業所の制度の在り方について検討すべきである

以上の背景を踏まえ、本事業では、共同生活援助における制度の見直しに向けた検討材料として活用することを目的として、現行制度の共同生活援助事業所における医療的ケアが必要な者等の重度障害者に対する支援の現状や受入れが進まない要因等を、事業所調査や当事者調査等によって明らかにする。

上記の目的を達成するため、本調査研究では、以下の 4 つのリサーチクエスチョンを設定し、この解を求めるための調査設計を行った。

- A) 医療的ケアを必要とする者は共同生活援助事業所でどのような生活をしているか
- B) 共同生活援助事業所では、医療的ケアを必要とする者を受け入れるためにどんな取組を行っているか
- C) 共同生活援助事業所で医療的ケアを必要とする者を受け入れることが困難と考える理由は何か
- D) 医療的ケアを必要とする者やその家族は、共同生活援助事業所にどんな支援を望んでいるか

【調査方法】

本事業では、上記のリサーチクエスチョンの解を得るため、当事者及び事業所に対し、それぞれ質問紙調査及びヒアリング調査を行った。調査設計やヒアリング候補の選定にあたっては、検討委員会及びワーキンググループを組成し、適宜助言を得ながら進めた。

【調査結果】

本事業における調査の結果、医療的ケアが必要な重度障害者の状態像は多様であり、必要とする医療的ケアの内容や頻度、生活上の支援ニーズ、共同生活援助事業所に求める設備・支援体制は個人ごとに大きく異なることが確認された。調査設計において多様性を想定していたものの、実際の回答からは、想定以上に状態像による差が大きいことが示された。

また、医療的ケアを伴いながら共同生活援助事業所で生活している事例は一定数存在するものの、そうした事例の認知度は高いとは言えない状況にあった。事業所側および当事者側の双方において、「医療的ケアがある場合、共同生活援助事業所での生活は困難である」と捉えている回答が多く見られた。

当事者向け調査では、共同生活援助事業所で暮らす者とそれ以外で暮らす者を比べると、共同生活援助事業所で暮らすの方が現在の生活に満足している者の割合が1～2割多いことが分かった。加えて、共同生活援助事業所の入居前には医療的ケアに対する不安を強く感じていた者が多かったが、入居後には不安が軽減したとする回答が確認された。また、現時点では入居を希望していない者の中にも、将来的な状況の変化に応じて共同生活援助事業所への入居を検討する可能性を持つ層が一定数存在していた。

事業所向け調査では、建物構造や設備、人員体制、とりわけ看護職員の確保、夜間・緊急時対応、運営コスト、制度の複雑さなどが、医療的ケアを必要とする者の受入れにおける主な課題として挙げられた。また、「どのような条件が整っても受入れは難しい」とする回答も一定数見られた。

【考察】

調査結果から、医療的ケアが必要な重度障害者の共同生活援助事業所における受け入れ可否は、「医療的ケアが必要か否か」という要素だけでは捉えきれないことが示唆された。状態像や必要とする医療的ケアの内容、支援体制や設備、建物の整備状況によって、共同生活援助事業所での受入れ状況が左右されていることが明らかとなった。

一方で、医療的ケアを伴いながら共同生活援助事業所で生活している事例があることの認識が低いことが、「医療的ケアを必要とする者にとって、生活の場として共同生活援助事業所を選択することが可能ではない」という先入観を事業所および当事者双方にとって強化し、共同生活援助事業所を利用することの検討自体を抑制している可能性が考えられた。実際には、医療的ケアの内容や支援体制次第で共同生活援助事業所での生活が可能となっている事例が存在することから、具体的な事例や支援の工夫を可視化・共有していくことが重要であることが考えられる。

また、当事者調査において、共同生活援助事業所の入居前後で不安感に変化が見られたことや、将来的な選択肢として共同生活援助事業所を考えている層が一定数存在したことは、適切な情報提供や支援体制の整備により、住まいの選択肢が広がる可能性を示していることが考えられる。

その一方で、事業所調査から明らかになった人材確保や財政面、制度運用上の課題は、個々の事業所の努力や工夫に加えて、制度面による対応の必要性を示唆するものとなった。今後は、医療的ケアを必要とする者の共同生活援助事業所の利用を可能としている好事例の具体的な取り組み内容の共有と併せて、人材確保策や財政的支援、報酬体系を含む制度面での支援を組み合わせた総合的な検討が求められる。

なお、本稿第2章から第5章の各調査に関する記述においては、回答者による理解のしやすさを重視し、一部、「共同生活援助事業所」のことを「グループホーム」と表記している。

目次

1. 事業概要	1
(1) 背景と目的	1
(2) 実施内容	2
(3) 検討委員会・ワーキンググループ	3
(4) 倫理審査委員会	5
(5) 事業経過	6
2. 当事者への質問紙調査	7
(1) 調査概要	7
(2) 調査結果	8
3. 当事者へのヒアリング調査	70
(1) 調査概要	70
(2) 調査結果	72
4. 共同生活援助事業所への質問紙調査	87
(1) 調査概要	87
(2) 調査結果	88
5. 共同生活援助事業所へのヒアリング調査	143
(1) 調査概要	143
(2) 調査結果	145
6. まとめ	165
(1) 実態Ⅰ：医療的ケアが必要な方の状態像の多様性	165
(2) 実態Ⅱ：医療的ケアを必要とする者が共同生活援助事業所で暮らしている事例の認知度の低さ	165
(3) 当事者の生活実態と共同生活援助事業所へ望むこと	166
(4) 事業所側の受入れの視点から見た実態と課題	170
(5) 今後の施策検討に向けた示唆	172
付録	175
付録1 当事者向け質問紙調査 調査項目一覧	176
付録2 事業所向け質問紙調査 調査項目一覧	177

1. 事業概要

本章では、本事業の背景と目的、および、事業の全体像等について掲載する。

(1) 背景と目的

① 背景

平成 30 年度障害福祉サービス等報酬改定において、障害者の重度化・高齢化に対応するために創設された「日中サービス支援型共同生活援助事業所」は、短期入所を併設するなど入所施設からの地域移行の推進においても重要な役割を担っている。しかしながら、重度障害者（特に強度行動障害のある者や医療的ケアが必要な者）に対応できる事業所の整備が進んでいない現状があり、令和 4 年の社会保障審議会障害者部会においても、日中サービス支援型共同生活援助事業所について次のような指摘がされている。

- ・ 日中の人員を配置することで支援の程度にかかわらず一定の報酬が支払われる仕組みであることから、支援の必要性が乏しい者の日中の利用や適切な支援の実施について懸念される状況がある
- ・ 上記を踏まえ、日中サービス支援型共同生活援助事業所の制度の在り方について検討すべきである

② 目的

以上の背景を踏まえ、本事業では、共同生活援助事業所における制度の見直しに向けた検討材料として活用することを目的として、現行制度の共同生活援助事業所における医療的ケアが必要な者等の重度障害者に対する支援の現状や受入れが進まない要因等を、事業所調査や当事者調査等によって明らかにする。

③ リサーチクエスションの設定

上記の目的を達成するため、本調査研究では、以下の 4 つのリサーチクエスションを設定し、この解を求めるための調査設計を行った。

- A) 医療的ケアを必要とする者は共同生活援助事業所でどのような生活をしているか
- B) 共同生活援助事業所では、医療的ケアを必要とする者を受け入れるためにどんな取組を行っているか
- C) 共同生活援助事業所で医療的ケアを必要とする者を受け入れることが困難と考える理由は何か
- D) 医療的ケアを必要とする者やその家族は、共同生活援助事業所にどんな支援を望んでいるか

(2) 実施内容

① 実施した調査

事業の目的を達成するために、本事業では以下の調査を実施した。

図表 1 実施した調査等の種類及び概要

調査の種類	目的	概要
当事者向け調査	- 医療的ケアを必要とする者の共同生活援助事業所へのニーズの把握 - 医療的ケアを必要とする者で、実際に共同生活援助事業所で暮らしている者の生活実態の把握	- 当事者に対し、必要とする医療的ケアの内容、現在の住まい、生活の満足度や不安等についての質問紙調査を実施する - 現在の住まいや状態像の異なる5名の当事者にヒアリング調査を実施する
共同生活援助事業所向け調査	事業所が抱える課題や支援実態の把握	- 全国の共同生活援助事業所へ悉皆で医療的ケアの必要な者の受入れ状況や受入れに関する課題等についての質問紙調査を実施する - 受け入れたきっかけや受入れ状況の異なる5つの事業所にヒアリング調査を実施する

なお、調査設計を進めるにあたり、後述のとおり、弊社が実施する倫理審査委員会にて承認を得たうえで調査を進めた。

② 本事業で対象とする医療的ケアの種類

本事業では、「障害福祉サービス等利用における医療的ケア判定スコア（医師用）¹」を参考に、以下の医療的ケアを対象としてこれらを必要とする者を「医療的ケアを必要とする者」と定め、各種調査を実施した。

図表 2 本事業で対象とする医療的ケアの種類

#	医療的ケアの種類
1	人工呼吸器の管理
2	気管切開の管理
3	鼻咽頭エアウェイの管理
4	酸素療法
5	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）
6	ネブライザーの管理
7	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）
8	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）
9	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）
10	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）
11	皮下注射（インスリン、麻薬等含）
12	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）
13	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）

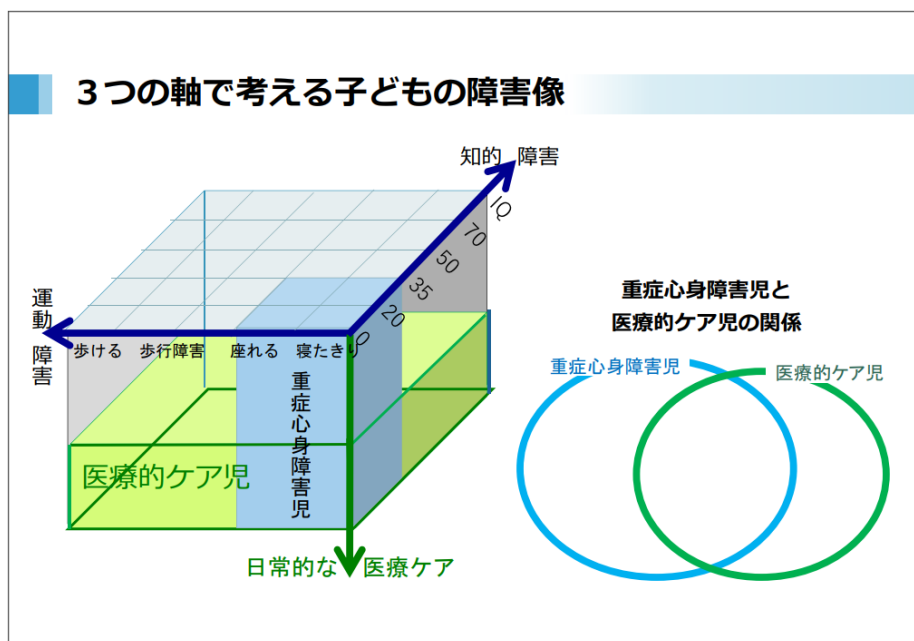
¹ 出典：「令和3年度報酬改定における医療的ケア児に係る報酬（児童発達支援及び放課後等デイサービス）の取扱い等について（（別紙2）医療的ケアを必要とする障害児への支援に係る報酬の取扱いについて（児童発達支援・放課後等デイサービス）」，令和3年3月23日 事務連絡

14	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）
15	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）
16	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）
17	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）
18	排便管理（消化管ストーマ）
19	排便管理（摘便、洗腸、浣腸）
20	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置
21	医師の指示書に基づくその他のケア

③ 当事者の状態像のイメージ

本事業では、状態像の異なる様々な当事者を対象に含める必要があったため、検討委員会やワーキンググループの議論においては、「学校における医療的ケア実施対応マニュアル」²による以下のイメージ図を参考に調査設計を行った。特に当事者ヒアリング調査においては、ヒアリング対象者の状態像に偏りが無いよう留意した。

図表 3 当事者の状態像のイメージ



（3）検討委員会・ワーキンググループ

事業の実施にあたっては、検討委員会及びワーキンググループを組成し、検討委員会を4回、ワーキンググループを2回実施し、事業全体の設計や各調査の詳細について検討した。

² 出典：公益財団法人日本訪問看護財団「学校における医療的ケア実施対応マニュアル」
https://files.jvnf.or.jp/files/user/kenkyu/R1/caremanual_nurse_all.pdf
（文部科学省 令和元年度 学校における医療的ケア実施体制構築事業）

図表 4 検討委員会構成員

氏名	所属
阿部 一彦	社会福祉法人日本身体障害者団体連合会 会長
荒井 隆一	日本グループホーム学会 代表
伊藤 佳世子	社会福祉法人りべるたす 理事長
片桐 公彦	社会福祉法人みんなでいきる 理事
鷹野 雪保	堺市健康福祉局障害福祉部長
久木元 司	公益財団法人日本知的障害者福祉協会 政策委員会委員長
佐々木 桃子	一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 会長
佐藤 真弓	全国重症心身障害児(者)を守る会 政策委員
島 優子	NPO 法人日本相談支援専門員協会 理事
白江 浩	全国身体障害者施設協議会 会長
曾根 直樹(座長)	日本社会事業大学社会事業研究所 客員教授
高木 憲司	和洋文化大学 准教授
水流 源彦	社会福祉法人ゆうかり 理事長 特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク
道舩 正成	神奈川県福祉子ども未来局参事監
刀根 暁	一般社団法人想創 代表理事
名里 晴美	社会福祉法人訪問の家 理事長
廣江 仁	一般社団法人全国地域で暮らそうネットワーク 理事

(五十音順 敬称略)

ワーキンググループは、次の者より組成した。

図表 5 ワーキンググループ構成員

氏名	所属
伊藤 佳世子	社会福祉法人りべるたす 理事長
片桐 公彦	社会福祉法人みんなでいきる 理事
曾根 直樹	日本社会事業大学社会事業研究所 客員教授
名里 晴美	社会福祉法人訪問の家 理事長
吉田 隆俊	社会福祉法人昂

(五十音順 敬称略)

本事業を実施した事務局は以下のとおりである。

図表 6 事務局

氏名	所属
東海林 崇	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 ディレクター
吉野 智	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアマネージャー
大瀬 千紗	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 マネージャー
内海 裕子	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアアソシエイト
杉本 美佳	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 アソシエイト

検討委員会及びワーキンググループにおける各回の議題は以下のとおりである。なお、必要により、委員長である曾根氏との委員会前の事前打ち合わせを実施した。

図表 7 委員会議題

開催日	主な議題案
第1回 令和7年8月21日	- 事業概要の説明 - リサーチクエスションの設定 - 各調査の位置づけの確認 - 調査内容の検討
第2回 令和7年10月27日	- ヒアリング調査項目の設定 - 各調査結果の進捗及び結果の報告 - 既存調査との比較
第3回 令和7年12月24日	- 各調査の進捗及び結果の報告 - リサーチクエスションの解の検討
第4回 令和8年2月16日	- 各調査結果の最終報告 - リサーチクエスションの解の確認 - 報告書案の確認

図表 8 ワーキンググループ議題

開催日	主な議題案
第1回 令和7年9月9日	- 調査手法の検討 - 調査項目の検討
第2回 令和7年9月25日	- 調査手法の検討 - 調査項目の検討

(4) 倫理審査委員会

アンケート調査、ヒアリング調査の実施にあたり、以下の通り倫理審査を受けた。

① 倫理審査の概要

倫理審査の概要は以下のとおりである。

図表 9 倫理審査の概要

項目	内容
委員会名	PwC コンサルティング合同会社倫理審査委員会
実施日	令和7年10月3日

② 倫理審査の結果

審査結果は次の通り、承認となった。

図表 10 倫理審査の結果

審査結果
承認

(5) 事業経過

本事業は次のとおり実施した。

図表 11 事業経過

年月	検討委員会・ワーキンググループ	当事者向け調査	事業所向け調査
令和7年 6月			
7月		↑	↑
8月	★第1回 検討委員会	調査設計	調査設計
9月	★第1回ワーキンググループ ★第2回ワーキンググループ		
10月	★第2回 検討委員会	●倫理審査委員会 ↓	
11月			↓
12月	★第3回 検討委員会	↑ 実査（質問紙調査）	↑ 実査（質問紙調査）
令和8年 1月		↓	↓
2月	★第4回 検討委員会	実施結果の 集計・分析 ↑ 報告書作成 ↑ 実査（ヒアリング）	↑ 実査（ヒアリング）
3月		↓	

2. 当事者への質問紙調査

本章では、医療的ケアを必要とする当事者（一部、家族等の支援者を含む）への質問紙調査の内容及び結果について記載する。

（1）調査概要

検討委員会における議論を踏まえ、以下の内容で当事者向け質問紙調査を実施した。

図表 12 当事者向け質問紙調査の概要

調査対象	医療的ケアを必要とする者（住まいの場所は限定しない）
調査票の配布方法	- 検討委員から個人または団体へのアンケート URL 配布 - 医療的ケアを必要とする者の利用がある共同生活援助事業所から当事者にもアンケート URL を配布
配布先団体	- 全国重症心身障害児(者)を守る会 - 全国医療的ケアライン - 横浜重心グループ連絡会ばざばネット - 遷延性意識障害者関連団体 - 日本相談支援専門員協会 - 医療的ケア児等コーディネーター支援協会 - 日本知的障害者福祉協会
調査期間	令和 7 年 12 月 12 日～令和 8 年 1 月 28 日
主な調査項目	- 基本情報（全員への設問） - 回答方法 - 年齢、性別、障害支援区分 - 本人から他者へのコミュニケーション手段、運動機能 - 必要とする医療的ケアの内容や頻度 - 現在利用している障害福祉サービスや医療サービス等 - 日々の過ごし方 - 現在の住まい - 現在の生活の満足度 - 現在の生活への不満や心配事 - グループホームで暮らす者への設問 - 入居する時点で医療的ケアが必要だったか - グループホームに入居したきっかけや理由 - 入居を検討する中での困難や心配事 - 入居を断られたことがあるか - 入居して良かったことや安心な点 - グループホーム以外で暮らす者への設問 - 過去にグループホームで暮らしたことがあるか - グループホームの体験利用や見学をしたことがあるか - グループホームへの入居を希望するか、その理由

	・ 将来的にグループホームへの入居を希望するか、その理由 ・ もしグループホームで暮らす場合、どんなことを望むか、どんなことが心配か
--	---

(2) 調査結果

当事者への質問紙調査は、349 人から回答を得た。各調査項目の調査結果は以下のとおりである。なお、割合は少数第一位まで記載しており、少数第二位以降は四捨五入しているため、合計が 100.0%にならない場合がある。

< A. 単純集計：すべての医療的ケアを必要とする者への設問 >

回答の方法

回答の方法については「家族による代理入力」が最も多く、約 75.4%であった。

図表 13 回答の方法

No.	回答	回答数	割合(%)
1	本人による回答	15	4.3
2	家族による代理入力	263	75.4
3	日頃関わる事業所等の職員による代理入力	48	13.8
4	相談支援専門員による代理入力	10	2.9
5	その他	3	0.9
6	回答しない/分からない	10	2.9
	n	349	100.0

代理回答の方法

代理回答の方法については、「本人の言葉以外での反応から意思を推定し、その内容を代理で入力」が最も多く、約 53.0%であった。

図表 14 代理回答の方法（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	本人が発語または意思伝達装置による明確な意思表示を行い、入力のみ代理で実施	21	6.5
2	本人が発した言葉をくみ取ることによって意思を推定し、その内容を代理で入力	36	11.2
3	本人の言葉以外での反応から意思を推定し、その内容を代理で入力	170	53.0
4	その他	50	15.6
	(以下、「その他」の内容で最も多い回答)	-	-
	本人の意思は分からないため、回答者が想像して回答	20	6.2
5	回答しない/分からない	52	16.2
	n	321	100.0

本人の意思の確認における工夫

本人の意思の確認における工夫については、「日頃の関わりの中で度々見受けられる反応を基に推定」が最も多く、約 94.7%であった。

図表 15 本人の意思の確認における工夫（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	複数人により、同一の見解であった場合に本人の意思として推定	14	8.2
2	日頃の関わりの中で度々見受けられる反応を基に推定	161	94.7
3	その他	2	1.2
4	回答しない/分からない	1	0.6
	n	170	100.0

年齢

年齢については、「20代」が約 24.6%で最も多く、「30代」が約 24.1%でその次に多かった。

図表 16 年齢

No.	回答	回答数	割合(%)
1	18歳未満	31	8.9
2	18歳	8	2.3
3	19歳	7	2.0
4	20代	86	24.6
5	30代	84	24.1
6	40代	46	13.2
7	50代	29	8.3
8	60代	30	8.6
9	70代	11	3.2
10	80代	5	1.4
11	回答しない/分からない	12	3.4
	n	349	100.0

※無効回答0 平均38.11歳 中央値34歳 最大値87歳 最小値15歳

性別

性別については、「男性」が約 53.0%、「女性」が約 44.7%であった。

図表 17 性別

No.	回答	回答数	割合(%)
1	男性	185	53.0
2	女性	156	44.7
3	回答しない	8	2.3
	n	349	100.0

障害支援区分

障害支援区分については、「区分 6」が最も多く、約 64.2%であった。

No.	回答	回答数	割合(%)
1	非該当（区分 1 から区分 6 のどれにも当てはまらない）	4	1.1
2	区分1	14	4.0
3	区分2	8	2.3
4	区分3	9	2.6
5	区分4	10	2.9
6	区分5	17	4.9
7	区分6	224	64.2
8	未認定（障害支援区分認定調査をしていない）	26	7.4
9	その他	5	1.4
10	回答しない/分からない	32	9.2
	n	349	100.0

図表 18 障害支援区分

本人から他者へのコミュニケーション手段

本人から他者へのコミュニケーション手段については、「表情、目の動き」が最も多く、約 61.9%であった。

図表 19 本人から他者へのコミュニケーション手段（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	表情、目の動き	216	61.9
2	声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり	128	36.7
3	単語による意思表示	35	10.0
4	会話	66	18.9
5	手話	3	0.9
6	文字盤	3	0.9
7	意思伝達装置	6	1.7
8	上記のいずれにおいてもコミュニケーションを図ることが難しい	60	17.2
9	その他	17	4.9
10	回答しない/分からない	6	1.7
	n	349	100.0

運動機能

運動機能については、「寝たきり」が最も多く、約 57.9%であった。

図表 20 運動機能（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	走ることができる	23	6.6
2	歩くことができる	50	14.3
3	車椅子等で自ら移動ができる	24	6.9
4	伝い歩きができる	27	7.7
5	つかまり立ちができる	32	9.2
6	背ばい・腹ばい・四つんばいで移動ができる	39	11.2
7	座位保持が可能	83	23.8
8	寝返りができる	91	26.1
9	寝たきり	202	57.9
10	その他	15	4.3
11	回答しない/分からない	8	2.3
	n	349	100.0

必要とする医療的ケアの内容と対応の頻度

必要とする医療的ケアの内容については、「吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）」が約 52.1%で最も多く、「経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）」が約 50.7%でその次に多かった。医療的ケアの対応頻度については、医療的ケアの内容ごとの回答結果を以下に示す。

図表 21 必要とする医療的ケアの内容（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	人工呼吸器の管理	58	16.6
2	気管切開の管理	109	31.2
3	鼻咽頭エアウェイの管理	7	2.0
4	酸素療法	50	14.3
5	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	182	52.1
6	ネブライザーの管理	76	21.8
7	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	34	9.7
8	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	177	50.7
9	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	10	2.9
10	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	1	0.3
11	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	14	4.0
12	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	0	0.0
13	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	8	2.3
14	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	5	1.4
15	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	5	1.4
16	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	21	6.0
17	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	27	7.7
18	排便管理（消化管ストーマ）	8	2.3
19	排便管理（排便、洗腸、浣腸）	148	42.4
20	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	68	19.5
21	医師の指示書に基づくその他のケア	47	13.5
22	回答しない/分からない	30	8.6
	n	349	100.0

図表 22 ①人工呼吸器の管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	21	36.2
2	1～2時間に1回	4	6.9
3	3～5時間に1回	2	3.4
4	6～11時間に1回	3	5.2
5	12時間に1回	3	5.2
6	24時間に1回	9	15.5
7	夜間のみ支援が必要	10	17.2
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	5	8.6
	無回答	1	1.7
	n	58	100.0

※無効回答1 平均13.45時間 中央値12時間 最大値24時間 最小値1時間

図表 23 ②気管切開の管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	30	27.5
2	1～2時間に1回	16	14.7
3	3～5時間に1回	6	5.5
4	6～11時間に1回	3	2.8
5	12時間に1回	2	1.8
6	24時間に1回	17	15.6
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	1	0.9
9	その他	20	18.3
	無回答	14	12.8
	n	109	100.0

※無効回答14 平均27.06時間 中央値4時間 最大値720時間 最小値0.5時間

図表 24 ③鼻咽頭エアウェイの管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	2	28.6
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	2	28.6
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	1	14.3
	無回答	2	28.6
	n	7	100.0

※無効回答2 平均8時間 中央値8時間 最大値8時間 最小値8時間

図表 25 ④酸素療法の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	11	22.0
2	1～2時間に1回	2	4.0
3	3～5時間に1回	1	2.0
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	5	10.0
7	夜間のみ支援が必要	6	12.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	18	36.0
9	その他	7	14.0
	無回答	0	0.0
	n	50	100.0

※無効回答0 平均94時間 中央値24時間 最大値720時間 最小値1時間

図表 26 ⑤吸引の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	19	10.4
2	1～2時間に1回	36	19.8
3	3～5時間に1回	18	9.9
4	6～11時間に1回	5	2.7
5	12時間に1回	4	2.2
6	24時間に1回	5	2.7
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	22	12.1
9	その他	65	35.7
	無回答	8	4.4
	n	182	100.0

※無効回答8 平均4.27時間 中央値2時間 最大値24時間 最小値0.5時間

図表 27 ⑥ネブライザーの管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	2	2.6
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	7	9.2
4	6～11時間に1回	9	11.8
5	12時間に1回	7	9.2
6	24時間に1回	13	17.1
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	6	7.9
9	その他	29	38.2
	無回答	3	3.9
	n	76	100.0

※無効回答3 平均13.13時間 中央値12時間 最大値24時間 最小値3時間

図表 28 ⑦経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	2.9
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	10	29.4
4	6～11時間に1回	5	14.7
5	12時間に1回	1	2.9
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	16	47.1
	無回答	1	2.9
	n	34	100.0

※無効回答1 平均5.25時間 中央値4.5時間 最大値12時間 最小値3時間

図表 29 ⑧経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	3	1.7
2	1～2時間に1回	4	2.3
3	3～5時間に1回	43	24.3
4	6～11時間に1回	22	12.4
5	12時間に1回	1	0.6
6	24時間に1回	2	1.1
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	3	1.7
9	その他	88	49.7
	無回答	11	6.2
	n	177	100.0

※無効回答11 平均5.41時間 中央値5時間 最大値24時間 最小値1時間

図表 30 ⑨経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	1	10.0
4	6～11時間に1回	3	30.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	6	60.0
	無回答	0	0.0
	n	10	100.0

※無効回答0 平均7.8時間 中央値8時間 最大値13時間 最小値4時間

図表 31 ⑩中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	1	100.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	n	1	100.0

※無効回答0 平均1時間 中央値1時間 最大値1時間 最小値1時間

図表 32 ⑪皮下注射（インスリン、麻薬等含）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	5	35.7
5	12時間に1回	1	7.1
6	24時間に1回	4	28.6
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	3	21.4
	無回答	1	7.1
	n	14	100.0

※無効回答1 平均40時間 中央値18時間 最大値168時間 最小値6時間

図表 33 ⑫皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	n	0	0.0

※無効回答0 平均 - 中央値 - 最大値 - 最小値 -

図表 34 ⑬血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	1	12.5
4	6～11時間に1回	2	25.0
5	12時間に1回	1	12.5
6	24時間に1回	1	12.5
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	1	12.5
	無回答	2	25.0
	n	8	100.0

※無効回答2 平均11時間 中央値8時間 最大値24時間 最小値5時間

図表 35 ⑭血糖測定（埋め込み式血糖測定による）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	2	40.0
4	6～11時間に1回	2	40.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	1	20.0
	無回答	0	0.0
	n	5	100.0

※無効回答0 平均5時間 中央値5.5時間 最大値6時間 最小値3時間

図表 36 ⑮継続的な透析（血液透析、腹膜透析）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	20.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	1	20.0
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	3	60.0
	無回答	0	0.0
	n	5	100.0

※無効回答0 平均36時間 中央値48時間 最大値56時間 最小値4時間

図表 37 ⑩間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	8	38.1
4	6～11時間に1回	2	9.5
5	12時間に1回	1	4.8
6	24時間に1回	1	4.8
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	1	4.8
9	その他	8	38.1
	無回答	0	0.0
	n	21	100.0

※無効回答0 平均6.58時間 中央値4.5時間 最大値24時間 最小値3時間

図表 38 ⑪持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	3	11.1
2	1～2時間に1回	1	3.7
3	3～5時間に1回	3	11.1
4	6～11時間に1回	3	11.1
5	12時間に1回	1	3.7
6	24時間に1回	2	7.4
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	5	18.5
	無回答	9	33.3
	n	27	100.0

※無効回答9 平均8.64時間 中央値6時間 最大値24時間 最小値0時間

図表 39 ⑩排便管理（消化管ストーマ）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	2	25.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	1	12.5
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	4	50.0
	無回答	1	12.5
	n	8	100.0

※無効回答1 平均4時間 中央値2時間 最大値8時間 最小値2時間

図表 40 ⑪排便管理（摘便、洗腸、浣腸）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	1	0.7
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	32	21.6
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	0	0.0
9	その他	107	72.3
	無回答	8	5.4
	n	148	100.0

※無効回答8 平均57.62時間 中央値48時間 最大値720時間 最小値3時間

図表 41 ㊸痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	1	1.5
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	1	1.5
5	12時間に1回	2	2.9
6	24時間に1回	4	5.9
7	夜間のみ支援が必要	0	0.0
8	不定期（発作・体調不良時等）	26	38.2
9	その他	31	45.6
	無回答	3	4.4
	n	68	100.0

※無効回答3 平均246.81時間 中央値27時間 最大値2160時間 最小値1時間

現在の住まい

現在の住まいについては、「自宅（家族と同居）」が最も多く、約 61.3%であった。

図表 42 現在の住まい

No.	回答	回答数	割合(%)
1	自宅（家族と同居）	214	61.3
2	自宅（一人暮らし）	1	0.3
3	グループホーム	79	22.6
4	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	16	4.6
5	医療機関に入院中・療養介護利用中	33	9.5
6	その他	4	1.1
7	回答しない/分からない	2	0.6
	n	349	100.0

現在利用している障害福祉サービスや医療サービス等

現在利用している障害福祉サービスや医療サービス等については、「<医療サービス>訪問看護」が約 55.3%で最も多く、「<障害福祉サービス・相談支援>生活介護」が約 49.6%でその次に多かった。

図表 43 現在利用している障害福祉サービスや医療サービス等（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	<医療サービス>訪問診療・往診	151	43.3
2	<医療サービス>訪問看護	193	55.3
3	<医療サービス>訪問歯科診療	67	19.2
4	<医療サービス>訪問リハビリ	133	38.1
5	<医療サービス>訪問薬剤	85	24.4
6	<医療サービス>訪問栄養指導	3	0.9
7	<障害福祉サービス・相談支援>居宅介護	127	36.4
8	<障害福祉サービス・相談支援>重度訪問介護	54	15.5
9	<障害福祉サービス・相談支援>同行援護	20	5.7
10	<障害福祉サービス・相談支援>行動援護	9	2.6
11	<障害福祉サービス・相談支援>重度障害者等包括支援	25	7.2
12	<障害福祉サービス・相談支援>短期入所	145	41.5
13	<障害福祉サービス・相談支援>療養介護	22	6.3
14	<障害福祉サービス・相談支援>生活介護	173	49.6
15	<障害福祉サービス・相談支援>施設入所支援	28	8.0
16	<障害福祉サービス・相談支援>自立生活援助	2	0.6
17	<障害福祉サービス・相談支援>共同生活援助	66	18.9
18	<障害福祉サービス・相談支援>自立訓練（機能訓練）	6	1.7
19	<障害福祉サービス・相談支援>自立訓練（生活訓練）	1	0.3
20	<障害福祉サービス・相談支援>就労移行支援	0	0.0
21	<障害福祉サービス・相談支援>就労継続支援A型	3	0.9
22	<障害福祉サービス・相談支援>就労継続支援B型	16	4.6
23	<障害福祉サービス・相談支援>就労定着支援	0	0.0
24	<障害福祉サービス・相談支援>就労選択支援	0	0.0
25	<障害福祉サービス・相談支援>計画相談支援	125	35.8
26	<障害福祉サービス・相談支援>障害児相談支援	25	7.2
27	<障害福祉サービス・相談支援>地域移行支援	0	0.0
28	<障害福祉サービス・相談支援>地域定着支援	0	0.0
29	<地域生活支援事業>移動支援	65	18.6
30	<地域生活支援事業>日中一時支援	80	22.9
31	<地域生活支援事業>日常生活用具給付等事業	113	32.4
32	<地域生活支援事業>地域活動支援センター	9	2.6
33	<地域生活支援事業>基幹相談支援センター	10	2.9
34	<地域生活支援事業>障害者相談支援事業	40	11.5
35	<障害児通所支援>障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）	42	12.0
36	その他	21	6.0
37	回答しない/分からない	6	1.7
	n	349	100.0

現在利用している都道府県・市町村特有のサービスや助成制度

現在利用している都道府県・市町村特有のサービスや助成制度については、「特に利用していない」が最も多く、約 32.4%であった。

図表 44 現在利用している都道府県・市町村特有のサービスや助成制度（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	ヘルパー派遣	82	23.5
2	日中活動	61	17.5
3	緊急時のショートステイ	36	10.3
4	在宅でのレスパイトサービス	24	6.9
5	自治体独自の障害者手当や家賃助成	82	23.5
6	特に利用していない	113	32.4
7	その他	14	4.0
8	回答しない/分からない	51	14.6
	n	349	100.0

平日の日中に最も時間を長く過ごす場所

平日の日中に最も時間を長く過ごす場所については、「生活介護事業所」が最も多く、約 47.3%であった。

図表 45 平日の日中に最も時間を長く過ごす場所（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	生活介護事業所	165	47.3
2	就労継続支援A型事業所または就労継続支援B型事業所	15	4.3
3	就労先	5	1.4
4	学校・放課後等デイサービス・保育園等	36	10.3
5	自宅	71	20.3
6	グループホーム	42	12.0
7	その他	44	12.6
	（以下、「その他」の内容で最も多い回答）	-	-
	入所している施設・療養介護（入院中も含む）	35	10.0
8	回答しない/分からない	10	2.9
	n	349	100.0

< B. 単純集計：グループホーム事業所で暮らしている方への設問（n=79） >

グループホームに入居しておよそ何年経過しているか

グループホームに入居しておよそ何年経過しているかについては、「10年以上」が約20.3%で最も多く、「1年目」が約17.7%でその次に多かった。

図表 46 グループホームに入居しておよそ何年経過しているか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	1年目	14	17.7
2	2年目	10	12.7
3	3年目	11	13.9
4	4年目	5	6.3
5	5年目	5	6.3
6	6年目	5	6.3
7	7年目	4	5.1
8	8年目	2	2.5
9	9年目	4	5.1
10	10年以上	16	20.3
11	回答しない/分からない	3	3.8
	n	79	100.0

グループホームに入居する時点で医療的ケアが必要だったか

グループホームに入居する時点で医療的ケアが必要だったかについては、「入居する時点で医療的ケアが必要だった」が最も多く、約53.2%であった。

図表 47 グループホームに入居する時点で医療的ケアが必要だったか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	入居する時点で医療的ケアが必要だった	42	53.2
2	グループホームに入居している間に医療的ケアが必要になった	19	24.1
3	その他	7	8.9
4	回答しない/分からない	11	13.9
	n	79	100.0

グループホームに入居したきっかけ

グループホームに入居したきっかけについては、「家族と話し合っで決めた」が最も多く、約 48.1%であった。

図表 48 グループホームに入居したきっかけ（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	自分で希望した	15	19.0
2	人に勧められた	4	5.1
3	家族と話し合っで決めた	38	48.1
4	相談支援専門員と話し合っで決めた	26	32.9
5	住んでいた施設の職員と話し合っで決めた	13	16.5
6	通っていた事業所の職員と話し合っで決めた	9	11.4
7	通っていた医療機関で勧められた	7	8.9
8	その他	7	8.9
9	回答しない/分からない	3	3.8
	n	79	100.0

グループホームに入居した理由

グループホームに入居した理由については、「今の生活よりもグループホームで暮らす方が安心だと思ったから」が約 39.2%で最も多く、「このまま自宅で暮らすのが難しくなっでから」が約 36.7%でその次に多かつた。

図表 49 グループホームに入居した理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	グループホームが楽しそうだと思ったから	9	11.4
2	グループホームでの暮らしは自由に決められることが多いと思ったから	8	10.1
3	今の生活よりもグループホームで暮らす方が安心だと思ったから	31	39.2
4	知り合いや友達がグループホームで暮らしているのを見ていいなと思ったから	4	5.1
5	一緒に暮らしている家族に迷惑をかけたくないと思ったから	8	10.1
6	このまま自宅で暮らすのが難しくなっでから	29	36.7
7	それまで住んでいたところに不満があっでから	4	5.1
8	その他	16	20.3
9	回答しない/分からない	5	6.3
	n	79	100.0

グループホームへの入居を検討する中での困難や心配事

グループホームへの入居を検討する中での困難や心配事については、「回答しない/分からない」が約 25.3%で最も多く、「グループホームでの生活にどのくらいお金がかかるか心配だった」が約 22.8%でその次に多かった。

図表 50 グループホームへの入居を検討する中での困難や心配事（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	建物の構造や設備の面で受入れ体制が整っている（例：車いすでも暮らせる、機械浴があるなど）グループホームがなかなか見つからなかった	9	11.4
2	医療的ケアに対応できるスタッフがいるグループホームがなかなか見つからなかった	13	16.5
3	グループホームに入ることを家族や周りの人が反対した	0	0.0
4	グループホームのことで分からないことや困ったときに誰に相談すれば良いかわからなかった	10	12.7
5	グループホームでの生活で具合が悪くなった時にどうしたら良いか心配だった	17	21.5
6	グループホームでの生活で食事や洗濯等の家事を自分でできるか心配だった	7	8.9
7	グループホームでの生活にどのくらいお金がかかるか心配だった	18	22.8
8	その他	11	13.9
	（以下、「その他」の内容で最も多い回答）	-	-
	特に困ったことや心配なことはなかった	7	8.9
9	回答しない/分からない	20	25.3
	n	79	100.0

いまのグループホームに入るまでに入居を断られたことがあるか

いまのグループホームに入るまでに入居を断られたことがあるかについては、「ない」が最も多く、約 62.0%であった。

図表 51 いまのグループホームに入るまでに入居を断られたことがあるか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	ある	12	15.2
2	ない	49	62.0
3	その他	1	1.3
4	回答しない/分からない	17	21.5
	n	79	100.0

グループホームに入居を断られた理由

グループホームに入居を断られた理由については、「医療的ケアができるスタッフがいないから」と「その他」が最も多く、それぞれ約 41.7%であった。

図表 52 グループホームに入居を断られた理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	廊下の幅や居室、浴室等が医療的ケア者に対応できる十分な大きさではないから	0	0.0
2	階段があるが、スロープやエレベーターの設置が難しいから	0	0.0
3	必要な機器を購入する金銭的余裕がないから	0	0.0
4	医療的ケアができるスタッフがいないから	5	41.7
5	緊急時の対応に不安があったから	3	25.0
6	その他	5	41.7
7	回答しない/分からない	2	16.7
	n	12	100.0

グループホームに入居して良かったことや安心な点

グループホームに入居して良かったことや安心な点については、「個室で過ごせるので快適だ」が約 44.3%で最も多く、「困ったときには職員に相談することができるので安心だ」が約 40.5%でその次に多かった。

図表 53 グループホームに入居して良かったことや安心な点（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	居心地が良い	28	35.4
2	食事の時間や内容、生活リズムなど、自分で自由に決められることが多い	17	21.5
3	個室で過ごせるので快適だ	35	44.3
4	困ったときには職員に相談することができるので安心だ	32	40.5
5	一緒に暮らすよりも家族の負担が減ったと思う	26	32.9
6	必要であれば家事をサポートしてもらえるので安心だ	19	24.1
7	グループホームに入る前と同じ地域で生活ができているので、人間関係が大きく変わらなかった	15	19.0
8	一緒に暮らす仲間に話を聞いてもらうことができる	12	15.2
9	その他	5	6.3
10	回答しない/分からない	11	13.9
	n	79	100.0

食事や入浴、外出について、いまの生活に満足しているか

いまの生活に満足しているかについて聞いたところ、食事、入浴、外出いずれについても「概ね満足している」が最も多く、それぞれ約 57.0%、約 49.4%、約 51.9%であった。

図表 54 食事について、いまの生活に満足しているか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	とても満足している	11	13.9
2	概ね満足している	45	57.0
3	あまり満足していない	4	5.1
4	満足していない	4	5.1
5	その他	1	1.3
6	回答しない/分からない	14	17.7
	n	79	100.0

図表 55 入浴について、いまの生活に満足しているか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	とても満足している	21	26.6
2	概ね満足している	39	49.4
3	あまり満足していない	6	7.6
4	満足していない	1	1.3
5	その他	2	2.5
6	回答しない/分からない	10	12.7
	n	79	100.0

図表 56 外出について、いまの生活に満足しているか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	とても満足している	16	20.3
2	概ね満足している	41	51.9
3	あまり満足していない	4	5.1
4	満足していない	1	1.3
5	その他	0	0.0
6	回答しない/分からない	17	21.5
	n	79	100.0

休日の余暇時間の過ごし方

休日の余暇時間の過ごし方については、「グループホームの中で過ごすことが多い」が最も多く、約 70.9%であった。

図表 57 休日の余暇時間の過ごし方（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	グループホームの中で過ごすことが多い	56	70.9
2	一人で行きかけることが多い	8	10.1
3	支援者と一緒に行きかけることが多い	9	11.4
4	自宅に帰って家族と過ごすことが多い	11	13.9
5	その他	1	1.3
6	回答しない/分からない	5	6.3
	n	79	100.0

日頃の生活の中で関わる人

日頃の生活の中で関わる人については、「グループホームの支援員」が最も多く、約 94.9%であった。

図表 58 日頃の生活の中で関わる人（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	グループホームの支援員	75	94.9
2	グループホームの管理者・サービス管理責任者	57	72.2
3	家族	28	35.4
4	友人	8	10.1
5	学校の先生や職場の人	0	0.0
6	通所先の日中活動事業所の職員や仲間	43	54.4
7	相談支援専門員	26	32.9
8	主治医やかかりつけ医	30	38.0
9	訪問看護師	29	36.7
10	近隣の住民	1	1.3
11	市町村の職員	1	1.3
12	その他	5	6.3
13	回答しない/分からない	0	0.0
	n	79	100.0

困ったことがあった際の対応方法

困ったことがあった際の対応方法については、「グループホームの支援員や管理者、サービス管理責任者に相談する」が最も多く、約 82.3%であった。

図表 59 困ったことがあった際の対応方法（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	グループホームの支援員や管理者、サービス管理責任者に相談する	65	82.3
2	家族に相談する	27	34.2
3	友人に相談する	5	6.3
4	学校の先生に相談する	0	0.0
5	職場の仲間に相談する	3	3.8
6	相談支援専門員に相談する	26	32.9
7	市町村の職員に相談する	4	5.1
8	自力で解決する	7	8.9
9	その他	8	10.1
10	回答しない/分からない	8	10.1
	n	79	100.0

現在の生活への不満や心配事

現在の生活への不満や心配事については、「特に不満や心配事はない」が最も多く、約 29.1%であった。

図表 60 現在の生活への不満や心配事（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	特に不満や心配事はない	23	29.1
2	食事の時間や内容を自由に決めたい	5	6.3
3	入浴の時間を自由に決めたい	3	3.8
4	もっと自由に外出したい	9	11.4
5	一人で過ごす時間を増やしたい	1	1.3
6	グループホームの仲間とうまくいかない	3	3.8
7	グループホームの支援員とうまくいかない	1	1.3
8	新しい日中の居場所を見つけたい	1	1.3
9	具合が悪くなった時にどうしたらよいか心配	10	12.7
10	身体機能が低下してきていることが心配	11	13.9
11	災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配	17	21.5
12	自分で自由に使えるお金が少ない	7	8.9
13	グループホームで暮らすにはお金がかかり、ずっと暮らしていけるか心配	5	6.3
14	その他	9	11.4
15	回答しない/分からない	15	19.0
	n	79	100.0

今後の生活の展望

今後の生活の展望については、「このままグループホームで暮らし続けたい」が最も多く、約 57.0%であった。

図表 61 今後の生活の展望

No.	回答	回答数	割合(%)
1	一人暮らしをしたい	8	10.1
2	このままグループホームで暮らし続けたい	45	57.0
3	いずれは障害者支援施設に移りたい	1	1.3
4	いずれは療養介護に移りたい	2	2.5
5	特に考えていない	7	8.9
6	その他	2	2.5
7	回答しない/分からない	14	17.7
	n	79	100.0

<C. 単純集計：グループホーム事業所で暮らしていない方への設問>

過去にグループホームで暮らしたことがあるか

過去にグループホームで暮らしたことがあるかについては、「ない」が最も多く、約 90.7%であった。

図表 62 過去にグループホームで暮らしたことがあるか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	ある	8	3.0
2	ない	245	90.7
3	その他	5	1.9
4	回答しない/分からない	12	4.4
	n	270	100.0

グループホームから今の住まいに移った理由

過去にグループホームで暮らしたことがある者がグループホームから今の住まいに移った理由について、自由記述による回答を要約したものが以下のとおり。

図表 63 グループホームから今の住まいに移った理由（n＝8）

自由記述回答の内容
・ 発作時に対応しないなど、グループホームの職員による支援に不満があったから ・ 浣腸などの排便管理には対応できないと言われ、個別対応にも応じてもらえなかったから ・ 嗜好品についての制限に不満があったから ・ コロナ禍による面会制限・外出制限に不満があったから ・ グループホームに入居し親元を離れたところ、本人も親も不安が強くなってしまったため、親元に戻るようになった

過去にグループホームの体験利用や見学をしたことがあるか

過去にグループホームの体験利用や見学をしたことがあるかについては、「体験利用も見学もしたことがない」が最も多く、約 60.4%であった。

図表 64 過去にグループホームの体験利用や見学をしたことがあるか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	宿泊体験をしたことがある	14	5.2
2	宿泊はしていないが、見学したことがある	70	25.9
3	体験利用も見学もしたことがない	163	60.4
4	その他	5	1.9
5	回答しない/分からない	18	6.7
	n	270	100.0

グループホームへの入居に至らなかった理由

グループホームへの入居に至らなかった理由については、「医療的ケアに対応できるスタッフがいるグループホームが見つからなかった」が最も多く、約 40.5%であった。

図表 65 グループホームへの入居に至らなかった理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	入りたいと思えるグループホームがなかった	21	25.0
2	建物の構造や設備の面で整っている（例：車いすでも暮らせる、機械浴があるなど）グループホームがなかなか見つからなかった	9	10.7
3	医療的ケアに対応できるスタッフがいるグループホームが見つからなかった	34	40.5
4	グループホーム側から断られた	14	16.7
5	グループホームの生活は医療面が心配だと思った	21	25.0
6	グループホームの生活では自由が制限されると思った	6	7.1
7	グループホームの雰囲気が自分に合わなかった	2	2.4
8	集団生活になじめないと思った	2	2.4
9	住み慣れた場所から離れたくなかった	10	11.9
10	家族や周囲の支援者に反対された	2	2.4
11	費用が高い	7	8.3
12	その他	24	28.6
	（以下、「その他」の内容で多い回答）	-	-
	今はまだ家族と一緒に暮らしたいと考えたから	12	14.3
	入りたいグループホームに空きがなかった	5	6.0
13	回答しない/分からない	6	7.1
	n	84	100.0

グループホームに入居を断られた理由

グループホームに入居を断られた理由については、「医療的ケアができるスタッフがいないから」と「その他」が最も多く、それぞれ約 42.9%であった。

図表 66 グループホームに入居を断られた理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	廊下の幅や居室、浴室等が医療的ケア者に対応できる十分な大きさではないから	2	14.3
2	建物の構造上、生活するには階段での移動が必要だが、スロープやエレベーターの設置が難しいから	1	7.1
3	必要な医療機器を購入する金銭的余裕がないから	0	0.0
4	医療的ケアができるスタッフがいないから	6	42.9
5	緊急時の対応に不安があったから	5	35.7
6	その他	6	42.9
7	回答しない/分からない	1	7.1
	n	14	100.0

現在の暮らしの満足度

現在の暮らしの満足度については、「まあ満足している」が最も多く、約 48.1%であった。

図表 67 現在の暮らしの満足度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	とても満足している	40	14.8
2	まあ満足している	130	48.1
3	どちらともいえない	35	13.0
4	あまり満足していない	22	8.1
5	満足していない	12	4.4
6	その他	1	0.4
7	回答しない/分からない	30	11.1
	n	270	100.0

現在の暮らしの心配ごと

現在の暮らしの心配ごとについては、「一緒に暮らす家族が高齢になってきて、今の生活をいつまで続けることができるか心配」が最も多く、約 63.0%であった。

図表 68 現在の暮らしの心配ごと（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	特に心配なことはない	14	5.2
2	体調が悪くなった時にどうしたら良いか心配	77	28.5
3	身体機能が低下してきていることが心配	92	34.1
4	一緒に暮らす家族が高齢になってきて、今の生活をいつまで続けることができるか心配	170	63.0
5	災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配	144	53.3
6	その他	17	6.3
7	回答しない/分からない	15	5.6
	n	270	100.0

現在、グループホームへの入居を希望するか

現在、グループホームへの入居を希望するかについては、「希望しない」が最も多く、約 49.3%であった。

図表 69 現在、グループホームへの入居を希望するか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	希望する	25	9.3
2	こんなグループホームであれば希望する	44	16.3
	(以下、具体的な内容で多い回答)	-	-
	医療面で安心できるグループホームであれば希望する	24	8.9
	個人の意思が尊重され楽しく過ごせるグループホームであれば希望する	13	4.8
3	希望しない	133	49.3
4	その他	9	3.3
5	回答しない/分からない	59	21.9
	n	270	100.0

図表 70 「こんなグループホームであれば希望する」の具体的な内容（n=44）

自由記述回答の内容
・ 医療面で安心できるグループホーム（24 件） ・ 個人の意思が尊重され楽しく過ごせるグループホーム（13 件） ・ 日中活動や通所がしやすいグループホーム（6 件） ・ 自宅からアクセスのよい場所にあるグループホーム（2 件）

<希望する理由>

グループホームへの入居を希望する理由については、「このまま自宅で暮らすのが難しくなってきたから」が最も多く、約 56.5%であった。

図表 71 グループホームへの入居を希望する理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	グループホームが楽しそうだと思うから	9	13.0
2	グループホームでの暮らしは自由に決められることが多いと思うから	17	24.6
3	今の生活よりもグループホームで暮らす方が安心だと思うから	7	10.1
4	知り合いや友達がグループホームで暮らしているのを見ていいなと思うから	9	13.0
5	一緒に暮らしている家族に迷惑をかけたくないと思うから	22	31.9
6	このまま自宅で暮らすのが難しくなってきたから	39	56.5
7	今の生活に不満があるから	5	7.2
8	その他	20	29.0
9	回答しない/分からない	7	10.1
	n	69	100.0

<希望しない理由>

グループホームへの入居を希望しない理由については、「日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配だから」が約 47.4%で最も多く、「急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配だから」が約 43.6%でその次に多かった。

図表 72 グループホームへの入居を希望しない理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配だから	63	47.4
2	急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配だから	58	43.6
3	支援員とうまくいくか心配だから	15	11.3
4	他の入居者とうまくいくか心配だから	10	7.5
5	このまま家族と一緒に暮らしたいから	52	39.1
6	災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配だから	18	13.5
7	グループホームに入るのに必要なお金がない/わからないから	11	8.3
8	その他	28	21.1
9	回答しない/分からない	9	6.8
	n	133	100.0

将来的にグループホームへの入居を希望するか

将来的にグループホームへの入居を希望するかについては、「回答しない/分からない」が約 33.7%で最も多く、「希望しない」が約 27.8%でその次に多かった。

図表 73 将来的にグループホームへの入居を希望するか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	希望する	50	18.5
2	こんなグループホームであれば希望する	50	18.5
	(以下、具体的な内容で多い回答)	-	-
	医療面で安心できるグループホームであれば希望する	32	11.9
	個人の意思が尊重され楽しく過ごせるグループホームであれば希望する	9	3.3
3	希望しない	75	27.8
4	その他	4	1.5
5	回答しない/分からない	91	33.7
	n	270	100.0

図表 74 「こんなグループホームであれば希望する」の具体的な内容 (n=50)

自由記述回答の内容
・ 医療面で安心できるグループホーム (32 件) ・ 個人の意思が尊重され楽しく過ごせるグループホーム (9 件) ・ 自宅からアクセスのよい場所やいまと同じ日中活動に通えるような場所にあるグループホーム (6 件) ・ 重度障害でも受け入れが可能なグループホーム (3 件)

図表 75 「希望する」、「こんなグループホームであれば希望する」の理由 (n=100)

自由記述回答の内容
・ 同居している家族が高齢化して、自宅での暮らしに限界が来るかもしれないから (30 件) ・ 今の生活よりもグループホームの方が安心だと思うから (19 件) ・ グループホームで自立した生活を送りたいから (18 件) ・ 自宅で過ごすよりも多くの人と関われると思うから (4 件)

図表 76 「希望しない」の理由 (n=75)

自由記述回答の内容
・ グループホームでは医療的ケアや医療体制に不安があるから (34 件) ・ 障害が重度で意思疎通などが難しく、グループホームでの受入は困難だと思うから (21 件) ・ グループホームではなく入所施設や病院を希望するから (18 件) ・ このまま自宅で家族と暮らしたいから (11 件) ・ 将来的にも今の施設での生活を続けたいから (10 件) ・ グループホームでは虐待等の不安があるから (2 件) ・ グループホームでの生活は経済的な負担が大きいと思うから (2 件)

図表 77 「回答しない/分からない」の理由 (n=91)

自由記述回答の内容	
・ 受入先がないと思うから (26 件)	
・ 選択肢の情報が不足しているから (20 件)	
・ 本人の意思確認が難しく、本人が望むか不明だから (15 件)	
・ 望む地域に適切な選択肢となるグループホーム等がないから (8 件)	
・ 本人がまだ幼いため、いまはわからない (8 件)	
・ 進行性の病気等、将来の見通しが立たないから (8 件)	

もしグループホームで暮らす場合、どんなことを望むか

もしグループホームで暮らす場合、どんなことを望むかについては、「医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること」が最も多く、約 76.7%であった。

図表 78 もしグループホームで暮らす場合、どんなことを望むか (複数回答)

No.	回答	回答数	割合(%)
1	車いすでも暮らせたり、機械浴があるなど、必要な設備が整っていること	149	55.2
2	医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること	207	76.7
3	自分と支援員との相性が良いこと	85	31.5
4	住む地域や日中の居場所など、今とあまり変わらない生活を維持できること	111	41.1
5	食事が美味しいこと	33	12.2
6	建物が綺麗なこと	11	4.1
7	買い物がしやすい地域にあること	1	0.4
8	交通の便が良い地域にあること	16	5.9
9	その他	19	7.0
10	回答しない/分からない	39	14.4
	n	270	100.0

もしグループホームで暮らす場合、何があると安心だと思うか

もしグループホームで暮らす場合、何があると安心だと思うかについては、「医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること」が最も多く、約 81.1%であった。

図表 79 もしグループホームで暮らす場合、何があると安心だと思うか（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医療系の設備が充実していること	142	52.6
2	医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること	219	81.1
3	支援員が多いこと	131	48.5
4	訪問診療や訪問看護が受けられるなど、外部の医療機関との連携体制が確保されていること	183	67.8
5	地域との連携があること	95	35.2
6	事業所の経営基盤が整っていて、経営が安定していること	151	55.9
7	その他	12	4.4
8	回答しない/分からない	25	9.3
	n	270	100.0

もしグループホームで暮らす場合、どんなことが心配か

もしグループホームで暮らす場合、どんなことが心配かについては、「日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配」が約 72.2%で最も多く、「急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配」が約 70.0%でその次に多かった。

図表 80 もしグループホームで暮らす場合、どんなことが心配か（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配	195	72.2
2	急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配	189	70.0
3	支援員とうまくいくか心配	111	41.1
4	他の入居者とうまくいくか心配	43	15.9
5	災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配	139	51.5
6	グループホームに入ったり暮らしていくためのお金が足りるか心配	72	26.7
7	その他	15	5.6
8	回答しない/分からない	34	12.6
	n	270	100.0

<D. クロス集計：すべての医療的ケアを必要とする者への設問>

年代×運動機能

50 代を除く全体の傾向として、「寝たきり」と回答した者が最も多かった。

サンプル数が 30 程度ではあるが、他の年代に比べると 50 代では「寝たきり」が少なく、「歩くことができる」と回答した者が多かった。

図表 81 年代×運動機能

			合計	Q8.運動機能										
				走ることができる	歩くことができる	車椅子等で 自ら移動 ができる	伝い歩きが できる	つかまり立 ちができる	背ばい・腹 ばい・四つ んばいで移 動ができる	座位保持が 可能	寝返りがで きる	寝たきり	その他	回答しない /分からない
Q 4 ・ 年 齢 (統 合)		n	349	23	50	24	27	32	39	83	91	202	15	8
		割合(%)	100.0	6.6	14.3	6.9	7.7	9.2	11.2	23.8	26.1	57.9	4.3	2.3
	18歳未満	n	31	2	3	3	5	6	8	9	11	19	1	0
		割合(%)	100.0	6.5	9.7	9.7	16.1	19.4	25.8	29.0	35.5	61.3	3.2	0.0
	18歳	n	8	0	0	0	0	0	1	2	2	4	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	25.0	50.0	0.0	12.5
	19歳	n	7	0	1	0	0	1	1	1	1	5	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	71.4	0.0	0.0
	20代	n	86	3	5	5	3	3	7	14	15	64	4	2
		割合(%)	100.0	3.5	5.8	5.8	3.5	3.5	8.1	16.3	17.4	74.4	4.7	2.3
	30代	n	84	7	9	2	3	3	6	15	20	52	6	0
		割合(%)	100.0	8.3	10.7	2.4	3.6	3.6	7.1	17.9	23.8	61.9	7.1	0.0
	40代	n	46	0	7	4	0	2	4	12	14	24	1	1
		割合(%)	100.0	0.0	15.2	8.7	0.0	4.3	8.7	26.1	30.4	52.2	2.2	2.2
	50代	n	29	6	11	4	7	9	6	16	13	5	0	1
		割合(%)	100.0	20.7	37.9	13.8	24.1	31.0	20.7	55.2	44.8	17.2	0.0	3.4
	60代	n	30	2	10	1	6	4	3	7	7	14	2	1
		割合(%)	100.0	6.7	33.3	3.3	20.0	13.3	10.0	23.3	23.3	46.7	6.7	3.3
	70代	n	11	1	2	1	1	1	1	1	2	7	0	1
		割合(%)	100.0	9.1	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	18.2	63.6	0.0	9.1
80代以上	n	5	1	0	1	0	0	0	1	2	3	0	0	
	割合(%)	100.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	60.0	0.0	0.0	
回答しない/分からない	n	12	1	2	3	2	3	2	5	4	5	1	1	
	割合(%)	100.0	8.3	16.7	25.0	16.7	25.0	16.7	41.7	33.3	41.7	8.3	8.3	

年代×必要とする医療的ケアの内容

比較的サンプル数の多い 20 代から 50 代にかけては、いくつかの医療的ケアで該当者の割合が減少する傾向が見られた。

図表 82 年代×必要とする医療的ケアの内容

			合計	Q9.必要とする医療的ケアの内容																					
				人工呼吸器 の管理	気管切開の 管理	鼻咽喉エア ウェイの管 理	酸素療法	吸引（口鼻 腔又は気管 内吸引に限 る）	ネブライ ザーの管理	経管栄養 （経鼻胃 管、経鼻腸 管）	経管栄養 （胃ろう、 経胃ろう腸 管、腸ろう 又は食道ろ う）	経管栄養 （持続経管 注入ポンプ 使用）	中心静脈カ テーテルの 管理（中心 静脈栄養、 肺高血圧症 治療薬、麻 薬等）	皮下注射 （インスリ ン、麻薬等 含）	皮下注射 （持続皮下 注射ポンプ の使用）	血糖測定 （持続血糖 測定を含む。 埋め込み 式血糖測定 定以外）	血糖測定 （埋め込み 式血糖測定 による）	継続的な透 析（血液透 析、腹膜透 析）	間欠的導尿 （間隔を空 けて実施す る導尿）	持続的導尿 （尿道留置 カテーテ ル、膀胱う う、腎ろう 又は尿路ス トーマ）	排便管理 （消化管ス トーマ）	排便管理 （摘便、洗 腸、洗腸）	痙攣時にお ける座薬挿 入、吸引、 酸素投与又 は迷走神経 刺激装置の 作動等の処 置	医師の指示 書に基づく ア	回答しない /分からない その他のケ ア
		n	349	58	109	7	50	182	76	34	177	10	1	14	0	8	5	5	21	27	8	148	68	47	30
		割合(%)	100.0	16.6	31.2	2.0	14.3	52.1	21.8	9.7	50.7	2.9	0.3	4.0	0.0	2.3	1.4	1.4	6.0	7.7	2.3	42.4	19.5	13.5	8.6
Q 4 ・ 年 齢 （ 統 合 ）	18歳未満	n	31	8	13	0	9	22	10	3	19	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	14	9	3	0
		割合(%)	100.0	25.8	41.9	0.0	29.0	71.0	32.3	9.7	61.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9	3.2	0.0	45.2	29.0	9.7	0.0
	18歳	n	8	1	3	0	1	3	2	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	0	0
		割合(%)	100.0	12.5	37.5	0.0	12.5	37.5	25.0	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	50.0	0.0	0.0
	19歳	n	7	2	3	0	2	4	2	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1
		割合(%)	100.0	28.6	42.9	0.0	28.6	57.1	28.6	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3
	20代	n	86	20	35	3	19	61	28	14	53	5	0	1	0	1	0	0	7	7	2	46	26	13	1
		割合(%)	100.0	23.3	40.7	3.5	22.1	70.9	32.6	16.3	61.6	5.8	0.0	1.2	0.0	1.2	0.0	0.0	8.1	8.1	2.3	53.5	30.2	15.1	1.2
	30代	n	84	16	26	1	11	48	18	12	45	1	0	5	0	2	2	0	5	2	1	29	16	15	6
		割合(%)	100.0	19.0	31.0	1.2	13.1	57.1	21.4	14.3	53.6	1.2	0.0	6.0	0.0	2.4	2.4	0.0	6.0	2.4	1.2	34.5	19.0	17.9	7.1
	40代	n	46	8	11	1	3	19	9	1	24	0	0	0	0	1	1	1	2	3	1	22	8	1	8
		割合(%)	100.0	17.4	23.9	2.2	6.5	41.3	19.6	2.2	52.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	2.2	4.3	6.5	2.2	47.8	17.4	2.2	17.4
	50代	n	29	0	3	0	1	6	2	0	8	0	0	4	0	1	0	1	0	4	1	13	2	4	2
		割合(%)	100.0	0.0	10.3	0.0	3.4	20.7	6.9	0.0	27.6	0.0	0.0	13.8	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	13.8	3.4	44.8	6.9	13.8	6.9
	60代	n	30	1	8	0	1	10	4	3	8	1	0	4	0	2	2	3	1	5	0	8	1	4	8
		割合(%)	100.0	3.3	26.7	0.0	3.3	33.3	13.3	10.0	26.7	3.3	0.0	13.3	0.0	6.7	6.7	10.0	3.3	16.7	0.0	26.7	3.3	13.3	26.7
	70代	n	11	0	4	2	0	5	0	0	8	0	0	0	0	1	0	0	0	3	3	3	0	3	1
		割合(%)	100.0	0.0	36.4	18.2	0.0	45.5	0.0	0.0	72.7	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	27.3	27.3	27.3	0.0	27.3	9.1
80代以上	n	5	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	
	割合(%)	100.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	
回答しない/分からない	n	12	2	2	0	2	3	1	0	5	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	1	2	3	
	割合(%)	100.0	16.7	16.7	0.0	16.7	25.0	8.3	0.0	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	25.0	8.3	16.7	25.0	

年代×現在の住まい

40代以下は「自宅（家族と同居）」、50代及び60代では「グループホーム」、70代では「医療機関に入院中・療養介護利用中」が最も多かった。

図表 83 年代×現在の住まい

			合計	Q13.現在の住まい						
				自宅（家族 と同居）	自宅（一人 暮らし）	グループ ホーム	障害者支援 施設・重症 心身障害児 者施設	医療機関に 入院中・療 養介護利用 中	その他	回答しない /分からない
		n	349	214	1	79	16	33	4	2
		割合(%)	100.0	61.3	0.3	22.6	4.6	9.5	1.1	0.6
Q 4 ・ 年 齢 （ 統 合 ）	18歳未満	n	31	30	0	0	0	0	1	0
		割合(%)	100.0	96.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0
	18歳	n	8	7	0	0	0	1	0	0
		割合(%)	100.0	87.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
	19歳	n	7	6	0	1	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	n	86	73	0	7	1	5	0	0
		割合(%)	100.0	84.9	0.0	8.1	1.2	5.8	0.0	0.0
	30代	n	84	57	0	15	4	7	1	0
		割合(%)	100.0	67.9	0.0	17.9	4.8	8.3	1.2	0.0
	40代	n	46	22	1	13	6	2	2	0
		割合(%)	100.0	47.8	2.2	28.3	13.0	4.3	4.3	0.0
	50代	n	29	7	0	20	0	2	0	0
		割合(%)	100.0	24.1	0.0	69.0	0.0	6.9	0.0	0.0
	60代	n	30	5	0	13	4	8	0	0
		割合(%)	100.0	16.7	0.0	43.3	13.3	26.7	0.0	0.0
	70代	n	11	1	0	3	0	6	0	1
		割合(%)	100.0	9.1	0.0	27.3	0.0	54.5	0.0	9.1
	80代以上	n	5	0	0	3	0	2	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0
回答しない/分からない		n	12	6	0	4	1	0	0	1
		割合(%)	100.0	50.0	0.0	33.3	8.3	0.0	0.0	8.3

障害支援区分×現在の住まい

現在の住まいにかかわらず、障害支援区分は「区分6」の者が最も多かった。また、現在の住まいを「グループホーム」と回答した者のうち半数近くは、障害支援区分が「区分5」以下だった。

図表 84 障害支援区分×現在の住まい

			合計	Q6.障害支援区分									
				非該当（区分1から区分6のどれにも当てはまらない）	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未認定（障害支援区分認定調査をしていない）	その他	回答しない/分からない
		n	349	4	14	8	9	10	17	224	26	5	32
		割合(%)	100.0	1.1	4.0	2.3	2.6	2.9	4.9	64.2	7.4	1.4	9.2
Q13 現在の住まい	自宅（家族と同居）	n	214	2	11	0	0	0	2	153	19	2	25
		割合(%)	100.0	0.9	5.1	0.0	0.0	0.0	0.9	71.5	8.9	0.9	11.7
	自宅（一人暮らし）	n	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	グループホーム	n	79	1	2	6	8	10	13	36	2	0	1
		割合(%)	100.0	1.3	2.5	7.6	10.1	12.7	16.5	45.6	2.5	0.0	1.3
	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	n	16	0	0	2	0	0	1	10	0	0	3
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	6.3	62.5	0.0	0.0	18.8
	医療機関に入院中・療養介護利用中	n	33	0	1	0	1	0	1	21	5	2	2
		割合(%)	100.0	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	63.6	15.2	6.1	6.1
	その他	n	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0
	回答しない/分からない	n	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		割合(%)	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

本人から他者へのコミュニケーション手段×現在の住まい

サンプル数が30を超えるものでは、本人から他者へのコミュニケーション手段を「表情、目の動き」、「声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり」及び「上記のいずれにおいてもコミュニケーションを図ることが難しい」と回答した者の6割以上は現在の住まいを「自宅（家族と同居）」と回答した。

また、本人から他者へのコミュニケーション手段を「会話」と回答した者の6割以上は現在の住まいを「グループホーム」と回答した。

図表 85 本人から他者へのコミュニケーション手段×現在の住まい

			合計	Q13.現在の住まい						
				自宅（家族と同居）	自宅（一人暮らし）	グループホーム	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	医療機関に入院中・療養介護利用中	その他	回答しない/分からない
手段 Q7 ・本人から他者へのコミュニケーション ケース ーション		n	349	214	1	79	16	33	4	2
		割合(%)	100.0	61.3	0.3	22.6	4.6	9.5	1.1	0.6
	表情、目の動き	n	216	146	1	34	10	21	3	1
		割合(%)	100.0	67.6	0.5	15.7	4.6	9.7	1.4	0.5
	声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり	n	128	84	1	26	6	9	2	0
		割合(%)	100.0	65.6	0.8	20.3	4.7	7.0	1.6	0.0
	単語による意思表示	n	35	15	0	15	3	2	0	0
		割合(%)	100.0	42.9	0.0	42.9	8.6	5.7	0.0	0.0
	会話	n	66	16	0	46	3	0	0	1
		割合(%)	100.0	24.2	0.0	69.7	4.5	0.0	0.0	1.5
	手話	n	3	1	0	0	0	2	0	0
		割合(%)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
	文字盤	n	3	1	0	2	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	意思伝達装置	n	6	6	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	上記のいずれにおいてもコミュニケーションを図ることが難しい	n	60	43	0	4	3	9	1	0
		割合(%)	100.0	71.7	0.0	6.7	5.0	15.0	1.7	0.0
その他	n	17	13	0	1	1	1	0	1	
	割合(%)	100.0	76.5	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0	5.9	
回答しない/分からない	n	6	4	0	1	0	1	0	0	
	割合(%)	100.0	66.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	

運動機能×現在の住まい

運動機能を「走ることができる」、「歩くことができる」と回答した者については現在の住まいを「グループホーム」と回答した者が最も多く、いずれも7割以上であった。運動機能を「寝たきり」と回答した者については現在の住まいを「自宅（家族と同居）」と回答した者が最も多く、7割以上であった。

図表 86 運動機能×現在の住まい

			合計	Q13.現在の住まい						
				自宅（家族と同居）	自宅（一人暮らし）	グループホーム	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	医療機関に入院中・療養介護利用中	その他	回答しない/分からない
		n	349	214	1	79	16	33	4	2
		割合(%)	100.0	61.3	0.3	22.6	4.6	9.5	1.1	0.6
Q8・運動機能	走ることができる	n	23	3	0	19	0	1	0	0
		割合(%)	100.0	13.0	0.0	82.6	0.0	4.3	0.0	0.0
	歩くことができる	n	50	11	0	37	0	2	0	0
		割合(%)	100.0	22.0	0.0	74.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	車椅子等で自ら移動ができる	n	24	10	0	13	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	41.7	0.0	54.2	4.2	0.0	0.0	0.0
	伝い歩きができる	n	27	8	0	19	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	29.6	0.0	70.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	つかまり立ちができる	n	32	11	0	20	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	34.4	0.0	62.5	3.1	0.0	0.0	0.0
	背ばい・腹ばい・四つんばいで移動ができる	n	39	20	0	16	2	1	0	0
		割合(%)	100.0	51.3	0.0	41.0	5.1	2.6	0.0	0.0
	座位保持が可能	n	83	38	0	36	5	3	1	0
		割合(%)	100.0	45.8	0.0	43.4	6.0	3.6	1.2	0.0
	寝返りができる	n	91	44	1	37	5	2	2	0
		割合(%)	100.0	48.4	1.1	40.7	5.5	2.2	2.2	0.0
	寝たきり	n	202	151	0	15	8	26	2	0
		割合(%)	100.0	74.8	0.0	7.4	4.0	12.9	1.0	0.0
	その他	n	15	10	0	2	1	0	1	1
		割合(%)	100.0	66.7	0.0	13.3	6.7	0.0	6.7	6.7
	回答しない/分からない	n	8	3	0	1	1	2	0	1
		割合(%)	100.0	37.5	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0	12.5

現在の住まい×必要とする医療的ケアの内容

共同生活援助事業所で暮らす者が必要とする医療的ケアの種類としては、「排便管理（排便、洗腸、浣腸）」（25.3%）や「経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）」（19.0%）、「吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）」（15.2%）が多かった。

自宅や施設等で暮らす者も医療的ケアの種類は同様であったが割合が大きく異なり、例えば自宅で家族と暮らす者は半数以上が「吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）」（66.8%）、「経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）」（58.9%）といった医療的ケアが必要と回答した。

図表 87 現在の住まい×必要とする医療的ケアの内容

			合計	Q9.必要とする医療的ケアの内容																					
			人工呼吸器の管理	気管切開の管理	鼻咽喉頭エアウェイの管理	酸素療法	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	ネブライザーの管理	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	経管栄養（胃ろう、経胃腸管、腸ろう又は食道ろう）	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	排便管理（消化管ストーマ）	排便管理（摘便、洗腸、洗腸）	瘻管時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	医師の指示に基づくその他のケア	回答しない/分からない	
		n	349	58	109	7	50	182	76	34	177	10	1	14	0	8	5	5	21	27	8	148	68	47	30
		割合(%)	100.0	16.6	31.2	2.0	14.3	52.1	21.8	9.7	50.7	2.9	0.3	4.0	0.0	2.3	1.4	1.4	6.0	7.7	2.3	42.4	19.5	13.5	8.6
Q13 現在の住まい	自宅（家族と同居）	n	214	49	82	5	46	143	61	27	126	9	1	2	0	1	1	0	16	7	3	104	58	33	10
		割合(%)	100.0	22.9	38.3	2.3	21.5	66.8	28.5	12.6	58.9	4.2	0.5	0.9	0.0	0.5	0.5	0.0	7.5	3.3	1.4	48.6	27.1	15.4	4.7
	自宅（一人暮らし）	n	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	グループホーム	n	79	3	6	0	3	12	5	1	15	0	0	11	0	5	4	5	4	10	3	20	6	6	13
		割合(%)	100.0	3.8	7.6	0.0	3.8	15.2	6.3	1.3	19.0	0.0	0.0	13.9	0.0	6.3	5.1	6.3	5.1	12.7	3.8	25.3	7.6	7.6	16.5
	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	n	16	2	4	1	1	8	2	2	8	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4	1	0	3
		割合(%)	100.0	12.5	25.0	6.3	6.3	50.0	12.5	12.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0	25.0	6.3	0.0	18.8
	医療機関に入院中・療養介護利用中	n	33	4	17	1	0	16	6	4	25	1	0	1	0	2	0	0	0	7	2	15	3	7	2
		割合(%)	100.0	12.1	51.5	3.0	0.0	48.5	18.2	12.1	75.8	3.0	0.0	3.0	0.0	6.1	0.0	0.0	0.0	21.2	6.1	45.5	9.1	21.2	6.1
	その他	n	4	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	25.0	0.0
回答しない/分からない	n	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

現在の住まい×平日の日中に最も時間を長く過ごす場所

現在の住まいを「自宅（家族と同居）」と回答した者のうち、平日の日中に最も時間を長く過ごす場所を「生活介護事業所」と回答した者が最も多く、59.8%であった。

現在の住まいを「グループホーム」と回答した者では、「グループホーム」と回答した者が最も多く、50.6%であった。次いで、「生活介護事業所」が35.4%、「就労継続支援A型事業所または就労継続支援B型事業所」が16.5%であった。

図表 88 現在の住まい×平日の日中に最も時間を長く過ごす場所

			合計	Q12.平日の日中に最も時間を長く過ごす場所							回答しない /分からない
				生活介護事業所	就労継続支援A型事業所または就労継続支援B型事業所	就労先	学校・放課後等デイサービス・保育園等	自宅	グループホーム	その他	
		n	349	165	15	5	36	71	42	44	10
		割合(%)	100.0	47.3	4.3	1.4	10.3	20.3	12.0	12.6	2.9
Q13.現在の住まい	自宅（家族と同居）	n	214	128	2	0	34	70	1	3	0
		割合(%)	100.0	59.8	0.9	0.0	15.9	32.7	0.5	1.4	0.0
	自宅（一人暮らし）	n	1	1	0	0	0	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	グループホーム	n	79	28	13	5	0	0	40	5	0
		割合(%)	100.0	35.4	16.5	6.3	0.0	0.0	50.6	6.3	0.0
	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	n	16	2	0	0	0	0	1	13	1
		割合(%)	100.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	81.3	6.3
	医療機関に入院中・療養介護利用中	n	33	3	0	0	1	0	0	23	7
		割合(%)	100.0	9.1	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	69.7	21.2
	その他	n	4	3	0	0	1	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	回答しない/分からない	n	2	0	0	0	0	0	0	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

< E. クロス集計：グループホーム事業所で暮らしている方への設問 >

年代×入居する時点で医療的ケアが必要だったか

「入居する時点で医療的ケアが必要だった」について、若い世代ほど回答した者の割合が高い傾向が見られた。なお、サンプル数が十分ではない点に留意が必要である。

図表 89 年代×入居する時点で医療的ケアが必要だったか

			合計	Q15.入居する時点で医療的ケアが必要だったか			
				入居する時点で医療的ケアが必要だった	グループホームに入居している間に医療的ケアが必要になった	その他	回答しない/分からない
		n	79	42	19	7	11
		割合(%)	100.0	53.2	24.1	8.9	13.9
Q 4 ・ 年 齢 (統 合)	18歳未満	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18歳	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	19歳	n	1	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	20代	n	7	5	0	1	1
		割合(%)	100.0	71.4	0.0	14.3	14.3
	30代	n	15	8	3	3	1
		割合(%)	100.0	53.3	20.0	20.0	6.7
	40代	n	13	9	1	0	3
		割合(%)	100.0	69.2	7.7	0.0	23.1
	50代	n	20	9	6	2	3
		割合(%)	100.0	45.0	30.0	10.0	15.0
	60代	n	13	7	4	1	1
		割合(%)	100.0	53.8	30.8	7.7	7.7
	70代	n	3	1	2	0	0
		割合(%)	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	80代以上	n	3	2	1	0	0
		割合(%)	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
回答しない/分からない		n	4	1	2	0	1
		割合(%)	100.0	25.0	50.0	0.0	25.0

障害支援区分×入居を断られたことがあるか

「入居を断られたことがない」について、区分1を除き、障害支援区分が重いほど回答した者の割合が低い傾向が見られた。なお、サンプル数が十分ではない点に留意が必要である。

図表 90 障害支援区分×入居を断られたことがあるか

			合計	Q19.入居を断られたことがあるか			
				ある	ない	その他	回答しない /分からない
		n	79	12	49	1	17
		割合(%)	100.0	15.2	62.0	1.3	21.5
Q6 ・ 障害 支援 区分	非該当（区分1から区分6のどれにも当てはまらない）	n	1	0	1	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	区分1	n	2	1	1	0	0
		割合(%)	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	区分2	n	6	0	5	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	83.3	0.0	16.7
	区分3	n	8	1	6	0	1
		割合(%)	100.0	12.5	75.0	0.0	12.5
	区分4	n	10	2	7	0	1
		割合(%)	100.0	20.0	70.0	0.0	10.0
	区分5	n	13	1	7	0	5
		割合(%)	100.0	7.7	53.8	0.0	38.5
	区分6	n	36	7	21	1	7
		割合(%)	100.0	19.4	58.3	2.8	19.4
	未認定（障害支援区分認定調査をしていない）	n	2	0	1	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	その他	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	回答しない/分からない	n	1	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

本人から他者へのコミュニケーション手段×入居を断られたことがあるか

サンプル数が 10 を超えるものの中では、入居を断られたことの有無について、本人から他者へのコミュニケーション手段による傾向は見られなかった。

図表 91 本人から他者へのコミュニケーション手段×入居を断られたことがあるか

			合計	Q19.入居を断られたことがあるか			
				ある	ない	その他	回答しない /分からない
		n	79	12	49	1	17
		割合(%)	100.0	14.6	59.8	1.2	20.7
Q7 ・本人から他者へのコミュニケーション手段	表情、目の動き	n	34	5	22	1	6
		割合(%)	100.0	13.9	61.1	2.8	16.7
	声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり	n	26	4	17	0	5
		割合(%)	100.0	14.8	63.0	0.0	18.5
	単語による意思表示	n	15	2	7	0	6
		割合(%)	100.0	13.3	46.7	0.0	40.0
	会話	n	46	6	31	0	9
		割合(%)	100.0	13.0	67.4	0.0	19.6
	手話	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文字盤	n	2	1	1	0	0
		割合(%)	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	意思伝達装置	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	上記のいずれにおいてもコミュニケーションを図ることが難し	n	4	2	1	0	1
		割合(%)	100.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	その他	n	1	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
回答しない/分からない	n	1	0	0	0	1	
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

運動機能×入居を断られたことがあるか

入居を断られたことの有無について、運動機能による傾向は見られなかった。

図表 92 運動機能×入居を断られたことがあるか

			合計	Q19.入居を断られたことがあるか			
				ある	ない	その他	回答しない /分からない
		n	79	12	49	1	17
		割合(%)	100.0	15.2	62.0	1.3	21.5
Q8・運動機能	走ることができる	n	19	5	11	0	3
		割合(%)	100.0	26.3	57.9	0.0	15.8
	歩くことができる	n	37	7	22	0	8
		割合(%)	100.0	18.9	59.5	0.0	21.6
	車椅子等で自ら移動ができる	n	13	2	9	0	2
		割合(%)	100.0	15.4	69.2	0.0	15.4
	伝い歩きができる	n	19	2	9	0	8
		割合(%)	100.0	10.5	47.4	0.0	42.1
	つかまり立ちができる	n	20	2	11	1	6
		割合(%)	100.0	10.0	55.0	5.0	30.0
	背ばい・腹ばい・四つんばいで移動ができる	n	16	2	10	1	3
		割合(%)	100.0	12.5	62.5	6.3	18.8
	座位保持が可能	n	36	5	21	1	9
		割合(%)	100.0	13.9	58.3	2.8	25.0
	寝返りができる	n	37	6	22	1	8
		割合(%)	100.0	16.2	59.5	2.7	21.6
	寝たきり	n	15	3	9	0	3
		割合(%)	100.0	20.0	60.0	0.0	20.0
	その他	n	2	0	1	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0
回答しない/分からない	n	1	0	1	0	0	
	割合(%)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

必要とする医療的ケアの内容×入居を断られたことがあるか

入居を断られたことが「ある」と回答した者の割合について、医療的ケアの内容による傾向は見られなかった。なお、サンプル数が十分ではない点に留意が必要である。

図表 93 必要とする医療的ケアの内容×入居を断られたことがあるか

			合計	Q19.入居を断られたことがあるか			
				ある	ない	その他	回答しない /分からない
		n	79	12	49	1	17
		割合(%)	100.0	15.2	62.0	1.3	21.5
Q 9 ・ 必 要 と す る 医 療 的 ケ ア の 内 容	人工呼吸器の管理	n	3	0	2	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	66.7	0.0	33.3
	気管切開の管理	n	6	1	4	0	1
		割合(%)	100.0	16.7	66.7	0.0	16.7
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	酸素療法	n	3	0	2	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	66.7	0.0	33.3
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n	12	2	8	0	2
		割合(%)	100.0	16.7	66.7	0.0	16.7
	ネブライザーの管理	n	5	1	3	0	1
		割合(%)	100.0	20.0	60.0	0.0	20.0
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n	1	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n	15	3	10	0	2
		割合(%)	100.0	20.0	66.7	0.0	13.3
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n	11	0	10	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	90.9	0.0	9.1
	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n	5	1	3	0	1
		割合(%)	100.0	20.0	60.0	0.0	20.0
	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n	4	0	4	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n	5	1	1	0	3
		割合(%)	100.0	20.0	20.0	0.0	60.0
	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n	4	1	3	0	0
		割合(%)	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n	10	2	8	0	0
		割合(%)	100.0	20.0	80.0	0.0	0.0
	排便管理（消化管ストーマ）	n	3	0	2	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	66.7	0.0	33.3
	排便管理（排便、洗腸、浣腸）	n	20	4	13	0	3
		割合(%)	100.0	20.0	65.0	0.0	15.0
	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n	6	1	4	0	1
		割合(%)	100.0	16.7	66.7	0.0	16.7
	医師の指示書に基づくその他のケア	n	6	1	2	0	3
		割合(%)	100.0	16.7	33.3	0.0	50.0
	回答しない/分からない	n	13	3	5	1	4
		割合(%)	100.0	23.1	38.5	7.7	30.8

必要とする医療的ケアの内容×入居する時点で医療的ケアが必要だったか

入居する時点での医療的ケアの有無について、多くの医療的ケアで「入居する時点で医療的ケアが必要だった」と回答した者が最も多く、7割近くであった。経管栄養、血糖測定、持続的導尿等の一部の医療的ケアについては、「グループホームに入居している間に医療的ケアが必要になった」と回答した者が4割以上であった。なお、サンプル数が十分ではない点に留意が必要である。

図表 94 必要とする医療的ケアの内容×入居する時点で医療的ケアが必要だったか

			合計	Q15.入居する時点で医療的ケアが必要だったか			
				入居する時点で医療的ケアが必要だった	グループ ホームに入居している間に医療的ケアが必要になった	その他	回答しない/分からない
		n	79	42	19	7	11
		割合(%)	100.0	53.2	24.1	8.9	13.9
Q9 ・必要とする医療的ケアの内容	人工呼吸器の管理	n	3	2	1	0	0
		割合(%)	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	気管切開の管理	n	6	4	2	0	0
		割合(%)	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	鼻咽頭エアウェイの管理	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	酸素療法	n	3	3	0	0	0
		割合(%)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n	12	9	3	0	0
		割合(%)	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	ネブライザーの管理	n	5	4	1	0	0
		割合(%)	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n	1	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n	15	9	6	0	0
		割合(%)	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n	11	7	4	0	0
		割合(%)	100.0	63.6	36.4	0.0	0.0
	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n	5	3	2	0	0
		割合(%)	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n	4	2	2	0	0
		割合(%)	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n	5	4	1	0	0
		割合(%)	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0
	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n	4	4	0	0	0
		割合(%)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n	10	5	5	0	0
		割合(%)	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	排便管理（消化管ストーマ）	n	3	2	1	0	0
		割合(%)	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	排便管理（摘便、洗腸、浣腸）	n	20	14	5	0	1
		割合(%)	100.0	70.0	25.0	0.0	5.0
	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n	6	4	2	0	0
		割合(%)	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	医師の指示書に基づくその他のケア	n	6	3	2	1	0
		割合(%)	100.0	50.0	33.3	16.7	0.0
	回答しない/分からない	n	13	2	0	1	10
		割合(%)	100.0	15.4	0.0	7.7	76.9

< F. クロス集計：グループホーム事業所で暮らしていない方への設問 >

年代×現在の暮らしの心配ごと

比較的サンプル数の多い 20 代から 40 代では、年代が上がるにつれて「身体機能が低下してきていることが心配」と回答する者の割合が増え、「一緒に暮らす家族が高齢になってきて、今の生活をいつまで続けることができるか心配」と回答する者の割合が減る傾向が見られた。

図表 95 年代×現在の暮らしの心配ごと

			合計	Q40.現在の暮らしの心配ごと						
				特に心配な ことはない	体調が悪く なった時に どうしたら 良いか心配	身体機能が 低下してき ていること が心配	一緒に暮ら す家族が高 齢になって きて、今の 生活をいつ まで続ける ことができ るか心配	災害時に無 事に避難し たり生活を 維持できる か心配	その他	回答しない /分からない
		n	270	14	77	92	170	144	17	15
		割合(%)	100.0	5.2	28.5	34.1	63.0	53.3	6.3	5.6
Q 4 ・ 年 齢 (統 合)	18歳未満	n	31	3	9	7	16	21	4	2
		割合(%)	100.0	9.7	29.0	22.6	51.6	67.7	12.9	6.5
	18歳	n	8	1	6	3	4	5	1	0
		割合(%)	100.0	12.5	75.0	37.5	50.0	62.5	12.5	0.0
	19歳	n	6	0	4	2	4	6	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	66.7	33.3	66.7	100.0	0.0	0.0
	20代	n	79	3	25	20	61	52	6	1
		割合(%)	100.0	3.8	31.6	25.3	77.2	65.8	7.6	1.3
	30代	n	69	1	11	25	52	33	2	5
		割合(%)	100.0	1.4	15.9	36.2	75.4	47.8	2.9	7.2
	40代	n	33	3	7	15	18	14	2	0
		割合(%)	100.0	9.1	21.2	45.5	54.5	42.4	6.1	0.0
	50代	n	9	0	3	5	4	5	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	33.3	55.6	44.4	55.6	0.0	22.2
	60代	n	17	2	6	9	5	6	0	2
		割合(%)	100.0	11.8	35.3	52.9	29.4	35.3	0.0	11.8
	70代	n	8	1	2	3	2	0	0	2
		割合(%)	100.0	12.5	25.0	37.5	25.0	0.0	0.0	25.0
	80代以上	n	2	0	0	1	0	0	1	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	回答しない/分からない	n	8	0	4	2	4	2	1	1
		割合(%)	100.0	0.0	50.0	25.0	50.0	25.0	12.5	12.5

年代×グループホームへの入居を希望するか、将来的にグループホームへの入居を希望するか

グループホームへの入居希望について、「希望しない」と回答したのは「19歳」が最も多く8割を超えており、次いで「70代」でも7割を超えていた。なお、サンプル数が十分ではない点に留意が必要である。

図表 96「現在の入居希望」と図表 97「将来的な入居希望」の2表を比較すると、ほとんどすべての年代で将来的な入居希望の方が、「希望する」、「こんなグループホームであれば希望する」と回答した人数の合計が多かった。

図表 96 年代×グループホームへの入居を希望するか

			合計	Q41.グループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	25	44	133	9	59
		割合(%)	100.0	9.3	16.3	49.3	3.3	21.9
Q 4 ・ 年 齢 (統 合)	18歳未満	n	31	2	3	19	0	7
		割合(%)	100.0	6.5	9.7	61.3	0.0	22.6
	18歳	n	8	2	2	2	0	2
		割合(%)	100.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
	19歳	n	6	1	0	5	0	0
		割合(%)	100.0	16.7	0.0	83.3	0.0	0.0
	20代	n	79	10	14	36	3	16
		割合(%)	100.0	12.7	17.7	45.6	3.8	20.3
	30代	n	69	5	12	38	2	12
		割合(%)	100.0	7.2	17.4	55.1	2.9	17.4
	40代	n	33	2	8	15	2	6
		割合(%)	100.0	6.1	24.2	45.5	6.1	18.2
	50代	n	9	1	2	2	1	3
		割合(%)	100.0	11.1	22.2	22.2	11.1	33.3
	60代	n	17	2	0	9	1	5
		割合(%)	100.0	11.8	0.0	52.9	5.9	29.4
	70代	n	8	0	0	6	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0
	80代以上	n	2	0	0	0	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	回答しない/分からない	n	8	0	3	1	0	4
		割合(%)	100.0	0.0	37.5	12.5	0.0	50.0

図表 97 年代×将来的にグループホームへの入居を希望するか

			合計	Q44.将来的にグループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	50	50	75	4	91
		割合(%)	100.0	18.5	18.5	27.8	1.5	33.7
Q 4 ・ 年 齢 (統 合)	18歳未満	n	31	8	4	8	1	10
		割合(%)	100.0	25.8	12.9	25.8	3.2	32.3
	18歳	n	8	3	1	2	0	2
		割合(%)	100.0	37.5	12.5	25.0	0.0	25.0
	19歳	n	6	1	3	0	0	2
		割合(%)	100.0	16.7	50.0	0.0	0.0	33.3
	20代	n	79	19	15	12	2	31
		割合(%)	100.0	24.1	19.0	15.2	2.5	39.2
	30代	n	69	11	15	23	0	20
		割合(%)	100.0	15.9	21.7	33.3	0.0	29.0
	40代	n	33	5	6	15	1	6
		割合(%)	100.0	15.2	18.2	45.5	3.0	18.2
	50代	n	9	1	2	2	0	4
		割合(%)	100.0	11.1	22.2	22.2	0.0	44.4
	60代	n	17	2	1	7	0	7
		割合(%)	100.0	11.8	5.9	41.2	0.0	41.2
	70代	n	8	0	0	6	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0
80代以上	n	2	0	0	0	0	2	
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
回答しない/分からない	n	8	0	3	0	0	5	
	割合(%)	100.0	0.0	37.5	0.0	0.0	62.5	

障害支援区分×グループホームへの入居を希望するか、将来的にグループホームへの入居を希望するか

グループホームへの入居希望について、「区分6」以外のサンプル数が十分でなく、障害支援区分の違いによる有意な傾向は見られなかった。

図表 98 障害支援区分×グループホームへの入居を希望するか

			合計	Q41.グループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	25	44	133	9	59
		割合(%)	100.0	9.3	16.3	49.3	3.3	21.9
Q6・障害支援区分	非該当（区分1から区分6のどれにも当てはまらない）	n	3	0	1	1	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
	区分1	n	12	2	1	3	1	5
		割合(%)	100.0	16.7	8.3	25.0	8.3	41.7
	区分2	n	2	0	0	1	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	区分3	n	1	0	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	区分4	n	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	区分5	n	4	1	1	1	0	1
		割合(%)	100.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
	区分6	n	188	17	34	96	8	33
		割合(%)	100.0	9.0	18.1	51.1	4.3	17.6
	未認定（障害支援区分認定調査をしていない）	n	24	0	4	12	0	8
		割合(%)	100.0	0.0	16.7	50.0	0.0	33.3
	その他	n	5	0	1	2	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0
	回答しない/分からない	n	31	5	2	17	0	7
		割合(%)	100.0	16.1	6.5	54.8	0.0	22.6

図表 99 障害支援区分×将来的にグループホームへの入居を希望するか

			合計	Q44.将来的にグループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	50	50	75	4	91
		割合(%)	100.0	18.5	18.5	27.8	1.5	33.7
Q6・障害支援区分	非該当（区分1から区分6のどれにも当てはまらない）	n	3	1	0	0	0	2
		割合(%)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7
	区分1	n	12	3	1	1	1	6
		割合(%)	100.0	25.0	8.3	8.3	8.3	50.0
	区分2	n	2	0	0	1	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	区分3	n	1	0	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	区分4	n	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	区分5	n	4	1	1	0	0	2
		割合(%)	100.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0
	区分6	n	188	34	39	55	2	58
		割合(%)	100.0	18.1	20.7	29.3	1.1	30.9
	未認定（障害支援区分認定調査をしていない）	n	24	4	3	6	1	10
		割合(%)	100.0	16.7	12.5	25.0	4.2	41.7
	その他	n	5	0	1	2	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0
	回答しない/分からない	n	31	7	5	10	0	9
		割合(%)	100.0	22.6	16.1	32.3	0.0	29.0

本人から他者へのコミュニケーション手段×グループホームへの入居を希望するか、将来的にグループホームへの入居を希望するか

グループホームへの入居希望について、本人から他者へのコミュニケーション手段による有意な傾向は見られなかった。

図表 100「現在の入居希望」と図表 101「将来的な入居希望」の2表を比較すると、本人から他者へのコミュニケーション手段を「表情、目の動き」と回答した者では、「将来的な入居希望」の方が「希望する」と回答した者が2倍多かった。

図表 100 本人から他者へのコミュニケーション手段×グループホームへの入居を希望するか

			合計	Q41.グループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	25	44	133	9	59
		割合(%)	100.0	9.3	16.3	49.3	3.3	21.9
Q7・本人から他者へのコミュニケーション手段	表情、目の動き	n	182	17	34	91	6	34
		割合(%)	100.0	9.3	18.7	50.0	3.3	18.7
	声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり	n	102	10	25	38	4	25
		割合(%)	100.0	9.8	24.5	37.3	3.9	24.5
	単語による意思表示	n	20	0	5	10	1	4
		割合(%)	100.0	0.0	25.0	50.0	5.0	20.0
	会話	n	20	1	2	13	1	3
		割合(%)	100.0	5.0	10.0	65.0	5.0	15.0
	手話	n	3	0	0	2	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
	文字盤	n	1	0	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	意思伝達装置	n	6	0	0	3	1	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	50.0	16.7	33.3
	上記のいずれにおいてもコミュニケーションを図ることが難し	n	56	7	7	27	2	13
		割合(%)	100.0	12.5	12.5	48.2	3.6	23.2
その他	n	16	0	2	8	2	4	
	割合(%)	100.0	0.0	12.5	50.0	12.5	25.0	
回答しない/分からない	n	5	0	0	1	0	4	
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	

図表 101 本人から他者へのコミュニケーション手段×将来的にグループホームへの入居を希望するか

			合計	Q44.将来的にグループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	50	50	75	4	91
		割合(%)	100.0	18.5	18.5	27.8	1.5	33.7
Q7・本人から他者へのコミュニケーション手段	表情、目の動き	n	182	34	41	45	2	60
		割合(%)	100.0	18.7	22.5	24.7	1.1	33.0
	声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり	n	102	20	24	19	0	39
		割合(%)	100.0	19.6	23.5	18.6	0.0	38.2
	単語による意思表示	n	20	3	5	7	0	5
		割合(%)	100.0	15.0	25.0	35.0	0.0	25.0
	会話	n	20	3	2	8	0	7
		割合(%)	100.0	15.0	10.0	40.0	0.0	35.0
	手話	n	3	1	0	1	0	1
		割合(%)	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
	文字盤	n	1	0	1	0	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	意思伝達装置	n	6	0	0	4	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
	上記のいずれにおいてもコミュニケーションを図ることが難し	n	56	12	7	20	2	15
		割合(%)	100.0	21.4	12.5	35.7	3.6	26.8
その他	n	16	3	3	3	1	6	
	割合(%)	100.0	18.8	18.8	18.8	6.3	37.5	
回答しない/分からない	n	5	0	0	0	0	5	
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

運動機能×グループホームへの入居を希望するか、将来的にグループホームへの入居を希望するか

グループホームへの入居を「希望しない」については、運動機能が「寝たきり」と回答した者の割合が最も多かった。

図表 102「現在の入居希望」と図表 103「将来的な入居希望」の2表を比較すると、運動機能が「寝たきり」の者では、「将来的な入居希望」の方が「希望する」と回答した者が2倍以上多かった。

図表 102 運動機能×グループホームへの入居を希望するか

			合計	Q41.グループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分らない
		n	270	25	44	133	9	59
		割合(%)	100.0	9.3	16.3	49.3	3.3	21.9
Q8・運動機能	走ることができる	n	4	1	0	2	0	1
		割合(%)	100.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0
	歩くことができる	n	13	3	4	5	0	1
		割合(%)	100.0	23.1	30.8	38.5	0.0	7.7
	車椅子等で自ら移動ができる	n	11	2	2	5	0	2
		割合(%)	100.0	18.2	18.2	45.5	0.0	18.2
	伝い歩きができる	n	8	1	2	4	0	1
		割合(%)	100.0	12.5	25.0	50.0	0.0	12.5
	つかまり立ちができる	n	12	2	2	6	0	2
		割合(%)	100.0	16.7	16.7	50.0	0.0	16.7
	背ばい・腹ばい・四つんばいで移動ができる	n	23	3	9	7	1	3
		割合(%)	100.0	13.0	39.1	30.4	4.3	13.0
	座位保持が可能	n	47	3	12	19	1	12
		割合(%)	100.0	6.4	25.5	40.4	2.1	25.5
	寝返りができる	n	54	4	16	24	3	7
		割合(%)	100.0	7.4	29.6	44.4	5.6	13.0
	寝たきり	n	187	13	24	101	6	43
		割合(%)	100.0	7.0	12.8	54.0	3.2	23.0
	その他	n	13	1	4	5	0	3
		割合(%)	100.0	7.7	30.8	38.5	0.0	23.1
	回答しない/分からない	n	7	2	0	1	0	4
		割合(%)	100.0	28.6	0.0	14.3	0.0	57.1

図表 103 運動機能×将来的にグループホームへの入居を希望するか

			合計	Q44.将来的にグループホームへの入居を希望するか					
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない	
		n	270	50	50	75	4	54	
		割合(%)	100.0	18.5	18.5	27.8	1.5	20.0	
Q8・運動機能	走ることができる	n	4	2	0	0	0	2	
		割合(%)	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	歩くことができる	n	13	6	4	1	0	6	
		割合(%)	100.0	46.2	30.8	7.7	0.0	46.2	
	車椅子等で自ら移動ができる	n	11	3	2	3	0	3	
		割合(%)	100.0	27.3	18.2	27.3	0.0	27.3	
	伝い歩きができる	n	8	3	2	2	0	3	
		割合(%)	100.0	37.5	25.0	25.0	0.0	37.5	
	つかまり立ちができる	n	12	4	4	1	0	4	
		割合(%)	100.0	33.3	33.3	8.3	0.0	33.3	
	背ばい・腹ばい・四つんばいで移動ができる	n	23	5	7	4	1	6	
		割合(%)	100.0	21.7	30.4	17.4	4.3	26.1	
	座位保持が可能	n	47	6	12	12	0	6	
		割合(%)	100.0	12.8	25.5	25.5	0.0	12.8	
	寝返りができる	n	54	8	15	16	0	8	
		割合(%)	100.0	14.8	27.8	29.6	0.0	14.8	
	寝たきり	n	187	32	31	56	3	35	
		割合(%)	100.0	17.1	16.6	29.9	1.6	18.7	
	その他	n	13	5	2	3	0	5	
		割合(%)	100.0	38.5	15.4	23.1	0.0	38.5	
	回答しない/分からない	n	7	2	0	0	0	2	
		割合(%)	100.0	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	

必要とする医療的ケアの内容×グループホームへの入居を希望するか、将来的にグループホームへの入居を希望するか

グループホームへの入居希望について、サンプル数が十分でないものも多く、必要とする医療的ケアの内容による有意な傾向は明らかにならなかった。

図表 104「現在の入居希望」と図表 105「将来的な入居希望」の2表を比較すると、サンプル数が30以上あるすべての医療的ケアについて、「将来的な入居希望」の方が、「希望する」、「こんなグループホームであれば希望する」と回答した人数の合計が多かった。

図表 104 必要とする医療的ケアの内容×グループホームへの入居を希望するか

			合計	Q41.グループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	25	44	133	9	59
		割合(%)	100.0	9.3	16.3	49.3	3.3	21.9
Q9・必要とする医療的ケアの内容	人工呼吸器の管理	n	55	4	6	35	2	8
		割合(%)	100.0	7.3	10.9	63.6	3.6	14.5
	気管切開の管理	n	103	6	11	57	3	26
		割合(%)	100.0	5.8	10.7	55.3	2.9	25.2
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n	7	0	0	5	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	71.4	0.0	28.6
	酸素療法	n	47	1	6	28	1	11
		割合(%)	100.0	2.1	12.8	59.6	2.1	23.4
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n	170	10	23	94	5	38
		割合(%)	100.0	5.9	13.5	55.3	2.9	22.4
	ネブライザーの管理	n	71	4	13	39	1	14
		割合(%)	100.0	5.6	18.3	54.9	1.4	19.7
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n	33	1	2	22	0	8
		割合(%)	100.0	3.0	6.1	66.7	0.0	24.2
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n	162	14	24	83	5	36
		割合(%)	100.0	8.6	14.8	51.2	3.1	22.2
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n	10	2	0	4	1	3
		割合(%)	100.0	20.0	0.0	40.0	10.0	30.0
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n	1	0	0	1	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n	3	0	0	3	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n	3	0	0	2	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n	1	0	0	1	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n	17	2	1	10	0	4
		割合(%)	100.0	11.8	5.9	58.8	0.0	23.5
	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n	17	0	1	8	0	8
		割合(%)	100.0	0.0	5.9	47.1	0.0	47.1
	排便管理（消化管ストーマ）	n	5	0	1	3	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0
	排便管理（摘便、洗腸、浣腸）	n	128	10	26	69	4	19
		割合(%)	100.0	7.8	20.3	53.9	3.1	14.8
	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n	62	7	14	31	2	8
		割合(%)	100.0	11.3	22.6	50.0	3.2	12.9
	医師の指示書に基づくその他のケア	n	41	1	6	23	1	10
		割合(%)	100.0	2.4	14.6	56.1	2.4	24.4
	回答しない/分からない	n	17	2	2	5	0	8
		割合(%)	100.0	11.8	11.8	29.4	0.0	47.1

図表 105 必要とする医療的ケアの内容×将来的にグループホームへの入居を希望するか

			合計	Q44.将来的にグループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
Q9・必要とする医療的ケアの内容		n	270	50	50	75	4	91
		割合(%)	100.0	18.5	18.5	27.8	1.5	33.7
	人工呼吸器の管理	n	55	10	6	22	1	16
		割合(%)	100.0	18.2	10.9	40.0	1.8	29.1
	気管切開の管理	n	103	12	17	34	3	37
		割合(%)	100.0	11.7	16.5	33.0	2.9	35.9
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n	7	1	0	4	0	2
		割合(%)	100.0	14.3	0.0	57.1	0.0	28.6
	酸素療法	n	47	5	8	18	1	15
		割合(%)	100.0	10.6	17.0	38.3	2.1	31.9
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n	170	27	28	54	4	57
		割合(%)	100.0	15.9	16.5	31.8	2.4	33.5
	ネブライザーの管理	n	71	7	20	21	1	22
		割合(%)	100.0	9.9	28.2	29.6	1.4	31.0
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n	33	5	6	13	0	9
		割合(%)	100.0	15.2	18.2	39.4	0.0	27.3
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n	162	28	28	46	4	56
		割合(%)	100.0	17.3	17.3	28.4	2.5	34.6
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n	10	2	1	3	0	4
		割合(%)	100.0	20.0	10.0	30.0	0.0	40.0
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n	1	0	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n	3	0	0	3	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n	3	0	0	2	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n	1	0	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n	17	5	2	5	1	4
		割合(%)	100.0	29.4	11.8	29.4	5.9	23.5
	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n	17	0	1	9	0	7
		割合(%)	100.0	0.0	5.9	52.9	0.0	41.2
	排便管理（消化管ストーマ）	n	5	1	1	2	0	1
		割合(%)	100.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0
	排便管理（摘便、洗腸、浣腸）	n	128	27	23	42	3	33
		割合(%)	100.0	21.1	18.0	32.8	2.3	25.8
	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n	62	14	14	18	2	14
		割合(%)	100.0	22.6	22.6	29.0	3.2	22.6
	医師の指示書に基づくその他のケア	n	41	6	6	11	1	17
		割合(%)	100.0	14.6	14.6	26.8	2.4	41.5
	回答しない/分からない	n	17	3	1	3	0	10
		割合(%)	100.0	17.6	5.9	17.6	0.0	58.8

現在の住まい×グループホームへの入居を希望するか、将来的にグループホームへの入居を希望するか

現在の住まいが「自宅（家族と同居）」の者は、グループホームへの入居希望について「希望する」、「こんなグループホームであれば希望する」と回答した割合がそれぞれ 10%を超え、他の現在の住まいにおける者に比べて多い傾向が見られた。

図表 106「現在の入居希望」と図表 107「将来的な入居希望」の 2 表を比較すると、現在の住まいが「自宅（家族と同居）」の者では、「将来的な入居希望」の方が「希望する」と回答した割合が 10 ポイント以上多かった。

図表 106 現在の住まい×グループホームへの入居を希望するか

			合計	Q41.グループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	25	44	133	9	59
		割合(%)	100.0	9.3	16.3	49.3	3.3	21.9
Q13.現在の住まい	自宅（家族と同居）	n	214	24	37	105	8	40
		割合(%)	100.0	11.2	17.3	49.1	3.7	18.7
	自宅（一人暮らし）	n	1	0	0	1	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	n	16	0	2	10	1	3
		割合(%)	100.0	0.0	12.5	62.5	6.3	18.8
	医療機関に入院中・療養介護利用中	n	33	0	3	16	0	14
		割合(%)	100.0	0.0	9.1	48.5	0.0	42.4
	その他	n	4	1	2	1	0	0
		割合(%)	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	回答しない/分からない	n	2	0	0	0	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

図表 107 現在の住まい×将来的にグループホームへの入居を希望するか

			合計	Q44.将来的にグループホームへの入居を希望するか				
				希望する	こんなグループホームであれば希望する	希望しない	その他	回答しない/分からない
		n	270	50	50	75	4	91
		割合(%)	100.0	18.5	18.5	27.8	1.5	33.7
Q 1 3 ・ 現 在 の 住 ま い	自宅（家族と同居）	n	214	50	43	50	4	67
		割合(%)	100.0	23.4	20.1	23.4	1.9	31.3
	自宅（一人暮らし）	n	1	0	0	1	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	障害者支援施設・重症心身障害児者施設	n	16	0	2	10	0	4
		割合(%)	100.0	0.0	12.5	62.5	0.0	25.0
	医療機関に入院中・療養介護利用中	n	33	0	2	13	0	18
		割合(%)	100.0	0.0	6.1	39.4	0.0	54.5
	その他	n	4	0	3	1	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	回答しない/分からない	n	2	0	0	0	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

3. 当事者へのヒアリング調査

本章では、当事者（一部、家族等の支援者を含む）へのヒアリング調査の内容及び結果について記載する。

（１）調査概要

検討委員会における議論を踏まえ、以下の内容でヒアリング調査を実施した。

図表 108 当事者向けヒアリング調査の概要

調査対象	- 現在グループホームで暮らしている当事者（３名） - 知的障害がなしまたは軽度、重度身体障害の者 - 重度知的障害、身体障害がなしまたは軽度の者 - 重度知的障害、重度身体障害の者 - これまでにグループホームで暮らしたことがない当事者（２名） - 知的障害がなし、重度身体障害の者 - 知的障害が軽度または重度、重度身体障害の者
調査対象の抽出方法	- 検討委員会で議論の上、上記のように住まい及び状態像に偏りがないよう調査対象者を設定した。 - その上で、検討委員の所属団体や知人で該当する方を紹介いただいた。
調査方法	- 事前にヒアリングシートを記入いただいた上で、対面による実施 ※１名のみ、本人の希望により書面による実施とした - 必要に応じ、家族や支援員が同席して実施した
調査期間	令和８年１月～３月
主な調査項目	- 基本情報（全員への設問） - 回答方法 - 年齢、性別、障害支援区分 - 本人から他者へのコミュニケーション手段、運動機能 - 必要とする医療的ケアの内容や頻度 - 現在利用している障害福祉サービスや医療サービス等 - 日々の過ごし方 - 現在の住まい - 現在の生活の満足度 - 現在の生活への不満や心配事 - グループホームで暮らす者への設問 - 入居する時点で医療的ケアが必要だったか - グループホームに入居したきっかけや理由 - グループホームに入る前のグループホームのイメージ - 入居を検討する中での困難や心配事、入居してそれは解消されたか - 入居を断られたことがあるか - 入居して良かったことや安心な点、グループホームと自宅等の違い

	3. グループホーム以外で暮らす者への設問 ・ 過去にグループホームで暮らしたことがあるか ・ グループホームの体験利用や見学をしたことがあるか ・ グループホームへの入居を希望するか、その理由 ・ 将来的にグループホームへの入居を希望するか、その理由 ・ もしグループホームで暮らす場合、どんなことを望むか、どんなことが心配か
--	---

(2) 調査結果

ヒアリング調査の結果を以下に記載する。

① 当事者A（グループホーム利用中で、疾病により医療的ケアが必要な方）

○実施日時：令和8年2月20日(金)17:00～18:00

○実施方法：入居中のグループホームにて対面で実施

○同席者：当事者本人、入居中のグループホームの職員

○ヒアリング時のご本人とのコミュニケーション手段：

事前回答＋当日は支援員との瞬き及び文字盤によるコミュニケーションにて実施

図表 109 基本情報

問	回答
年代	50代
性別	男性
障害種別	身体障害（ALSによるもの）
障害支援区分	区分6
本人から他者への コミュニケーション手段	- 目の動き - 文字盤 - 意思伝達装置（足の指によるPC操作が可能）
運動機能	寝たきり
必要とする医療的ケア	- 人工呼吸器の管理 - 気管切開の管理 - ネブライザーの管理 - 排便管理（排便、洗腸、浣腸） 以上4つは訪問診療・訪問看護にて実施 - 吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る） - 経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう） 以上2つはヘルパーにて実施 7年ほど前に気管切開を行い、必要な医療的ケアが増えた
現在利用している障害福祉 サービスや地域生活支援事 業等	- 障害福祉サービス等：重度訪問介護、グループホーム（グループホーム）、計画相談支援 - 地域生活支援事業：なし
現在利用している医療サー ビス	訪問診療、訪問介護、訪問歯科診療、訪問リハビリ、訪問薬剤、訪問栄養指導
現在利用している都道府 県・市町村独自のサービス	重度障害者等就労支援特別事業等
現在の住まい	グループホーム（現在のグループホームに入居して約7年経過）
平日の主な過ごし方	グループホーム内で在宅勤務している（週5日、発症前から勤務）
休日の主な過ごし方	グループホームの中で過ごすことが多い

図表 110 暮らしの状況

問	回答
グループホームに入居した理由や経緯	- グループホームに入居時には医療的ケアは必要ではなく、病気の進行とともに医療的ケアが必要になった - 発症後もしばらくは自宅で過ごしていたが、体調を崩して入院した際に、現在入居しているグループホームの法人の理事長（ALS患者が多く利用している法人で、ALS協会にも知り合いが多い）が相談支援専門員として病院を訪れ、今後の生活を相談する中でグループホームを紹介してくれた - それまでは家族と一緒に自宅で生活をしていたが、今後も病状が進行することもあり、家族の負担が減ることもグループホームへの入居を決めた大きな理由の一つ - はじめに入居したグループホームから今のグループホームに移ったのは、医療的ケアがより多く必要になってきたことで大きな病院が近い場所が良いと考えたため。また、グループホームの立地も交通の便が良いことや、ヘルパー事業所がより多くある地域であることも理由になった - 自身でグループホームを探したわけではなく、入居前に他のグループホームから入居を断られたことはない
入居前のグループホームのイメージ	特にイメージはなく、情報もそこまでなかった。（入居してからも戸惑うようなことはなかった）
グループホームに入居する際の困難や心配事	- グループホームのことで分からないことや困ったときに誰に相談すれば良いかわからなかった - グループホームでの生活で具合が悪くなった時にどうしたら良いか心配だった （いずれも、実際に入居してみたら大丈夫だと感じた。相談もグループホーム職員にすることができている）
グループホームに入居して良かったこと、グループホームと自宅等との違い	- 一緒に暮らすよりも家族の負担が減ったと思う - スタッフが24時間いるというのは安心だ
今の生活の食事への満足度や具体的な状況	経管栄養（胃ろう）を必要としており、適宜医師と相談している
今の生活の入浴への満足度や具体的な状況	介護保険の訪問入浴をしているが、週2回の上限があり、週3回以上に増やしたい
今の生活の外出への満足度や具体的な状況	グループホームの中で過ごすことが多く、そうした過ごし方が気に入っており、大きな不満はない
日頃の生活の中で関わる人	- 勤務先の上司や同僚（週5日在宅勤務している） - グループホームの支援員 - 訪問看護師 - ヘルパー（24時間支給決定されており、4事業所×3～4名のヘルパーが入っているが、関わる人が多いことへのストレスはない）
困ったことがあった際の対応方法	グループホームの支援員や管理者、サービス管理責任者に相談する（訪問ヘルパーとの関わりが難しかった時、グループホームの職員が対応・調整してくれ、解決した）

現在の生活への不満や心配事	• 身体機能が低下してきていることが心配 (足の指を使ってP C操作などしているが、次第に使いづらくなってきており、眉の動きによる筋電スイッチに切り替えることを検討中) • 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配 (自宅で過ごすよりも安心ではある) • グループホームで暮らすにはお金がかかり、ずっと暮らしていけるか心配 (新たな筋電スイッチ等を購入するにあたり、公費で補助されない部分は自費となるなど、制度を活用しても自費負担が必要な金額が少ない。病状の進行とともにこうした出費が増えることにはやや不安を覚えている)
今後の生活の展望	• いまは現状を維持することで精一杯 • このままグループホームで暮らし続けたい • 今関わっている医師、看護師、ヘルパーに継続して介入してほしい

② 当事者B（グループホーム利用中で、数か月前まで医療的ケアが必要だった方）

○実施日時：令和8年1月28日(水)15:30～17:00

○実施方法：入居中のグループホームにて対面で実施

○同席者：当事者本人、本人の父親、入居中のグループホームの職員

○ヒアリング時のご本人とのコミュニケーション手段：

言語によるコミュニケーションはオウム返しになってしまうことが多く、大半は父親による代理回答で実施

図表 111 基本情報

問	回答
年代	30代
性別	男性
障害種別	知的障害・身体障害（軽度）
障害支援区分	区分4
本人から他者への コミュニケーション手段	- 表情、目の動き - 声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり - 単語による意思表示 - 会話（オウム返しになることが多い） - 文字盤 - 本人からの意思表示は少ないが、他者の言葉はかなり理解している
運動機能	- 歩くことができる （心臓疾患の関係で激しい運動は避ける必要があるが、日常生活で配慮が必要な場面はほとんどない） - 脊椎側彎があり、長時間同じ姿勢で座ることが難しい
必要とする医療的ケア	- 酸素療法 就寝時に使用、本人が装着して起動。メンテナンスはグループホーム職員が対応。現在は症状が改善し、使用していない。 自宅で家族と同居していた時から長年使用していたため、本人が一人で装着・起動することができ、グループホームで就寝中に異常を検知して警報音が鳴るようなことはなかった。また、夜中に外れてしまっても、直ちに命に関わるものではない。 - 酸素療法を行っていた期間は1日3回の服薬（家族やGH職員が薬を手渡し、本人が服薬）もあった - 訪問看護で体調確認、リハビリ、発語訓練等をしている
現在利用している障害福祉サービスや地域生活支援事業等	- 障害福祉サービス等：生活介護、グループホーム（グループホーム）、計画相談支援 - 地域生活支援事業：移動支援、日中一時支援
現在利用している医療サービス	訪問看護（週に1回、グループホームと同一法人）
現在利用している都道府県・市町村独自のサービス	特になし
現在の住まい	グループホーム（入居して約6年経過）
平日の主な過ごし方	生活介護事業所に通所

休日の主な過ごし方	・ 自宅に帰って家族と過ごすことが多い ・ 日中一時支援（1～2回/月）で買い物、昼食など ・ グループホームから自宅への帰宅時は移動支援を利用
-----------	--

図表 112 暮らしの状況

問	回答
グループホームに入居した理由や経緯	・ グループホーム入居時から医療的ケアが必要だった ・ 将来を見据え、また、本人の生活の幅や人間関係が拡大すると考え、グループホームへの入居希望や細かな生活の状況を父親が相談支援事業所に数年にわたり伝えていたところ、今のグループホームを紹介してもらい、1～2か月の体験利用の後、入居した ・ 医療と福祉で様々な関係者が必要なため、自宅での生活と大きく変わらない生活圏でグループホームが見つかると思いと考えていた ・ 幼いころから入院することが多かったこと、母親が亡くなってからはヘルパーと関わる生活が続いていたこと、グループホーム入居前は短期入所を月に1～2回利用していたことなど、人間関係や環境の変化に慣れていたこともあり、スムーズに自宅からグループホームへの移行ができた ・ 入居前に他のグループホームから入居を断られたことはない
入居前のグループホームのイメージ	・ 鉄筋コンクリートの建物（集合住宅）をイメージしていた。（実際に入居したのは空き家となっていた一軒家を利用したグループホームで、自宅での暮らしと大きく変わらない生活ができているようだ） ・ グループホームの利用者は就労している人が多いと聞いたことがあった。（実際にいま一緒に暮らしている利用者は皆就労中で本人のみ生活介護を利用しているが、特に問題なかったようで安心している）
グループホームに入居する際の困難や心配事	・ 建物の構造や設備の面で受け入れ体制が整っているグループホームがなかなか見つからなかった ・ 医療的ケアに対応できるスタッフがいるグループホームがなかなか見つからなかった ・ 築年数が古い建物で、日当たりが悪いことを懸念（そうしたマイナス面があっても余りあるほど、グループホームに入居して良かったことがたくさんある） ・ 比較的小規模の法人が運営しているため、財政面やサービス面で若干心配があった（いまは小規模なことで小回りが利き、本人に合った支援をしてもらえると感じる）

グループホームに入居して良かったこと、グループホームと自宅等との違い	・個室で過ごせるので快適だ ・必要であれば家事（衣替えや衣服の買い替えも含む）をサポートしてもらえるので安心だ ・グループホームに入る前と同じ地域で生活ができていたので、人間関係が大きく変わらなかった ・一緒に暮らす仲間に話を聞いてもらうことができる ・家族との人間関係以外に豊富な人間関係を築くことができる ・本人を一人の大人として扱ってくれる ・自宅では家族が担っていた家事をグループホームでは本人が行う場面があり、できることが増えた ・〔家族の変化〕一緒に暮らすよりも家族の負担が減った。もう少し早くグループホームに入居できていたら、父親が早期退職をせずに済んだかもしれない
今の生活の食事への満足度や具体的な状況	・とても満足している ・食事のスピードがゆっくりだが、特に大きな不満や問題はない ・手術により心臓の機能が改善したことで太りやすくなってきたが、食事管理もしてもらっている
今の生活の入浴への満足度や具体的な状況	・概ね満足している ・本人が入浴が大好きで、歯磨きも合わせ長時間（１～２時間）になるという問題が自宅ではあるが、グループホームでは職員さんの声かけにしたがって自分でコントロールできるようになっているようだ
今の生活の外出への満足度や具体的な状況	・概ね満足している ・週末帰宅時は移動支援を使っておやつなどの買い物をしている ・日中一時支援（１回/月）で街へ出ることも楽しく、グループホームのイベント（クリスマス会、遠足）も楽しいようだ
日頃の生活の中で関わる人	・グループホームの支援員（支援員が手伝うのは日常的な肌の保湿などの細かなケア程度で、家事も本人に任せることが多い） ・グループホームの管理者・サービス管理責任者 ・家族 ・通所先の日中活動事業所の職員や仲間 ・移動支援のヘルパー ・訪問看護師
困ったことがあった際の対応方法	・グループホームの支援員や管理者、サービス管理責任者に相談する ・本人の意思表示が少なく、入居当初は時々壁を蹴るなどの行動が見られたが、現在は安定している ・訪問看護事業所とグループホーム、相談支援事業所が同じ法人のため、速やかに連携してもらっている ・家族に相談する
現在の生活への不満や心配事	・入浴の時間を自由に決めたい ・具合が悪くなった時にどうしたらよいか心配 ・身体機能が低下してきていることが心配 ・災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配 ・小規模法人による運営のため、職員の人手不足により本人の生活に影響がないか心配している

今後の生活の展望	• このままグループホームで暮らし続けたい • グループホームに入居したことで、多くの人が見守るような体制が築け、親にとっても負担が減り、いまが一番良い状態と言える • しかしながら今後もおおよそ 10 年単位で繰り返し心臓の手術を受ける必要があり、親亡き後のこうした場面での意思決定について誰が指揮を執るべきか検討しておかなければならない。また、そうした場面での医療・福祉の関係者間での情報連携（現在は父親がすべての情報を集約して各所に説明している）を進めてほしい
-----------------	---

③ 当事者C（グループホーム利用中の重症心身障害の方）

○実施日時：令和8年2月17日(火)16:00～17:00

○実施方法：入居中のグループホームにて対面で実施

○同席者：当事者本人、本人の母親（グループホームの運営法人の理事でもある）

○ヒアリング時のご本人とのコミュニケーション手段：

言語によるコミュニケーションは難しく、母親による代理回答で実施

図表 113 基本情報

問	回答
年代	30代
性別	女性
障害種別	重症心身障害
障害支援区分	区分6
本人から他者への コミュニケーション手段	表情、目の動き
運動機能	寝たきり
必要とする医療的ケア	- 気管切開の管理 - 酸素療法 - 吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る） - ネブライザーの管理 - 経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管） - 経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう） 在宅時は母親が日常的な医療的ケアを行っていた - 訪問看護で体調確認、リハビリ、発語訓練等をしている
現在利用している障害福祉 サービスや地域生活支援事 業等	- 障害福祉サービス等：重度障害者等包括支援、生活介護、グループホーム - 地域生活支援事業：日常生活用具給付等事業、地域活動支援センター
現在利用している医療サー ビス	- 訪問診療（月に1回） - 訪問看護 - 訪問歯科診療 - 訪問リハビリ（週に5日、在宅の時よりも多く受けることができている） - 訪問薬剤
現在利用している都道府 県・市町村独自のサービス	自治体独自の障害者手当や家賃助成
現在の住まい	グループホーム（入居して約9年経過）
平日の主な過ごし方	- グループホームで過ごすことが多い - 週に3回ほど生活介護事業所へ通所している
休日の主な過ごし方	自宅に帰って家族と過ごすことが多い （保護者で立ち上げたグループホームであり、基本的に土日はみな自宅に帰るという決まりがある。保護者の高齢化により、この決まりを見直す必要があると考え始めているところだが、看護師の配置をする必要があり、調整が必要な状況）

図表 114 暮らしの状況

問	回答
グループホームに入居した理由や経緯	- グループホーム入居時から（幼少期から）医療的ケアが必要だった - 幼少期に通園・通学していた仲間のグループがあり、保護者同士でいずれ親から離れた後のことを考えなくてはいけないという共通の認識があり、将来的にグループホームを立ち上げたいと話していた。現在のグループホームの土地が見つかったことでNPO 法人を立ち上げ、行政に申請した。同じ思いを持つ保護者同士でグループホームを立ち上げたため、家庭と同じような雰囲気の理想的なグループホームができるように工夫した。
入居前のグループホームのイメージ	過去に見学や短期入所を利用した施設では、広い部屋にただ寝かされっぱなしのように感じ、そのようなグループホームにはしたくないと強く考えていたため、グループホーム立ち上げにあたっては様々なグループホームに見学に行った
グループホームに入居する際の困難や心配事	- グループホームでの生活で具合が悪くなった時にどうしたら良いか心配だった（入居して2～3年は発熱すると自宅に帰る必要がある等、グループホームでの暮らしが万全でない状況があったが、現在は体調不良時こそ家族に移さないようグループホームで診てもらえるようになり安心している） - 自宅からグループホームに移って1年ほどは円形脱毛症になってしまい、本人にとってストレスがあったようだ（現在はそうした症状はなく、安定している）
グループホームに入居して良かったこと、グループホームと自宅等との違い	- 居心地が良い （自宅では母親がきょうだいの世話をする必要があり、通所先から帰宅すると夕方はしばらく関わることができなかったが、グループホームの生活では常に誰かがいて声かけがあり、他の利用者もいるなど、そうした環境からか本人の瞬き等の反応や表情がより豊かになった） - 一緒に暮らすよりも家族の負担が減ったと思う （両親ともに仕事をしており、きょうだいもいるため、平日の負担が大きく減った。土日は自宅に帰ってくるため、継続して一緒に過ごすこともできている） - グループホームに入る前と同じ地域で生活ができているので、人間関係が大きく変わらなかった
今の生活の食事への満足度や具体的な状況	経管栄養による
今の生活の入浴への満足度や具体的な状況	- あまり満足していない - 現在は週に3～4回の入浴だが、汗をかきやすく、肌荒れもあるため、出来れば週5回の入浴が理想（ただし、在宅時は週2回だったため、満足度はかつてよりは上がっている）
今の生活の外出への満足度や具体的な状況	- あまり満足していない - グループホームの他の利用者は週5日通所しているが、本人は週3回であり、少なく感じている - 週末帰宅時をもっと外出できると良いがヘルパーをなかなか利用できない

日頃の生活の中で関わる人	• グループホームの支援員 • グループホームの管理者・サービス管理責任者 • 家族 • 友人 • 通所先の日中活動事業所の職員や仲間 • 訪問看護師
困ったことがあった際の対応方法	• グループホームの支援員や管理者、サービス管理責任者に相談する
現在の生活への不満や心配事	• 身体機能が低下してきていることが心配 • 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配
今後の生活の展望	• このままグループホームで暮らし続けたい

④ 当事者D（ご自宅にお住まいで、疾病により医療的ケアが必要な方）

○回答日時：令和8年3月10日

○実施方法：書面実施（ヒアリングシートに入力していただくことで回答を得た）

○回答者：当事者本人

図表 115 基本情報

問	回答
年代	60代
性別	男性
障害種別	身体障害
障害支援区分	区分6
本人から他者への コミュニケーション手段	• 表情、目の動き • 文字盤 • 意思伝達装置
運動機能	• 寝たきり
必要とする医療的ケア	• 人工呼吸器の管理 • 気管切開の管理 • 吸引（自動吸引器を利用中） • ネブライザーの管理 • 経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管） • 経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう） • 排便管理（排便、洗腸、浣腸）
現在利用している障害福祉 サービスや地域生活支援事 業等	• 障害福祉サービス等：重度訪問介護 • 地域生活支援事業：なし • 介護保険サービス：訪問入浴
現在利用している医療サー ビス	• 訪問診療・往診 • 訪問看護 • 訪問歯科診療 • 訪問リハビリ
現在利用している都道府 県・市町村独自のサービス	• 特になし
現在の住まい	• 自宅（家族と同居）
平日日中の主な過ごし方	• 自宅で過ごすことが多い
現在の暮らしの満足度や心 配なこと	• 日常生活は、重度訪問介護ヘルパーがほぼ24時間で支援してくれており、現在の暮らしにはとても満足している • 介護保険サービスの訪問入浴を使用していて、週に3回入っている • 入浴の日が外出予定とぶつかってその日の入浴を諦めたり、土日に入りたいと思う日もあるが、概ね満足している • 現在の暮らしで特に心配なことはない

図表 116 グループホームへのイメージや入居に対する考え

問	回答
グループホームの体験や見学経験の有無	・ 体験利用も見学もしたことがない
グループホームの印象や入居希望	・ グループホームは、複数の利用者が同じ屋根の下で一緒に暮らす場所と理解している ・ 住み慣れた場所から離れたくなかったため、グループホームへの入居は考えていない ・ 過去に、神経筋疾患などの難病による重度障害者の仲間が集まって、重度訪問介護や訪問看護をしっかりと受けられるグループホームを構想したことがある（構想のみで、具体的な検討はしていない）
もしグループホームに入居する場合に心配なこと	・ 日常的なケアや急変時のケアがちゃんと受けられるか心配 ・ 支援員とうまくいくか心配 ・ 他の利用者とうまくいくか心配 ・ 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配
グループホームに望むこと	・ 車いすでも暮らせたり、機械浴があるなど、必要な設備が整っていること ・ 医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること ・ 自分と支援員との相性が良いこと ・ 住む地域や日中の居場所など、今とあまり変わらない生活を維持できること ・ 買い物がしやすい地域にあること ・ 交通の便が良い地域にあること
グループホームにあると安心だと思うこと	・ 医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること ・ 支援員が十分に配置されていること ・ 訪問診療や訪問看護が受けられるなど、外部の医療機関との連携体制が確保されていること ・ 地域との連携があること ・ 事業所の経営基盤が整っていて、経営が安定していること ・ 好きなときに自由に外出できること
現行の制度や現状についての意見等	・ 多くの支援が必要な重度障害者だが、それでも普通に行きたいところに出かけて、会いたい人に会えるという普通の生活をしたい

⑤ 当事者 E（ご自宅にお住まいの重度身体障害の方）

○実施日時：令和 8 年 3 月 4 日（水）10:30～11:30

○実施方法：通所先の事業所にて対面で実施

○同席者：当事者本人、通所先の事業所の職員

○ヒアリング時のご本人とのコミュニケーション手段：

ご本人との言語によるコミュニケーションで実施し、ご本人同意の上、一部事業所職員に補足いただいた

図表 117 基本情報

問	回答
年代	40 代
性別	女性
障害種別	軽度知的障害・重度身体障害 (19 歳の時に脳梗塞を発症し、障害を負った)
障害支援区分	区分 6
本人から他者への コミュニケーション手段	・ 会話
運動機能	・ 首を動かせる ・ 左腕・左足を動かせる
必要とする医療的ケア	・ 日常的な医療的ケアは特に必要ないが、発作があった際には座薬挿入 や点滴にて対応
現在利用している障害福祉 サービスや地域生活支援事 業等	・ 障害福祉サービス等：居宅介護、行動援護、短期入所、生活介護
現在利用している医療サー ビス	・ 往診 ・ 訪問リハビリ
現在利用している都道府 県・市町村独自のサービス	・ ヘルパー派遣 ・ 日中活動 ・ 月に 1 回のショートステイ
現在の住まい	・ 自宅（母と二人暮らし）
平日の主な過ごし方	・ 生活介護事業所に通所（週に 2 回） ・ 自宅にて訪問リハビリ（週に 1 回） ・ 中途障害者の集まるサロン（月に 2 回）
休日の主な過ごし方	・ 自宅で過ごすことが多い
現在の暮らしの満足度や心 配なこと	・ 現在は母と自宅で暮らしており、楽しく過ごせている ・ ヘルパーの都合で訪問入浴の時間が決まっており、希望する時間帯で 入浴ができると良い ・ 外出の機会が多くなく、もっと自由に外出できると良い ・ 体調が悪くなった時にどうしたら良いか心配 ・ 一緒に暮らす家族が高齢になってきて、今の生活をいつまで続けるこ とができるか心配 ・ 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配

図表 118 グループホームへのイメージや入居に対する考え

問	回答
グループホームの体験や見学経験の有無	・ 宿泊はしていないが、見学したことがある ・ 生活介護で通っている法人のグループホームに2回見学に行った ・ 見学の中では暮らしている人から話を聞いたり、居室を見学したりした ・ 本格的に入居を検討していたわけではなく、将来的な選択肢の一つとして見学に行った
グループホームの印象や入居希望	・ 見学の際に住んでいる人の様子も知ることができ、とても楽しそうだった ・ 居室が広く、部屋の壁にポスターを貼るなど各自自由に暮らしていて、住み心地が良さそうだった ・ 入居している人が好きなアーティストのコンサートに行った話も聞き、うらやましいと思った ・ 見学に行ったグループホームはお風呂が狭かったので、それは少し残念だった ・ 現在は母と自宅で暮らしており、特に問題なく楽しく過ごせているため、今すぐにグループホームに入りたいとは思っていないが、母親への負担を考え、将来的にはグループホームがよい（母もグループホームの見学に行ったことがあり、概ね同じ思いを持っている） ・ いまは好きなアーティストのコンサートに行くことができていないなど、日頃の生活での外出についてはあまり満足していないため、グループホームに入ったら旅行も含め、たくさん外出がしたい
もしグループホームに入居する場合に心配なこと	・ 日常的なケアや急変時のケアがちゃんと受けられるか心配 ・ 他の利用者とうまくいくか心配 ・ 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配 ・ グループホームに入ったり暮らしていくためのお金が足りるか心配（まだ現時点ではグループホームに入る場合の金額の話はしておらず、入居したい気持ちが強くなった時に検討する予定）
グループホームに望むこと	・ 車いすでも暮らせたり、機械浴があるなど、必要な設備が整っていること ・ 自分と支援員との相性が良いこと ・ 一緒に暮らす仲間とお酒を飲んでおしゃべりできること ・ 自由に外出ができること ・ 住む地域や日中の居場所など、今とあまり変わらない生活を維持できること ・ 食事が美味しいこと ・ 建物が綺麗なこと ・ 買い物がしやすい地域にあること ・ 交通の便が良い地域にあること
グループホームにあると安心だと思うこと	・ 必要な設備が充実していること ・ 支援員が十分に配置されていること ・ 訪問診療や訪問看護が受けられるなど、外部の医療機関との連携体制が確保されていること ・ 地域との連携があること ・ 事業所の経営基盤が整っていて、経営が安定していること

現行の制度についての意見等	• 以前、入所施設に併設の短期入所を3か月に1回、3泊4日で利用していたが、40歳を迎えたことで介護保険優先となり、その短期入所は使えなくなってしまった。現在は月1回、同施設内にある生活支援事業所で1泊2日のショートステイのみの利用となってしまった。年齢に関わらず同じところを利用し続けたかった
----------------------	---

4. 共同生活援助事業所への質問紙調査

本章では、共同生活援助事業所への質問紙調査の内容及び結果について記載する。

(1) 調査概要

検討委員会における議論を踏まえ、以下の内容で事業所向け質問紙調査を実施した。

図表 119 事業所向け質問紙調査の概要

調査対象	すべての共同生活援助事業所 (全 14,241 事業所 (令和 6 年 10 月 1 日時点の共同生活援助事業所数 (令和 6 (2024) 年社会福祉施設等調査の概況)))
調査票の配布方法	厚生労働省から都道府県・指定都市・中核市宛に、共同生活援助事業所へ回答用 URL の配布を依頼
調査期間	令和 7 年 12 月 17 日～令和 8 年 1 月 21 日
主な調査項目	- 基本情報 (全事業所への設問) - 開設年度、所在地、法人格 - 実施している障害福祉サービスや医療サービス等 - サービス類型 - 建物の種別や立地等の条件 - 共同生活住居数、定員数 - 障害種別や障害程度区分、年代ごとの利用者数及びそのうち医療的ケアを必要とする利用者の数 - 職員配置の状況 - 取得している加算 - 地域の医療資源の状況 - 医療的ケアを必要とする者を受け入れたことの有無 - 医療的ケアを必要とする者を受け入れたことがある事業所への設問 - 利用者が必要とする医療的ケアの内容やその対応頻度、支援体制 - 医療的ケアを必要とする利用者の状態像 - 医療的ケアを必要とする者の受入を開始したきっかけ - 受入のために施した整備や工夫の内容、おおよその費用 - 受入を開始する際に直面した課題や困難 - 利用者の日々の過ごし方 - 職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度 - 医療的ケアを必要とする者を受け入れたことがない事業所への設問 - 医療的ケアを必要とする者の受入に関する問い合わせの有無 - 医療的ケアを必要とする者の受入を困難と判断する理由 - 入居希望があった場合の今後の対応予定

(2) 調査結果

共同生活援助事業所への質問紙調査の回収率は、15.6% (2,228 事業所/14,241 事業所) であった。各調査項目の調査結果は以下のとおりである。なお、割合は少数第一位まで記載しており、少数第二位以降は四捨五入しているため、合計が 100.0%にならない場合がある。

< A. 単純集計：すべての事業所への設問 >

事業所の開設年度

事業所の開設年度については、「2011 年-2020 年」が約 38.1%で最も多く、「2021 年-2025 年」が約 34.2%でその次に多かった。

図表 120 事業所の開設年度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	1961年-1970年	3	0.1
2	1971年-1980年	9	0.4
3	1981年-1990年	29	1.3
4	1991年-2000年	88	3.9
5	2001年-2010年	487	21.9
6	2011年-2020年	849	38.1
7	2021年-2025年	763	34.2
	n	2,228	100.0

※無回答0 平均2014年 中央値2017年 最大値2025年 最小値1969年

事業所の所在地

事業所の所在地については、以下に示す。

図表 121 事業所の所在地

No.	回答	回答数	割合(%)
1	北海道	131	5.9
2	青森県	24	1.1
3	岩手県	26	1.2
4	宮城県	17	0.8
5	秋田県	20	0.9
6	山形県	28	1.3
7	福島県	29	1.3
8	茨城県	80	3.6
9	栃木県	53	2.4
10	群馬県	56	2.5
11	埼玉県	22	1.0
12	千葉県	168	7.5
13	東京都	152	6.8
14	神奈川県	31	1.4
15	新潟県	61	2.7
16	富山県	27	1.2
17	石川県	20	0.9
18	福井県	17	0.8
19	山梨県	7	0.3
20	長野県	35	1.6
21	岐阜県	50	2.2
22	静岡県	65	2.9
23	愛知県	158	7.1
24	三重県	51	2.3
25	滋賀県	7	0.3
26	京都府	12	0.5
27	大阪府	210	9.4
28	兵庫県	76	3.4
29	奈良県	5	0.2
30	和歌山県	22	1.0
31	鳥取県	5	0.2
32	島根県	9	0.4
33	岡山県	43	1.9
34	広島県	52	2.3
35	山口県	21	0.9
36	徳島県	16	0.7
37	香川県	4	0.2
38	愛媛県	38	1.7
39	高知県	2	0.1
40	福岡県	143	6.4
41	佐賀県	0	0.0
42	長崎県	57	2.6
43	熊本県	37	1.7
44	大分県	29	1.3
45	宮崎県	37	1.7
46	鹿児島県	72	3.2
47	沖縄県	3	0.1
	n	2,228	100.0

事業所を運営している法人の種別

事業所を運営している法人の種別については、「社会福祉法人」が約 39.8%で最も多く、「営利法人(株式・合名・合資・合同・有限会社)」が約 36.1%でその次に多かった。

図表 122 事業所を運営している法人の種別

No.	回答	回答数	割合(%)
1	都道府県、市区町村、一部事務組合	10	0.4
2	社会福祉法人	886	39.8
3	医療法人	98	4.4
4	営利法人（株式・合名・合資・合同・有限会社）	805	36.1
5	特定非営利活動法人（NPO）	321	14.4
6	独立行政法人	1	0.0
7	その他	107	4.8
	（以下、「その他」の内容で最も多い回答）	-	-
	一般社団法人	92	4.1
	n	2,228	100.0

同法人で共同生活援助以外に運営している医療サービス、障害福祉サービス等

同法人で共同生活援助以外に運営している医療サービス、障害福祉サービス等については、「就労継続支援B型」が最も多く、約 44.7%であった。

図表 123 共同生活援助以外に運営している医療サービス、障害福祉サービス等（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	<医療サービス>訪問診療・往診	35	1.6
2	<医療サービス>訪問看護	205	9.2
3	<医療サービス>訪問歯科診療	8	0.4
4	<医療サービス>訪問リハビリ	28	1.3
5	<医療サービス>訪問薬剤	3	0.1
6	<医療サービス>訪問栄養指導	1	0.0
7	<障害福祉サービス・相談支援>居宅介護	313	14.0
8	<障害福祉サービス・相談支援>重度訪問介護	190	8.5
9	<障害福祉サービス・相談支援>同行援護	125	5.6
10	<障害福祉サービス・相談支援>行動援護	170	7.6
11	<障害福祉サービス・相談支援>重度障害者等包括支援	17	0.8
12	<障害福祉サービス・相談支援>短期入所	874	39.2
13	<障害福祉サービス・相談支援>療養介護	22	1.0
14	<障害福祉サービス・相談支援>生活介護	872	39.1
15	<障害福祉サービス・相談支援>施設入所支援	409	18.4
16	<障害福祉サービス・相談支援>自立生活援助	79	3.5
18	<障害福祉サービス・相談支援>自立訓練（機能訓練）	38	1.7
19	<障害福祉サービス・相談支援>自立訓練（生活訓練）	140	6.3
20	<障害福祉サービス・相談支援>就労移行支援	231	10.4
21	<障害福祉サービス・相談支援>就労継続支援A型	160	7.2
22	<障害福祉サービス・相談支援>就労継続支援B型	997	44.7
23	<障害福祉サービス・相談支援>就労定着支援	136	6.1
24	<障害福祉サービス・相談支援>就労選択支援	55	2.5
25	<障害福祉サービス・相談支援>計画相談支援	765	34.3
26	<障害福祉サービス・相談支援>障害児相談支援	426	19.1
27	<障害福祉サービス・相談支援>地域移行支援	195	8.8
28	<障害福祉サービス・相談支援>地域定着支援	181	8.1
29	<地域生活支援事業>移動支援	227	10.2
30	<地域生活支援事業>日中一時支援	422	18.9
31	<地域生活支援事業>日常生活用具給付等事業	2	0.1
32	<地域生活支援事業>地域活動支援センター	195	8.8
33	<地域生活支援事業>基幹相談支援センター	121	5.4
34	<地域生活支援事業>障害者相談支援事業	218	9.8
35	<障害児通所支援・障害児入所施設>障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）・障害児入所施設	328	14.7
36	その他	48	2.2
	（以下、「その他」の内容で最も多い回答）	-	-
	診療所・病院	7	0.3
	n	2,228	100.0

事業所の類型

事業所の類型については、「介護サービス包括型」が最も多く、約 80.6%であった。

図表 124 事業所の類型

No.	回答	回答数	割合(%)
1	介護サービス包括型	1,795	80.6
2	外部サービス利用型	195	8.8
3	日中サービス支援型	234	10.5
	無効回答	4	0.2
	n	2,228	100.0

利用者の主たる障害種別

利用者の主たる障害種別については、「知的」が最も多く、約 46.8%であった。

図表 125 利用者の主たる障害種別

No.	回答	回答数	割合(%)
1	身体	73	3.3
2	知的	1,042	46.8
3	精神（発達障害・高次脳機能障害を含む）	621	27.9
4	難病	3	0.1
5	定めていない	489	21.9
	n	2,228	100.0

建物の種別

建物の種別については、「新築のグループホーム用住宅」が最も多く、約 45.2%であった。

図表 126 建物の種別（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	既存の一般住宅	855	38.4
2	新築のグループホーム用住宅	1,006	45.2
3	既存の集合住宅（マンションやアパート）	523	23.5
4	新築のグループホーム用集合住宅（マンションやアパート）	95	4.3
5	法人所有の既存の建物をグループホーム用に転用	297	13.3
6	その他	49	2.2
	（以下、「その他」の内容で最も多い回答）	-	-
	市町村所有の建物をグループホーム用に転用	14	0.6
	n	2,228	100.0

開設時に建物の立地等について重視した点

開設時に建物の立地等について重視した点については、「法人本部、系列施設や事業所等が近くにあること」が最も多く、約 49.9%であった。

図表 127 開設時に建物の立地等について重視した点（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	交通の便が良いこと	747	33.5
2	コンビニやスーパーマーケットが近いなど、買い物に便利なこと	761	34.2
3	多くの利用者が通う可能性のある事業所等が近くにあること	478	21.5
4	駐車スペースや建物以外の敷地面積が十分にあること	512	23.0
5	医療機関が近くにあること	470	21.1
6	法人本部、系列施設や事業所等が近くにあること	1,111	49.9
7	その他	268	12.0
	(以下、「その他」の内容で多い回答)	-	-
	家主や周辺住民の理解が得やすい雰囲気があること	58	2.6
	静かで住みやすい地域であること	40	1.8
	景色が良いなど、自然が豊かな地域であること	11	0.5
	災害時に大きな被災が予想される地域でないこと	14	0.6
	特になし・不明	17	0.8
	n	2,228	100.0

事業所の共同生活住居数と定員数

事業所の共同生活住居数については、「1 住居」約 36.1%で最も多く、定員数については、「5 人以上 9 人以下」が約 24.7%で最も多かった。

図表 128 事業所の共同生活住居数

No.	回答	回答数	割合(%)
1	1住居	805	36.1
2	2住居	493	22.1
3	3住居	276	12.4
4	4住居	168	7.5
5	5住居	106	4.8
6	6住居	81	3.6
7	7住居	66	3.0
8	8住居	43	1.9
9	9住居	18	0.8
10	10住居以上	95	4.3
	n	2,228	100.0

※無効回答77 平均3.06住居 中央値2住居 最大値29住居 最小値1住居

図表 129 事業所の定員数

No.	回答	回答数	割合(%)
1	0人以上4人以下	97	4.4
2	5人以上9人以下	551	24.7
3	10人以上14人以下	426	19.1
4	15人以上19人以下	280	12.6
5	20人以上29人以下	335	15.0
6	30人以上39人以下	141	6.3
7	40人以上49人以下	51	2.3
8	50人以上59人以下	32	1.4
9	60人以上69人以下	20	0.9
10	70人以上79人以下	10	0.4
11	80人以上89人以下	5	0.2
12	90人以上99人以下	8	0.4
13	100人以上109人以下	2	0.1
14	110人以上119人以下	3	0.1
15	120人以上129人以下	1	0.0
16	130人以上139人以下	0	0.0
17	140人以上149人以下	0	0.0
18	150人以上159人以下	1	0.0
	n	2,228	100.0

※無効回答265 平均17.18人 中央値13人 最大値152人 最小値3人

障害種別ごとの利用者数³

障害種別ごとの利用者数の平均については、「知的」が約 9.66 人で最も多く、「精神」が約 5.36 人でその次に多かった。

図表 130 障害種別ごとの利用者数

	身体	知的	精神	難病	重症心身障害
平均	1.03	9.66	5.36	0.10	0.17
中央値	0.00	6.00	2.00	0.00	0.00
最大値	121.00	111.00	86.00	6.00	21.00
最小値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無回答	265	265	265	265	265
全体	1963	1963	1963	1963	1963

³ 以降の利用者数における「全体」は、回答欄が空欄だった「無回答」を除いた回答事業所数であり、「0」と回答した事業所を含む。

障害支援区分別の利用者数

障害支援区分別の利用者数の平均については、「区分3」が約3.98人で最も多く、「区分4」が約3.62人でその次に多かった。

図表 131 障害支援区分別の利用者数

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未認定
平均	0.83	0.30	3.24	3.98	3.62	2.36	1.94	0.61
中央値	0.00	0.00	2.00	3.00	2.00	1.00	0.00	0.00
最大値	48.00	15.00	49.00	48.00	43.00	47.00	56.00	83.00
最小値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無回答	552	536	390	344	343	433	504	685
全体	1676	1692	1838	1884	1885	1795	1724	1543

年代別の利用者数

年代別の利用者数の平均については、「50歳代」が約4.12人で最も多く、「40歳代」が約3.32人でその次に多かった。そのうち、医療的ケアが必要な利用者数の平均についても、「50歳代」が約0.14人で最も多く、「40歳代」が約0.11人でその次に多かった。

図表 132 年代別の利用者数

	18歳未満	18歳・19歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
平均	0.03	2.14	2.61	3.32	4.12	2.87	1.15	0.15
中央値	0.00	1.00	2.00	2.00	3.00	2.00	0.00	0.00
最大値	3.00	21.00	26.00	39.00	37.00	43.00	31.00	7.00
最小値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無回答	563	393	347	350	347	397	545	632
全体	1665	1835	1881	1878	1881	1831	1683	1596

図表 133 うち、医療的ケアが必要な利用者数

	18歳未満	18歳・19歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
平均	0.00	0.07	0.09	0.11	0.14	0.08	0.04	0.01
中央値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
最大値	3.00	13.00	20.00	16.00	22.00	15.00	8.00	1.00
最小値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無回答	683	612	609	610	612	632	689	724
全体	1545	1616	1619	1618	1616	1596	1539	1504

職員配置数（実員数及び常勤換算数）

職員配置数（実員数）の平均については、「世話人」が約 8.47 人で最も多く、「生活支援員」が約 5.80 人でその次に多かった。また、職員配置数（常勤換算数）の平均については、「世話人」が約 4.18 人で最も多く、「生活支援員」が約 2.83 人でその次に多かった。

図表 134 職員配置数（実員数）

	管理者	サービス 管理責任者	世話人	生活支援員	看護職員	その他
平均	1.04	1.22	8.47	5.80	0.40	1.46
中央値	1.00	1.00	6.00	4.00	0.00	0.00
最大値	35.00	7.00	56.00	85.00	17.00	45.00
最小値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無回答	36	34	53	94	375	414
全体	2192	2194	2175	2134	1853	1814

図表 135 職員配置数（常勤換算数）

	管理者	サービス 管理責任者	世話人	生活支援員	看護職員	その他
平均	0.90	0.76	4.18	2.83	0.20	0.59
中央値	1.00	0.50	2.90	1.90	0.00	0.00
最大値	170.00	90.00	700.00	130.00	7.50	90.00
最小値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無回答	274	256	247	283	584	624
全体	1954	1972	1981	1945	1644	1604

職員の資格保有状況

職員全体における資格保有状況については、「介護福祉士」が約 47.3%で最も多かった。
各役職の資格保有状況については、以下に示す。

図表 136 各役職の資格保有状況

		職員の役職											
		管理者		サービス管理責任者		世話人		生活支援員		その他		全体	
		該当人数	割合(%)	該当人数	割合(%)	該当人数	割合(%)	該当人数	割合(%)	該当人数	割合(%)	該当人数	割合(%)
職員 の 保 有 資 格 (延 べ 人 数)	医師	19	1.1	4	0.2	4	0.1	2	0.1	0	0.0	21	0.0
	看護師	71	4.1	127	6.1	324	10.3	257	6.7	187	49.0	766	8.7
	准看護師	33	1.9	45	2.2	179	5.7	116	3.0	56	14.7	347	3.9
	社会福祉士	340	19.9	418	20.1	294	9.3	420	11.0	21	5.5	1163	13.2
	精神保健福祉士	205	12.0	285	13.7	247	7.8	166	4.4	14	3.7	687	7.8
	介護福祉士	651	38.0	1030	49.5	1478	46.9	1976	51.9	79	20.7	4180	47.3
	医療的ケア児等コーディネーター	12	0.7	14	0.7	7	0.2	6	0.2	2	0.5	30	0.3
	喀痰吸引等研修（第1号研修）修了者	21	1.2	34	1.6	29	0.9	54	1.4	10	2.6	99	1.1
	喀痰吸引等研修（第2号研修）修了者	18	1.1	24	1.2	23	0.7	48	1.3	4	1.0	86	1.0
	喀痰吸引等研修（第3号研修）修了者	41	2.4	56	2.7	79	2.5	121	3.2	2	0.5	209	2.4
	強度行動障害支援者養成研修又は行動 援護従事者養成研修修了者	593	34.6	779	37.5	709	22.5	1568	41.2	44	11.5	2845	32.2
	介護職員初任者研修（旧ホームヘル パー2級含む）	115	6.7	117	5.6	312	9.9	272	7.1	8	2.1	626	7.1
	介護福祉士実務者研修（旧ホームヘル パー1級・介護職員基礎研修含む）	26	1.5	6	0.3	53	1.7	43	1.1	1	0.3	95	1.1
	介護支援専門員	28	1.6	24	1.2	17	0.5	20	0.5	3	0.8	60	0.7
	社会福祉主事任用資格	105	6.1	64	3.1	25	0.8	42	1.1	0	0.0	176	2.0
	保育士	57	3.3	74	3.6	46	1.5	89	2.3	3	0.8	210	2.4
	その他	194	11.3	194	9.3	213	6.8	176	4.6	24	6.3	612	6.9
合計		1712	100.0	2080	100.0	3152	100.0	3809	100.0	382	100.0	8844	100.0

事業所の医療職の体制

事業所の医療職の体制については、「医療職を配置していない」が最も多く、約 61.3%であった。

図表 137 事業所の医療職の体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常勤医師	8	0.4
2	非常勤医師	30	1.3
3	嘱託医	348	15.6
4	常勤看護師	232	10.4
5	非常勤看護師	306	13.7
6	常勤准看護師	84	3.8
7	非常勤准看護師	87	3.9
8	医療職を配置していない	1,366	61.3
	n	2,228	100.0

夜間支援等体制加算の取得状況

夜間支援等体制加算の取得状況については、「夜間支援等体制加算（Ⅰ）」が最も多く、約 53.0%であった。

図表 138 夜間支援等体制加算の取得状況（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	夜間支援等体制加算（Ⅰ）	1,181	53.0
2	夜間支援等体制加算（Ⅱ）	399	17.9
3	夜間支援等体制加算（Ⅲ）	525	23.6
4	夜間支援等体制加算（Ⅳ）	37	1.7
5	夜間支援等体制加算（Ⅴ）	16	0.7
6	夜間支援等体制加算（Ⅵ）	24	1.1
7	夜間支援等体制加算を取得している住居はない	314	14.1
	n	2,228	100.0

地域の医療資源の状況

地域の医療資源の状況については、「車で15分程度走れば医療機関がある」が約58.5%で最も多く、「事業所の徒歩圏内に医療機関がある」が約55.0%でその次に多かった。

図表 139 地域の医療資源の状況（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	事業所の徒歩圏内に医療機関がある	1,226	55.0
2	公共交通機関で無理なく行ける圏内に医療機関がある	801	36.0
3	車で15分程度走れば医療機関がある	1,303	58.5
4	医療機関まで行くのに30分以上かかる	104	4.7
5	定期的な訪問診療を受けている利用者がいる	541	24.3
6	定期的な訪問看護を受けている利用者がいる	959	43.0
7	緊急時の往診に対応してくれる医療機関がある	512	23.0
8	いずれにも当てはまらない	5	0.2
	n	2,228	100.0

登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況

登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況については、「いずれも登録していない」が最も多く、約97.6%であった。

図表 140 登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	登録喀痰吸引等事業者として登録している	37	1.7
2	登録特定行為事業者として登録している	16	0.7
3	1年以内に登録喀痰吸引等事業者としての登録を予定している	6	0.3
4	1年以内に登録特定行為事業者としての登録を予定している	4	0.2
5	いずれも登録していない	2,175	97.6
	n	2,228	100.0

医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるかについては、「これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない」が最も多く、約75.3%であった。

図表 141 医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

No.	回答	回答数	割合(%)
1	現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	195	8.8
2	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	59	2.6
3	現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	100	4.5
4	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	196	8.8
5	これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない	1,678	75.3
	n	2,228	100.0

過去に受け入れていた医療的ケアの必要な方が退居した理由

過去に受け入れていた医療的ケアの必要な方が退居した理由については、「障害の重度化により事業所での対応が難しくなったため」が最も多く、約 37.3%であった。

図表 142 過去に受け入れていた医療的ケアの必要な方が退居した理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	障害の重度化により事業所での対応が難しくなったため	22	37.3
2	事業所で対応できる人員が不足したため	2	3.4
3	本人から別の共同生活援助事業所へ転居したいという希望があったため	9	15.3
4	本人から一人暮らしをしたいという希望があったため	0	0.0
5	本人から家族と一緒に暮らしたいという希望があったため	0	0.0
6	家族から退居希望があったため	2	3.4
7	本人が死亡したため	14	23.7
8	その他	14	23.7
	n	59	100.0

＜B. 単純集計：医療的ケアが必要な方を受け入れたことがある事業所への設問＞

現在、事業所で受入が可能な医療的ケアの種類

現在、事業所で受入が可能な医療的ケアの種類については、「排便管理（消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸）」が最も多く、約 35.8%であった。

図表 143 現在、事業所で受入が可能な医療的ケアの種類（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	人工呼吸器（鼻マスク式補助換気法、ハイフローセラピー（ネーザルハイフロー）間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置（カフアシストやコンフォートカフ等）、高頻度胸壁振動装置（スマートベスト等））	14	5.5
2	気管切開の管理	19	7.5
3	鼻咽頭エアウェイの管理	7	2.8
4	酸素療法	36	14.2
5	吸引（口鼻腔内、気管内）	48	18.9
6	ネブライザーの管理	18	7.1
7	経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう、食道ろう、持続経管注入ポンプ使用）	56	22.0
8	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	3	1.2
9	皮下注射（インスリン、麻薬等の注射を含む、持続皮下注射ポンプの使用）	64	25.2
10	血糖管理（定時血糖測定、持続血糖測定、埋め込み式血糖測定）	54	21.3
11	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	30	11.8
12	導尿（間欠的導尿、持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう、尿路ストーマ））	69	27.2
13	排便管理（消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸）	91	35.8
14	痙攣時の対応（座薬挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置）	37	14.6
15	医師の指示書に基づくその他のケア（具体的にお書きください）	24	9.4
	n	254	100.0

事業所で受け入れたことのある医療的ケアが必要な方の状態像

事業所で受け入れたことのある医療的ケアが必要な方の状態像については、重度知的障害の場合、「無回答（※重度知的障害者がいない場合を含む）」が約 56.3%で最も多く、重度知的障害以外の場合、「問題なく歩行可能」が約 42.1%で最も多かった。

図表 144 事業所で受け入れたことのある医療的ケアが必要な方の状態像（重度知的障害）
（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	寝たきり	27	10.6
2	座位保持装置有りで車椅子を常時使用	33	13.0
3	座位保持装置無しで車椅子を常時使用	43	16.9
4	歩行器等があれば歩行可能	20	7.9
5	問題なく歩行可能	56	22.0
	無回答（※）	143	56.3
	n	254	100.0

（※…重度知的障害者がいない場合を含む）

図表 145 事業所で受け入れたことのある医療的ケアが必要な方の状態像（重度知的障害以外）
（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	寝たきり	24	9.4
2	座位保持装置有りで車椅子を常時使用	26	10.2
3	座位保持装置無しで車椅子を常時使用	47	18.5
4	歩行器等があれば歩行可能	37	14.6
5	問題なく歩行可能	107	42.1
	無回答（※）	96	37.8
	n	254	100.0

（※…重度知的障害者以外がいない場合を含む）

直近２年間で退居した利用者の移行先

直近２年間で退居した利用者の移行先については、「医療機関・療養介護」が最も多く、約 40.9%であった。

図表 146 直近２年間で退居した利用者の移行先（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医療機関・療養介護	104	40.9
2	障害者支援施設	38	15.0
3	別の共同生活援助事業所	103	40.6
4	一人暮らし	49	19.3
5	家族との同居	64	25.2
6	死亡	68	26.8
7	直近２年間には退居者がいない	35	13.8
	n	254	100.0

直近２年間で退居した利用者の退居理由

直近２年間で退居した利用者の退居理由については、「障害の重度化により事業所での対応が難しくなったため」が最も多く、約 37.3%であった。

図表 147 直近２年間で退居した利用者の退居理由

No.	回答	回答数	割合(%)
1	障害の重度化により事業所での対応が難しくなったため	22	37.3
2	事業所で対応できる人員が不足したため	2	3.4
3	本人から別の共同生活援助事業所へ転居したいという希望があったため	9	15.3
4	本人から一人暮らしをしたいという希望があったため	0	0.0
5	本人から家族と一緒に暮らしたいという希望があったため	0	0.0
6	家族から退居希望があったため	2	3.4
7	本人が死亡したため	14	23.7
8	その他	14	23.7
	n	59	100.0

医療的ケアが必要な方の受入を開始したきっかけ

医療的ケアが必要な方の受入を開始したきっかけについては、「入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから」が最も多く、約 50.0%であった。

図表 148 医療的ケアが必要な方の受入を開始したきっかけ（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医療的ケアが必要な方を対象として事業所を開設した	31	12.2
2	入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから	127	50.0
3	医療的ケアが必要な方やその家族から利用の相談があったから	64	25.2
4	別の事業所から相談があったから	14	5.5
5	相談支援事業所から相談があったから	64	25.2
6	医療的ケア児等コーディネーターから相談があったから	0	0.0
7	行政から相談があったから	16	6.3
8	その他	15	5.9
	無回答	1	0.4
	n	254	100.0

医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備や工夫の内容

医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備や工夫の内容については、ハード面の場合、無回答を除くと「その他」が約 26.8%で最も多かった。ソフト面の場合、「利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提供してもらった」が約 49.6%で最も多く、「夜間や緊急時に、利用者の主治医や地域の訪問看護師等に連絡や相談ができる体制を整えた」が約 44.5%でその次に多かった。

図表 149 医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備や工夫の内容（ハード面）（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	スロープの設置や建物の改修工事等により、バリアフリー化した	33	13.0
2	浴室を改修した	9	3.5
3	機械浴の設備を新たに導入した	18	7.1
4	トイレを改修した	11	4.3
5	必要な箇所に手すりを設置した	36	14.2
6	吊り下げ式のリフトを設置した	7	2.8
7	医療機器を購入した	17	6.7
8	コンセントの増加等の電気工事を行った	2	0.8
9	非常用電源を新たに導入した	5	2.0
10	その他	68	26.8
	（以下、「その他」の内容で多い回答）	-	-
	医ケア者を受け入れる想定で立ち上げたため追加設備は不要	6	2.4
	特になし	43	16.9
	無回答	117	46.1
	n	254	100.0

図表 150 医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備や工夫の内容（ソフト面）
（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	看護師・准看護師を増員した	39	15.4
2	職員を増員した	40	15.7
3	個人単位で居宅介護等のヘルパーを利用することにした	26	10.2
4	利用者の家族に医療的ケア等について聞き取った	70	27.6
5	利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提供してもらった	126	49.6
6	利用者ごとの医療的ケア実施手順書を作成した	68	26.8
7	夜間や緊急時に、利用者の主治医や地域の訪問看護師等に連絡や相談ができる体制を整えた	113	44.5
8	手技を身に付けたり知識を身に付けるための研修参加を職員に積極的に促している	53	20.9
9	定期的に事業所や法人内部で医療的ケアに関する研修や勉強会を行っている	45	17.7
10	他の医療的ケアが必要な方を受け入れている事業所と情報交換する	28	11.0
11	その他	44	17.3
	（以下、「その他」の内容で多い回答）	-	-
	訪問看護の利用を開始した	13	5.1
	特になし	5	2.0
	無回答	20	7.9
	n	254	100.0

医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難

医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難については、「医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保」が約 50.8%で最も多く、「利用者の急変に対応できる人員体制の確保」が約 50.0%でその次に多かった。

図表 151 医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保	129	50.8
2	利用者の急変に対応できる人員体制の確保	127	50.0
3	支援に必要な設備の導入・建物のリフォーム等の費用負担	43	16.9
4	医療的ケアが必要な方への支援リソースの集中（他の利用者へのサービスの低下の懸念）	83	32.7
5	他の利用者に受容してもらえないかという不安	28	11.0
6	その他	14	5.5
7	特になし	0	0.0
	無回答	55	21.7
	n	254	100.0

現在抱えている課題や困りごと

現在抱えている課題や困りごとについては、「利用者の急変に対応できる人員体制の確保」が約 51.2%で最も多く、「利用者の高齢化に伴う医療的ケアや服薬管理の負担の増加」が約 50.4%でその次に多かった。

図表 152 現在抱えている課題や困りごと（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保	102	40.2
2	利用者の急変に対応できる人員体制の確保	130	51.2
3	支援に必要な設備の導入・建物のリフォーム等の費用負担	49	19.3
4	医療的ケアが必要な方への支援リソースの集中（他の利用者へのサービスの低下の懸念）	61	24.0
5	利用者の高齢化に伴う医療的ケアや服薬管理の負担の増加	128	50.4
6	看取り・ターミナルケアの対応	66	26.0
7	災害時の対応	120	47.2
8	その他	10	3.9
9	特になし	31	12.2
	無回答	1	0.4
	n	254	100.0

利用者が必要とする医療的ケアの内容、対応頻度、支援体制

利用者が必要とする医療的ケアの内容については、「排便管理(排便、洗腸、浣腸)」が約 28.3%で最も多く、「皮下注射(インスリン、麻薬等含)」が約 19.7%でその次に多かった。医療的ケアの対応頻度および支援体制については、医療的ケアの内容ごとの回答結果を以下に示す。

図表 153 利用者が必要とする医療的ケアの内容（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	人工呼吸器の管理	12	4.7
2	気管切開の管理	9	3.5
3	鼻咽頭エアウェイの管理	2	0.8
4	酸素療法	24	9.4
5	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	38	15.0
6	ネブライザーの管理	12	4.7
7	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	14	5.5
8	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	39	15.4
9	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	6	2.4
10	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	1	0.4
11	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	50	19.7
12	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	6	2.4
13	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	38	15.0
14	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	16	6.3
15	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	21	8.3
16	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	13	5.1
17	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	44	17.3
18	排便管理（消化管ストーマ）	30	11.8
19	排便管理（排便、洗腸、浣腸）	72	28.3
20	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	27	10.6
21	医師の指示書に基づくその他のケア	38	15.0
	n	254	100.0

図表 154 ①人工呼吸器の管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	2	16.7
3	3～5時間に1回	4	33.3
4	6～11時間に1回	4	33.3
5	12時間に1回	1	8.3
6	24時間に1回	1	8.3
7	その他	0	0.0
	n	12	100.0

※無回答0 平均6.92時間 中央値6時間 最大値24時間 最小値1時間

図表 155 ②気管切開の管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	4	44.4
3	3～5時間に1回	3	33.3
4	6～11時間に1回	1	11.1
5	12時間に1回	1	11.1
6	24時間に1回	0	0.0
7	その他	0	0.0
	n	9	100.0

※無回答0 平均3.78時間 中央値3時間 最大値12時間 最小値1時間

図表 156 ③鼻咽頭エアウェイの管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	1	50.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	1	50.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	その他	0	0.0
	n	2	100.0

※無回答0 平均3.5時間 中央値3.5時間 最大値6時間 最小値1時間

図表 157 ④酸素療法の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	9	37.5
3	3～5時間に1回	6	25.0
4	6～11時間に1回	5	20.8
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	2	8.3
7	その他	2	8.3
	n	24	100.0

※無回答0 平均185.46時間 中央値3.5時間 最大値4320時間 最小値1時間

図表 158 ⑤吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	2.6
2	1～2時間に1回	13	34.2
3	3～5時間に1回	6	15.8
4	6～11時間に1回	6	15.8
5	12時間に1回	2	5.3
6	24時間に1回	5	13.2
7	その他	5	13.2
	n	38	100.0

※無回答0 平均16.5時間 中央値3.5時間 最大値168時間 最小値0時間

図表 159 ⑥ネブライザーの管理の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	3	25.0
4	6～11時間に1回	4	33.3
5	12時間に1回	4	33.3
6	24時間に1回	1	8.3
7	その他	0	0.0
	n	12	100.0

※無回答0 平均8.92時間 中央値6時間 最大値24時間 最小値3時間

図表 160 ⑦経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	2	14.3
3	3～5時間に1回	4	28.6
4	6～11時間に1回	4	28.6
5	12時間に1回	2	14.3
6	24時間に1回	2	14.3
7	その他	0	0.0
	n	14	100.0

※無回答0 平均8.43時間 中央値6時間 最大値24時間 最小値2時間

図表 161 ⑧経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	4	10.3
3	3～5時間に1回	14	35.9
4	6～11時間に1回	15	38.5
5	12時間に1回	3	7.7
6	24時間に1回	3	7.7
7	その他	0	0.0
	n	39	100.0

※無回答0 平均7.13時間 中央値6時間 最大値24時間 最小値2時間

図表 162 ⑨経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	16.7
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	1	16.7
4	6～11時間に1回	2	33.3
5	12時間に1回	1	16.7
6	24時間に1回	1	16.7
7	その他	0	0.0
	n	6	100.0

※無回答0 平均8.5時間 中央値6時間 最大値24時間 最小値0時間

図表 163 ⑩中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	1	100.0
7	その他	0	0.0
	n	1	100.0

※無回答0 平均24時間 中央値24時間 最大値24時間 最小値24時間

図表 164 ⑪皮下注射（インスリン、麻薬等含）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	2.0
2	1～2時間に1回	1	2.0
3	3～5時間に1回	3	6.0
4	6～11時間に1回	12	24.0
5	12時間に1回	5	10.0
6	24時間に1回	23	46.0
7	その他	5	10.0
	n	50	100.0

※無回答0 平均41.02時間 中央値24時間 最大値336時間 最小値24時間

図表 165 ⑫皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	16.7
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	0	0.0
4	6～11時間に1回	1	16.7
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	4	66.7
7	その他	0	0.0
	n	6	100.0

※無回答0 平均17時間 中央値24時間 最大値24時間 最小値0時間

図表 166 ⑬血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	2.6
2	1～2時間に1回	2	5.3
3	3～5時間に1回	1	2.6
4	6～11時間に1回	14	36.8
5	12時間に1回	4	10.5
6	24時間に1回	13	34.2
7	その他	3	7.9
	n	38	100.0

※無回答0 平均22.87時間 中央値12時間 最大値168時間 最小値0時間

図表 167 ⑭血糖測定（埋め込み式血糖測定による）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	2	12.5
3	3～5時間に1回	3	18.8
4	6～11時間に1回	9	56.3
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	2	12.5
7	その他	0	0.0
	n	16	100.0

※無回答0 平均7.56時間 中央値6時間 最大値24時間 最小値1時間

図表 168 ⑮継続的な透析（血液透析、腹膜透析）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	4.8
2	1～2時間に1回	1	4.8
3	3～5時間に1回	3	14.3
4	6～11時間に1回	0	0.0
5	12時間に1回	0	0.0
6	24時間に1回	0	0.0
7	その他	16	76.2
	n	21	100.0

※無回答0 平均40.57時間 中央値48時間 最大値72時間 最小値0時間

図表 169 ⑩間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	1	7.7
3	3～5時間に1回	7	53.8
4	6～11時間に1回	1	7.7
5	12時間に1回	1	7.7
6	24時間に1回	2	15.4
7	その他	1	7.7
	n	13	100.0

※無回答0 平均10.92時間 中央値4時間 最大値48時間 最小値2時間

図表 170 ⑪持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	2.3
2	1～2時間に1回	5	11.4
3	3～5時間に1回	8	18.2
4	6～11時間に1回	14	31.8
5	12時間に1回	5	11.4
6	24時間に1回	8	18.2
7	その他	3	6.8
	n	44	100.0

※無回答0 平均184.82時間 中央値6時間 最大値7200時間 最小値0時間

図表 171 ⑫排便管理（消化管ストーマ）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	0	0.0
2	1～2時間に1回	2	6.7
3	3～5時間に1回	7	23.3
4	6～11時間に1回	7	23.3
5	12時間に1回	1	3.3
6	24時間に1回	4	13.3
7	その他	9	30.0
	n	30	100.0

※無回答0 平均28.03時間 中央値8時間 最大値144時間 最小値2時間

図表 172 ⑱排便管理（摘便、洗腸、浣腸）の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	1.4
2	1～2時間に1回	0	0.0
3	3～5時間に1回	5	6.9
4	6～11時間に1回	5	6.9
5	12時間に1回	1	1.4
6	24時間に1回	24	33.3
7	その他	36	50.0
	n	72	100.0

※無回答0 平均132.93時間 中央値30時間 最大値4320時間 最小値0時間

図表 173 ㉔痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置の対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	2	7.4
2	1～2時間に1回	2	7.4
3	3～5時間に1回	1	3.7
4	6～11時間に1回	2	7.4
5	12時間に1回	1	3.7
6	24時間に1回	6	22.2
7	その他	13	48.1
	n	27	100.0

※無回答0 平均862.52時間 中央値24時間 最大値8760時間 最小値0時間

図表 174 ㉕医師の指示書に基づくその他のケアの対応頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	常時	1	2.6
2	1～2時間に1回	3	7.9
3	3～5時間に1回	4	10.5
4	6～11時間に1回	8	21.1
5	12時間に1回	5	13.2
6	24時間に1回	13	34.2
7	その他	4	10.5
	n	38	100.0

※無回答0 平均23.11時間 中央値12時間 最大値240時間 最小値0時間

図表 175 ①人工呼吸器の管理の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	2	16.7
2	看護師または准看護師が実施している	12	100.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	4	33.3
	n	12	100.0

図表 176 ②気管切開の管理の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	1	11.1
2	看護師または准看護師が実施している	6	66.7
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	5	55.6
	n	9	100.0

図表 177 ③鼻咽頭エアウェイの管理の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	1	50.0
2	看護師または准看護師が実施している	2	100.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	1	50.0
	n	2	100.0

図表 178 ④酸素療法の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	3	12.5
2	看護師または准看護師が実施している	10	41.7
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	15	62.5
	n	24	100.0

図表 179 ⑤吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	2	5.3
2	看護師または准看護師が実施している	31	81.6
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	17	44.7
	n	38	100.0

図表 180 ⑥ネブライザーの管理の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	1	8.3
2	看護師または准看護師が実施している	9	75.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	5	41.7
	n	12	100.0

図表 181 ⑦経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	0	0.0
2	看護師または准看護師が実施している	8	57.1
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	8	57.1
	n	14	100.0

図表 182 ⑧経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	3	7.7
2	看護師または准看護師が実施している	30	76.9
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	21	53.8
	n	39	100.0

図表 183 ⑨経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	1	16.7
2	看護師または准看護師が実施している	5	83.3
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	2	33.3
	n	6	100.0

図表 184 ⑩中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	0	0.0
2	看護師または准看護師が実施している	1	100.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	0	0.0
	n	1	100.0

図表 185 ⑪皮下注射（インスリン、麻薬等含）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	3	6.0
2	看護師または准看護師が実施している	33	66.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	17	34.0
	n	50	100.0

図表 186 ⑫皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	0	0.0
2	看護師または准看護師が実施している	5	83.3
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	1	16.7
	n	6	100.0

図表 187 ⑬血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	1	2.6
2	看護師または准看護師が実施している	21	55.3
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	19	50.0
	n	38	100.0

図表 188 ⑭血糖測定（埋め込み式血糖測定による）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	3	18.8
2	看護師または准看護師が実施している	8	50.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	10	62.5
	n	16	100.0

図表 189 ⑮継続的な透析（血液透析、腹膜透析）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	16	76.2
2	看護師または准看護師が実施している	4	19.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	2	9.5
	n	21	100.0

図表 190 ⑯間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	2	15.4
2	看護師または准看護師が実施している	10	76.9
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	3	23.1
	n	13	100.0

図表 191 ⑰持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	13	29.5
2	看護師または准看護師が実施している	24	54.5
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	14	31.8
	n	44	100.0

図表 192 ⑱排便管理（消化管ストーマ）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	1	3.3
2	看護師または准看護師が実施している	22	73.3
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	15	50.0
	n	30	100.0

図表 193 ⑱排便管理（摘便、洗腸、浣腸）の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	5	6.9
2	看護師または准看護師が実施している	64	88.9
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	14	19.4
	n	72	100.0

図表 194 ㉔痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置の支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	1	3.7
2	看護師または准看護師が実施している	17	63.0
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	16	59.3
	n	27	100.0

図表 195 ㉕医師の指示書に基づくその他のケアの支援体制（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医師が実施している（外部の医師を含む）	4	10.5
2	看護師または准看護師が実施している	26	68.4
3	看護師・准看護師以外の職員が実施している	16	42.1
	n	38	100.0

医療的ケアが必要な方の平日の日中/平日の夕方や夜間/休日の主な過ごし方

医療的ケアが必要な方の主な過ごし方については、平日の日中の場合、「日中活動事業所に通っている」が約 73.6%で最も多く、平日の夕方や夜間の場合、「居室で過ごしている」が約 89.8%で最も多く、休日の場合、「居室で過ごしている」が約 77.6%で最も多かった。

図表 196 医療的ケアが必要な方の平日の日中の主な過ごし方（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	日中活動事業所に通っている	187	73.6
2	就労先に通っている	55	21.7
3	通学している	2	0.8
4	事業所でのレクリエーション活動等に参加している	44	17.3
5	事業所の職員と一緒に炊事や家事を行っている	8	3.1
6	居室で過ごしている	55	21.7
7	外出する	27	10.6
8	家族・親族等の家に帰省する	8	3.1
9	その他	7	2.8
	n	254	100.0

図表 197 医療的ケアが必要な方の平日の夕方や夜間の主な過ごし方（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	日中活動事業所に通っている	7	2.8
2	就労先に通っている	3	1.2
3	通学している	0	0.0
4	事業所でのレクリエーション活動等に参加している	14	5.5
5	事業所の職員と一緒に炊事や家事を行っている	24	9.4
6	居室で過ごしている	228	89.8
7	外出する	22	8.7
8	家族・親族等の家に帰省する	5	2.0
9	その他	10	3.9
	n	254	100.0

図表 198 医療的ケアが必要な方の休日の主な過ごし方（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	日中活動事業所に通っている	7	2.8
2	就労先に通っている	5	2.0
3	通学している	4	1.6
4	事業所でのレクリエーション活動等に参加している	43	16.9
5	事業所の職員と一緒に炊事や家事を行っている	29	11.4
6	居室で過ごしている	197	77.6
7	外出する	110	43.3
8	家族・親族等の家に帰省する	76	29.9
9	その他	10	3.9
	n	254	100.0

過ごし方をどのように決めているか

過ごし方をどのように決めているかについては、「個別支援計画作成時やモニタリング時に本人の意向を確認している」が最も多く、約 57.9%であった。

図表 199 過ごし方をどのように決めているか（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	毎日本人の意向を確認している	90	35.4
2	基本的にはルーティンになっているが、ときどき本人の意向を確認している	119	46.9
3	個別支援計画作成時やモニタリング時に本人の意向を確認している	147	57.9
4	本人の意向は確認せず、あらかじめ事業所で決めたスケジュールに沿って支援している	19	7.5
5	その他	19	7.5
	n	254	100.0

事業所の職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度

事業所の職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度については、「月に1回」が最も多く、約 34.6%であった。

図表 200 事業所の職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度

No.	回答	回答数	割合(%)
1	ほぼ毎日	4	1.6
2	週に2~3回	28	11.0
3	週に1回	11	4.3
4	2~3週に1回	27	10.6
5	月に1回	88	34.6
6	数か月に1回	32	12.6
7	原則、通院に職員が付き添うことはない	49	19.3
8	その他	15	5.9
	n	254	100.0

困りごとを相談する外部の関係者や関係機関

困りごとを相談する外部の関係者や関係機関については、「利用者のかかりつけ医・主治医」が最も多く、約 88.6%であった。

図表 201 困りごとを相談する外部の関係者や関係機関（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	利用者のかかりつけ医・主治医	225	88.6
2	訪問看護ステーション	150	59.1
3	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職	33	13.0
4	相談支援専門員	122	48.0
5	医療的ケア児等コーディネーターや医療的ケア児等支援センター	3	1.2
6	居宅介護事業所や重度訪問介護事業所	13	5.1
7	利用者の通う日中活動事業所、学校、企業等	68	26.8
8	社会福祉協議会	4	1.6
9	（自立支援）協議会	5	2.0
10	利用者の家族	123	48.4
11	利用者の後見人	37	14.6
12	その他	11	4.3
13	特になし	3	1.2
	n	254	100.0

取得している加算

取得している加算については、「加算は取っていない」が最も多く、約 35.4%であった。

図表 202 取得している加算（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	医療的ケア対応支援加算	20	7.9
2	医療連携体制加算（Ⅰ）	13	5.1
3	医療連携体制加算（Ⅱ）	5	2.0
4	医療連携体制加算（Ⅲ）	3	1.2
5	医療連携体制加算（Ⅳ）	29	11.4
6	医療連携体制加算（Ⅴ）	7	2.8
7	医療連携体制加算（Ⅵ）	6	2.4
8	医療連携体制加算（Ⅶ）	85	33.5
9	看護職員配置加算	38	15.0
10	重度障害者支援加算	51	20.1
11	加算は取っていない	90	35.4
	n	254	100.0

医療的ケアに関する自治体による補助

医療的ケアに関する自治体による補助については、「自治体による補助は受けていない」が最も多く、約 91.7%であった。

図表 203 医療的ケアに関する自治体による補助（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	施設・設備整備補助	5	2.0
2	運営費補助	11	4.3
3	職員の研修等に関する補助	8	3.1
4	その他（それ以外に医療的ケアに関する補助）	0	0.0
5	自治体による補助は受けていない	233	91.7
	n	254	100.0

個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置⁴を活用している利用者の有無

個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置を活用している利用者の有無については、「いない」が約 83.1%で、「いる」が約 16.1%であった。

図表 204 個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置を活用している利用者の有無

No.	回答	回答数	割合(%)
1	いる	41	16.1
2	いない	211	83.1
	無回答	2	0.8
	n	254	100.0

利用している居宅介護や重度訪問介護の事業所の法人は、共同生活援助事業所と同じか

利用している居宅介護や重度訪問介護の事業所の法人は、共同生活援助事業所と同じかについては、「共同生活援助事業所と異なる法人の事業所を利用している」が最も多く、約 65.9%であった。

図表 205 利用している居宅介護や重度訪問介護の事業所の法人は、共同生活援助事業所と同じか（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	グループホームと同じ法人の事業所を利用している	21	51.2
2	グループホームと異なる法人の事業所を利用している	27	65.9
	n	41	100.0

⁴ グループホームを利用する重度の障害者（区分4以上等の要件あり）に限って、個人単位の居宅介護等の利用を認める経過措置のこと。

< C. 単純集計：医療的ケアが必要な方を受け入れたことがない事業所への設問 >

これまでの医療的ケアを必要とする者の受入に関する問い合わせの有無

これまでの医療的ケアを必要とする者の受入に関する問い合わせの有無については、「これまでに問い合わせが来たことはない」が最も多く、約 74.9%であった。

図表 206 これまでの医療的ケアを必要とする者の受入に関する問い合わせの有無（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	問い合わせがあったが、利用者側の都合で利用に至らなかった	79	4.0
2	問い合わせがあったが、受入が困難と考え、利用に至らなかった	425	21.5
3	これまでに問い合わせが来たことはない	1,478	74.9
	n	1,974	100.0

受入れが困難と判断する理由

受入れが困難と判断する理由については、「医療的ケアができる看護師等や介護職員等がないから」が最も多く、約 68.8%であった。

図表 207 受入れが困難と判断する理由（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	廊下の幅や居室、浴室等が医療的ケア者に対応できる十分な大きさではないから	907	45.9
2	階段があるが、スロープやエレベーターの設置が難しいから	724	36.7
3	必要な医療機器を購入する金銭的余裕がないから	411	20.8
4	医療的ケアができる看護師等や介護職員等がないから	1,359	68.8
5	職員の負担が増大するのを避けたかったから	327	16.6
6	医療的ケアを実施することに職員の理解が得られなかったから	45	2.3
7	医療的ケアが必要な利用者と他利用者との双方の安全が確保できないと考えたから	518	26.2
8	緊急時の対応に不安があったから	528	26.7
9	その他	135	6.8
	(以下、「その他」の内容で多い回答)	-	-
	夜間も含め常時医療的ケアに対応できるような人員体制を確保できないから	42	2.1
	医療的ケアが必要な方以外のニーズで定員がいっぱいだから	4	0.2
	重度知的障害や強度行動障害の方の受入れを優先しているから	6	0.3
	精神障害に特化した支援をしているから	5	0.3
	具体的に検討したことがないため分からない	35	1.8
	n	1,974	100.0

今後、入居中の利用者に医療的ケアが必要になった場合や、医療的ケアが必要な方から入居希望があった場合の対応予定

今後、入居中の利用者に医療的ケアが必要になった場合や、医療的ケアが必要な方から入居希望があった場合の対応予定については、「対応することは難しいと考える」が最も多く、約 55.5%であった。

図表 208 今後の対応予定

No.	回答	回答数	割合(%)
1	積極的に対応したい	30	1.5
2	話を聞き、対応可能かどうか判断したい	849	43.0
3	対応することは難しいと考える	1,095	55.5
	n	1,974	100.0

医療的ケアが必要な方を受け入れるために必要な条件

医療的ケアが必要な方を受け入れるために必要な条件については、「医療的ケアが実施できる看護師や介護職が採用できた場合」が約 59.5%で最も多く、「受け入れるための施設・設備整備への補助がある場合」が約 55.1%でその次に多かった。

図表 209 医療的ケアが必要な方を受け入れるために必要な条件（複数回答）

No.	回答	回答数	割合(%)
1	受け入れるための施設・設備整備への補助がある場合	1,087	55.1
2	近隣の訪問看護ステーション等の支援が受けられる体制が整った場合	619	31.4
3	職員が医療的ケアの手技に関する研修を受けられる場合	315	16.0
4	医療的ケアが実施できる看護師や介護職が採用できた場合	1,174	59.5
5	地域の医療的ケア者受け入れ事業所と協力・相談体制が取れる場合	493	25.0
6	受け入れることによる加算が充実した場合	489	24.8
7	医療職以外が実施可能な医療的ケアの拡大や免責等、法的な整備が行われた場合	454	23.0
8	現在の設備・体制で受入が可能	52	2.6
9	その他	151	7.6
	(以下、「その他」の内容で多い回答)	-	-
	慢性的な人員不足が解消された場合	45	2.3
	建物がバリアフリーになっていないため、物理的に不可能だと思う	16	0.8
	重度知的障害や行動障害がある現在の利用者とのバランスを考えると難しい	15	0.8
	n	1,974	100.0

<D. クロス集計：すべての事業所への設問>

法人格×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

サンプル数が十分でない医療法人を除くと、いずれの法人格においても、現在もしくは過去に医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあると回答した事業所が約1割だった。

医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるかのうち「過去に検討したことがあるが、受入れに至らなかった」と回答した割合が最も多かったのは「営利法人（株式・合名・合資・合同・有限会社）」で、14.8%であった。

図表 210 法人格×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

			合計	Q104.医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか				
				現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない
		n	2228	195	59	100	196	1678
		割合(%)	100.0	8.8	2.6	4.5	8.8	75.3
Q 3 ・ 該 当 す る 法 人 格	都道府県、市区町村、一部事務組合	n	10	0	0	0	0	10
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	社会福祉法人	n	886	81	26	22	54	703
		割合(%)	100.0	9.1	2.9	2.5	6.1	79.3
	医療法人	n	98	5	3	0	1	89
		割合(%)	100.0	5.1	3.1	0.0	1.0	90.8
	営利法人（株式・合名・合資・合同・有限会社）	n	805	66	25	60	119	535
		割合(%)	100.0	8.2	3.1	7.5	14.8	66.5
特定非営利活動法人（NPO）	n	321	32	4	11	12	262	
	割合(%)	100.0	10.0	1.2	3.4	3.7	81.6	
独立行政法人	n	1	0	0	0	0	1	
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
その他	n	107	11	1	7	10	78	
	割合(%)	100.0	10.3	0.9	6.5	9.3	72.9	

サービス類型×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

現在もしくは過去に医療的ケアが必要な方を受け入れたことがある事業所の類型は、「日中サービス支援型」が最も多く、17.1%であった。なお、「過去に検討したことがあるが、受入れに至らなかった」と回答したのも「日中サービス支援型」が最も多く、17.1%であった。

図表 211 サービス類型×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

			合計	Q104.医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか				
				現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない
		n	2228	195	59	100	196	1678
		割合(%)	100.0	8.8	2.6	4.5	8.8	75.3
Q 6 ・ 類 型	介護サービス包括型	n	1795	148	44	77	144	1382
		割合(%)	100.0	8.2	2.5	4.3	8.0	77.0
	外部サービス利用型	n	195	5	4	4	12	170
		割合(%)	100.0	2.6	2.1	2.1	6.2	87.2
	日中サービス支援型	n	234	40	9	19	40	126
		割合(%)	100.0	17.1	3.8	8.1	17.1	53.8

主たる障害種別×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

主たる障害種別が「知的」、「精神（発達障害・高次脳機能障害を含む）」の事業所では、医療的ケアを必要とする者の受入れについて、「これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない」と回答したのが約8割で最も多かった。主たる障害種別が「身体」の事業所でも「これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない」と回答したのが47.9%で最も多かった。ただし、「身体」の事業所では現在もしくは過去に受け入れたことがある事業所の合計は3割を超え、サンプル数が少ない「難病」の事業所を除くと、現在もしくは過去に受け入れたことがある事業所の割合が最も高かった。

図表 212 主たる障害種別×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

				Q104.医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか					
			合計	現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない	
		n	2228	195	59	100	196	1678	
		割合(%)	100.0	8.8	2.6	4.5	8.8	75.3	
Q7・主たる障害種別	身体	n	73	21	3	4	10	35	
		割合(%)	100.0		4.1	5.5	13.7	47.9	
	知的	n	1042	80	21	37	66	838	
		割合(%)	100.0		2.0	3.6	6.3	80.4	
	精神（発達障害・高次脳機能障害を含む）	n	621	34	17	26	54	490	
		割合(%)	100.0		2.7	4.2	8.7	78.9	
	難病	n	3	2	0	0	0	1	
		割合(%)	100.0		66.7	0.0	0.0	33.3	
定めていない	n	489	58	18	33	66	314		
	割合(%)	100.0		3.7	6.7	13.5	64.2		

建物の種別×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

建物が新築（「新築のグループホーム用住宅」、「新築のグループホーム用集合住宅（マンションやアパート）」）の事業所の方が、他の建物種別に比べ、現在もしくは過去に医療的ケアが必要な方を受け入れたことがある割合がやや高い傾向が見られた。

図表 213 建物の種別×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

			合計	Q104.医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか				
				現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない
		n	2228	195	59	100	196	1678
		割合(%)	100.0	8.8	2.6	4.5	8.8	75.3
Q 8 ・ 建 物 の 種 別	既存の一般住宅	n	855	63	29	43	81	639
		割合(%)	100.0	7.4	3.4	5.0	9.5	74.7
	新築のグループホーム用住宅	n	1006	112	34	47	95	718
		割合(%)	100.0	11.1	3.4	4.7	9.4	71.4
	既存の集合住宅（マンションやアパート）	n	523	43	14	22	48	396
		割合(%)	100.0	8.2	2.7	4.2	9.2	75.7
	新築のグループホーム用集合住宅（マンションやアパート）	n	95	12	3	4	9	67
		割合(%)	100.0	12.6	3.2	4.2	9.5	70.5
法人所有の既存の建物をグループホーム用に転用	n	297	25	6	5	18	243	
	割合(%)	100.0	8.4	2.0	1.7	6.1	81.8	
その他		n	49	8	0	1	3	37
		割合(%)	100.0	16.3	0.0	2.0	6.1	75.5

地域の医療資源の状況×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

地域の医療資源の状況を「緊急時の往診に対応してくれる医療機関がある」と回答した事業所では、現在もしくは過去に医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあると回答した事業所が最も多く、合わせて20.1%だった。

図表 214 地域の医療資源の状況×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

			合計	Q104.医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか				
				現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない
		n	2228	195	59	100	196	1678
		割合(%)	100.0	8.8	2.6	4.5	8.8	75.3
Q10 02・地域の医療資源の状況	事業所の徒歩圏内に医療機関がある	n	1226	98	33	46	102	947
		割合(%)	100.0	8.0	2.7	3.8	8.3	77.2
	公共交通機関で無理なく行ける圏内に医療機関がある	n	801	69	24	27	79	602
		割合(%)	100.0	8.6	3.0	3.4	9.9	75.2
	車で15分程度走れば医療機関がある	n	1303	126	41	59	107	970
		割合(%)	100.0	9.7	3.1	4.5	8.2	74.4
	医療機関まで行くのに30分以上かかる	n	104	14	4	4	8	74
		割合(%)	100.0	13.5	3.8	3.8	7.7	71.2
	定期的な訪問診療を受けている利用者がいる	n	541	89	18	29	70	335
		割合(%)	100.0	16.5	3.3	5.4	12.9	61.9
	定期的な訪問看護を受けている利用者がいる	n	959	127	30	50	100	652
		割合(%)	100.0	13.2	3.1	5.2	10.4	68.0
	緊急時の往診に対応してくれる医療機関がある	n	512	85	18	35	70	304
		割合(%)	100.0	16.6	3.5	6.8	13.7	59.4
	いずれにも当てはまらない	n	5	0	0	1	0	4
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0

資格保有職員の配置状況×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

現在、医療的ケアを必要とする者を受け入れている事業所では、他の事業所に比べ、1事業所当たりの「看護師」や「介護福祉士」、「強度行動障害支援者養成研修又は行動援護従事者養成研修修了者」等の資格保有職員の配置人数が多い傾向が見られた。

図表 215 資格保有職員の配置状況×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

		医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか											
		現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている事業所		現在はいないが、過去に受け入れたことがある事業所		現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある事業所		過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった事業所		これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない事業所		全体	
		配置人数	1事業所当たりの配置人数	配置人数	1事業所当たりの配置人数	配置人数	1事業所当たりの配置人数	配置人数	1事業所当たりの配置人数	配置人数	1事業所当たりの配置人数		
職員の保有資格（延べ人数）	医師	1	0.01	0	0.00	1	0.01	0	0.00	19	0.01	21	0.01
	看護師	126	0.65	28	0.47	42	0.42	73	0.37	497	0.30	766	0.34
	准看護師	45	0.23	15	0.25	24	0.24	35	0.18	228	0.14	347	0.16
	社会福祉士	114	0.58	53	0.90	48	0.48	90	0.46	858	0.51	1163	0.52
	精神保健福祉士	61	0.31	25	0.42	15	0.15	46	0.23	540	0.32	687	0.31
	介護福祉士	604	3.10	144	2.44	206	2.06	436	2.22	2790	1.66	4180	1.88
	医療的ケア児等コーディネーター	6	0.03	2	0.03	3	0.03	3	0.02	16	0.01	30	0.01
	喀痰吸引等研修（第1号研修）修了者	45	0.23	6	0.10	7	0.07	8	0.04	33	0.02	99	0.04
	喀痰吸引等研修（第2号研修）修了者	23	0.12	8	0.14	10	0.10	9	0.05	36	0.02	86	0.04
	喀痰吸引等研修（第3号研修）修了者	111	0.57	14	0.24	20	0.20	15	0.08	49	0.03	209	0.09
	強度行動障害支援者養成研修又は行動援護従事者養成研修修了者	334	1.71	64	1.08	130	1.30	314	1.60	2003	1.19	2845	1.28
	介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級含む）	79	0.41	25	0.42	33	0.33	46	0.23	429	0.26	626	0.28
	介護福祉士実務者研修（旧ホームヘルパー1級・介護職員基礎研修含む）	101	0.52	10	0.17	41	0.41	59	0.30	415	0.25	95	0.04
	介護支援専門員	10	0.05	0	0.00	8	0.08	10	0.05	67	0.04	60	0.03
	社会福祉主事任用資格	12	0.06	6	0.10	4	0.04	7	0.04	31	0.02	176	0.08
	保育士	19	0.10	6	0.10	8	0.08	8	0.04	135	0.08	210	0.09
その他	36	0.18	5	0.08	8	0.08	14	0.07	147	0.09	612	0.27	
該当事業所数		195	-	59	-	100	-	196	-	1678	-	2228	-

医療職の体制×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている事業所では、他の事業所と比べて「常勤看護師」、「非常勤看護師」、「常勤准看護師」と回答した割合が多く、20%を超えていた。医療的ケアを必要とする者の受入れを「これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない」と回答した事業所では、「医療職を配置していない」と回答した割合が最も多く、6割を超えていた。

図表 216 医療職の体制×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

			Q94.事業所の医療職の体制									
			合計	常勤医師	非常勤医師	嘱託医	常勤 看護師	非常勤 看護師	常勤 准看護師	非常勤 准看護師	医療職を配置 していない	
た こ と が あ る か	Q 1 0 4 ・ 医 療 的 ケ ア の 受 け 入 れ	現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	n 割合(%)	2228 100.0	8 0.4	30 1.3	348 15.6	232 10.4	306 13.7	84 3.8	87 3.9	1366 61.3
		現在はいないが、過去に受け入れたことがある	n 割合(%)	195 100.0	1 0.5	5 2.6	27 13.8	42 21.5	44 22.6	18 9.2	10 5.1	91 46.7
		現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	n 割合(%)	59 100.0	0 0.0	1 1.7	7 11.9	10 16.9	10 16.9	4 6.8	5 8.5	29 49.2
		過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	n 割合(%)	100 100.0	0 0.0	1 1.0	15 15.0	13 13.0	14 14.0	8 8.0	8 8.0	54 54.0
		これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない	n 割合(%)	196 100.0	0 0.0	2 1.0	32 16.3	21 10.7	35 17.9	7 3.6	11 5.6	111 56.6
			n 割合(%)	1678 100.0	7 0.4	21 1.3	267 15.9	146 8.7	203 12.1	47 2.8	53 3.2	1081 64.4

取得している加算×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

医療的ケアが必要な者の受入れ状況ごとの取得している夜間支援等体制加算のそれぞれの割合について、医療的ケアが必要な者の受入れ状況による傾向は見られなかった。

図表 217 取得している加算×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

			合計	Q95.取得している加算							
				夜間支援等体制加算（Ⅰ）	夜間支援等体制加算（Ⅱ）	夜間支援等体制加算（Ⅲ）	夜間支援等体制加算（Ⅳ）	夜間支援等体制加算（Ⅴ）	夜間支援等体制加算（Ⅵ）	夜間支援等体制加算を取得している住居はない	
た こ と が あ る か	Q1	現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	n 割合(%)	2228 100.0	1181 53.0	399 17.9	525 23.6	37 1.7	16 0.7	24 1.1	314 14.1
	Q4	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	n 割合(%)	195 100.0	111 56.9	28 14.4	34 17.4	3 1.5	2 1.0	1 0.5	39 20.0
		現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	n 割合(%)	59 100.0	34 57.6	10 16.9	17 28.8	0 0.0	0 0.0	3 5.1	8 13.6
		過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	n 割合(%)	100 100.0	60 60.0	17 17.0	11 11.0	3 3.0	3 3.0	0 0.0	18 18.0
		これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない	n 割合(%)	196 100.0	116 59.2	22 11.2	27 13.8	4 2.0	4 2.0	0 0.0	46 23.5
	Q5		n 割合(%)	1678 100.0	860 51.3	322 19.2	436 26.0	27 1.6	7 0.4	20 1.2	203 12.1

登録喀痰吸引等事業者等の登録状況×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

現在もしくは過去に医療的ケアが必要な方を受け入れたことがある事業所では、他の事業所と比べて、登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者として登録している事業所の割合が最も多かった。一方で、現在医療的ケアの必要な方を受け入れている事業所であっても、登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の「いずれも登録していない」と回答したのが8割を超えていた。

図表 218 登録喀痰吸引等事業者等の登録状況×医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか

			Q103.登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況					
			合計	登録喀痰吸引等事業者として登録している	登録特定行為事業者として登録している	1年以内に登録喀痰吸引等事業者としての登録を予定している	1年以内に登録特定行為事業者としての登録を予定している	いずれも登録していない
Q104.現在、医療的ケアが必要な方を受け入れているか	現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている	n	2228	37	16	6	4	2175
		割合(%)	100.0	1.7	0.7	0.3	0.2	97.6
	現在はいないが、過去に受け入れたことがある	n	195	20	14	2	2	165
		割合(%)	100.0	10.3	7.2	1.0	1.0	84.6
	現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある	n	59	3	1	0	0	55
		割合(%)	100.0	5.1	1.7	0.0	0.0	93.2
	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	n	100	2	0	2	2	95
		割合(%)	100.0	2.0	0.0	2.0	2.0	95.0
Q105.過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった	n	196	4	1	1	0	191
		割合(%)	100.0	2.0	0.5	0.5	0.0	97.4
Q106.これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない	これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない	n	1678	8	0	1	0	1669
		割合(%)	100.0	0.5	0.0	0.1	0.0	99.5

＜E. クロス集計：医療的ケアが必要な方を受け入れたことがある事業所への設問＞

主たる障害種別×受入を開始したきっかけ

受入を開始したきっかけについて、「医療的ケアが必要な方を対象として事業所を開設した」と回答した事業所は、サンプル数が少ない「難病」の事業所を除くと、主たる障害が「身体」の事業所で最も多く、29.2%であった。また、主たる障害が「知的」の事業所では、「入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから」と回答した事業所が他の障害種別に比べて最も多く、60.0%であった。

図表 219 主たる障害種別×受入を開始したきっかけ

			Q133.受入を開始したきっかけ								
			合計	医療的ケアが必要な方を対象として事業所を開設した	入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから	医療的ケアが必要な方やその家族から利用の相談があったから	別の事業所から相談があったから	相談支援事業所から相談があったから	医療的ケア児等コーディネーターから相談があったから	行政から相談があったから	その他
種別	身体	n	254	31	127	64	14	64	0	16	15
		割合(%)	100.0	12.2	50.0	25.2	5.5	25.2	0.0	6.3	5.9
	知的	n	24	7	12	7	1	3	0	0	4
		割合(%)	100.0	29.2	50.0	29.2	4.2	12.5	0.0	0.0	16.7
	精神（発達障害・高次脳機能障害を含む）	n	101	6	61	20	5	11	0	5	6
		割合(%)	100.0	5.9	60.4	19.8	5.0	10.9	0.0	5.0	5.9
	難病	n	51	4	20	13	3	20	0	3	2
		割合(%)	100.0	7.8	39.2	25.5	5.9	39.2	0.0	5.9	3.9
定めていない		n	2	2	0	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		n	76	12	34	24	5	30	0	8	3
		割合(%)	100.0	15.8	44.7	31.6	6.6	39.5	0.0	10.5	3.9

利用者が必要とする医療的ケアの内容×受入を開始したきっかけ

21 種類の医療的ケアの選択肢のうち、15 種類において、受入を開始したきっかけを「入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから」と回答した事業所が最も多かった。

図表 220 利用者が必要とする医療的ケアの内容×受入を開始したきっかけ

			合計	Q133.受入を開始したきっかけ							
				医療的ケアが必要な方を対象として事業所を開設した	入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから	医療的ケアが必要な方やその家族から利用の相談があったから	別の事業所から相談があったから	相談支援事業所から相談があったから	医療的ケア児等コーディネーターから相談があったから	行政から相談があったから	その他
		n	254	31	127	64	14	64	0	16	15
		割合(%)	100.0	12.2	50.0	25.2	5.5	25.2	0.0	6.3	5.9
Q148・利用者が必要とする医療的ケアの内容	人工呼吸器の管理	n	12	5	3	2	0	1	0	1	2
		割合(%)	100.0	41.7	25.0	16.7	0.0	8.3	0.0	8.3	16.7
	気管切開の管理	n	9	2	2	3	0	0	0	0	3
		割合(%)	100.0	22.2	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n	2	1	1	1	0	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	酸素療法	n	24	5	15	7	0	6	0	1	2
		割合(%)	100.0	20.8	62.5	29.2	0.0	25.0	0.0	4.2	8.3
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n	38	11	21	11	2	3	0	2	3
		割合(%)	100.0	28.9	55.3	28.9	5.3	7.9	0.0	5.3	7.9
	ネブライザーの管理	n	12	4	6	3	0	0	0	1	2
		割合(%)	100.0	33.3	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n	14	5	4	4	0	4	0	2	1
		割合(%)	100.0	35.7	28.6	28.6	0.0	28.6	0.0	14.3	7.1
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n	39	13	20	12	2	4	0	1	3
		割合(%)	100.0	33.3	51.3	30.8	5.1	10.3	0.0	2.6	7.7
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n	6	2	2	4	0	1	0	0	1
		割合(%)	100.0	33.3	33.3	66.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n	1	0	1	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n	50	5	29	10	1	16	0	5	3
	割合(%)	100.0	10.0	58.0	20.0	2.0	32.0	0.0	10.0	6.0	
皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n	6	1	2	2	1	1	0	2	1	
	割合(%)	100.0	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	33.3	16.7	
血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n	38	6	17	8	4	11	0	4	4	
	割合(%)	100.0	15.8	44.7	21.1	10.5	28.9	0.0	10.5	10.5	
血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n	16	2	10	1	1	5	0	2	2	
	割合(%)	100.0	12.5	62.5	6.3	6.3	31.3	0.0	12.5	12.5	
継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n	21	4	6	5	2	7	0	2	1	
	割合(%)	100.0	19.0	28.6	23.8	9.5	33.3	0.0	9.5	4.8	
間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n	13	1	9	3	3	2	0	0	2	
	割合(%)	100.0	7.7	69.2	23.1	23.1	15.4	0.0	0.0	15.4	
持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n	44	6	23	12	4	11	0	4	2	
	割合(%)	100.0	13.6	52.3	27.3	9.1	25.0	0.0	9.1	4.5	
排便管理（消化管ストーマ）	n	30	5	19	9	2	8	0	6	1	
	割合(%)	100.0	16.7	63.3	30.0	6.7	26.7	0.0	20.0	3.3	
排便管理（排便、洗腸、浣腸）	n	72	16	34	23	4	15	0	4	6	
	割合(%)	100.0	22.2	47.2	31.9	5.6	20.8	0.0	5.6	8.3	
痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n	27	8	11	12	0	3	0	2	4	
	割合(%)	100.0	29.6	40.7	44.4	0.0	11.1	0.0	7.4	14.8	
医師の指示書に基づくその他のケア	n	38	6	15	10	3	15	0	3	4	
	割合(%)	100.0	15.8	39.5	26.3	7.9	39.5	0.0	7.9	10.5	

利用者が必要とする医療的ケアの内容×類型

事業所の類型により、利用者が必要とする医療的ケアの内容にばらつきが見られ、「血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）」や「痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置」については、介護サービス包括型での実施が最も多かった。「持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）」や「排便管理（摘便、洗腸、浣腸）」については、日中サービス支援型での実施が最も多かった。

図表 221 利用者が必要とする医療的ケアの内容×類型

				受入が可能な医療的ケアの種類																				
		合計	人工呼吸器の 管理	気管切開の管 理	鼻咽喉頭エア ウェイの管理	酸素療法	吸引（口鼻腔 又は気管内吸 引に限る）	ネブライザー の管理	経管栄養（経 鼻胃管、経鼻 腸管）	経管栄養（胃 ろう、経胃ろ う腸管、腸ろ う又は食道ろ う）	経管栄養（持 続経管注入ポ ンプ使用）	中心静脈カ テーテルの管 理（中心静脈 栄養、肺高血 圧症治療薬、 麻薬等）	皮下注射（イ ンスリン、麻 薬等含）	皮下注射（持 続皮下注射ポ ンプの使用）	血糖測定（持 続血糖測定を 含む。埋め込 み式血糖測定 以外）	血糖測定（埋 め込み式血糖 測定による）	継続的な透析 （血液透析、 腹膜透析）	間欠的導尿 （間隔を空け て実施する導 尿）	持続的導尿 （尿道留置カ テーテル、膀 胱ろう、腎ろ う又は尿路ス トーマ）	排便管理（消 化管ストー マ）	排便管理（摘 便、洗腸、洗 腸）	瘻管時における 座薬挿入、 吸引、酸素投 与又は迷走神 経刺激装置の 作動等の処置	医師の指示書 に基づくその 他のケア	
		n 割合(%)	250 100.0	12 4.8	9 3.6	2 0.8	24 9.6	38 15.2	12 4.8	14 5.6	39 15.6	6 2.4	1 0.4	49 19.6	6 2.4	37 14.8	16 6.4	21 8.4	12 4.8	44 17.6	28 11.2	70 28.0	27 10.8	38 15.2
Q 6 ・ 類 型	介護サービス包括型	n 割合(%)	192 100.0	7 3.6	5 2.6	1 0.5	18 9.4	27 14.1	9 4.7	11 5.7	29 15.1	4 2.1	1 0.5	38 19.8	5 2.6	32 16.7	12 6.3	18 9.4	9 4.7	30 15.6	18 9.4	48 25.0	22 11.5	30 15.6
		n 割合(%)	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	3 33.3	0 0.0	2 22.2	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1	0 0.0
	日中サービス支援型	n 割合(%)	49 100.0	5 10.2	4 8.2	1 2.0	6 12.2	9 18.4	3 6.1	3 6.1	8 16.3	2 4.1	0 0.0	8 16.3	1 2.0	3 6.1	3 6.1	2 4.1	3 6.1	14 28.6	10 20.4	20 40.8	4 8.2	8 16.3

（類型無効回答を除く）

利用者が必要とする医療的ケアの内容×事業所の医療職の体制

21 種類の医療的ケアの選択肢のうち、14 種類において、「医療職を配置していない」と回答した事業所が最も多かった。「人工呼吸器の管理」、「気管切開の管理」、「間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）」では、「常勤看護師」と回答した事業所が他よりも 10 ポイント以上高く、5 割を超えていた。

図表 222 利用者が必要とする医療的ケアの内容×事業所の医療職の体制

			合計	Q94.事業所の医療職の体制							
				常勤医師	非常勤医師	嘱託医	常勤看護師	非常勤看護師	常勤准看護師	非常勤准看護師	医療職を配置していない
		n 割合(%)	254 100.0	1 0.4	6 2.4	34 13.4	52 20.5	54 21.3	22 8.7	15 5.9	120 47.2
Q 1 4 8 ・ 利 用 者 が 必 要 と す る 医 療 的 ケ ア の 内 容	人工呼吸器の管理	n 割合(%)	12 100.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	8 66.7	2 16.7	1 8.3	0 0.0	4 33.3
	気管切開の管理	n 割合(%)	9 100.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	5 55.6	1 11.1	1 11.1	0 0.0	4 44.4
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n 割合(%)	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	酸素療法	n 割合(%)	24 100.0	0 0.0	0 0.0	4 16.7	7 29.2	3 12.5	3 12.5	0 0.0	11 45.8
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n 割合(%)	38 100.0	0 0.0	3 7.9	9 23.7	12 31.6	10 26.3	3 7.9	1 2.6	15 39.5
	ネブライザーの管理	n 割合(%)	12 100.0	0 0.0	1 8.3	3 25.0	5 41.7	5 41.7	2 16.7	1 8.3	6 50.0
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n 割合(%)	14 100.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	4 28.6	4 28.6	0 0.0	1 7.1	7 50.0
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n 割合(%)	39 100.0	0 0.0	2 5.1	9 23.1	12 30.8	11 28.2	4 10.3	3 7.7	14 35.9
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n 割合(%)	6 100.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	3 50.0	2 33.3	2 33.3	0 0.0	2 33.3
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n 割合(%)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n 割合(%)	50 100.0	0 0.0	2 4.0	4 8.0	10 20.0	11 22.0	6 12.0	5 10.0	27 54.0
	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n 割合(%)	6 100.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	3 50.0	4 66.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7
	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n 割合(%)	38 100.0	0 0.0	3 7.9	5 13.2	14 36.8	13 34.2	5 13.2	5 13.2	12 31.6
	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n 割合(%)	16 100.0	0 0.0	1 6.3	3 18.8	3 18.8	4 25.0	2 12.5	4 25.0	8 50.0
	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n 割合(%)	21 100.0	0 0.0	0 0.0	1 4.8	2 9.5	4 19.0	2 9.5	2 9.5	13 61.9
	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n 割合(%)	13 100.0	0 0.0	1 7.7	1 7.7	7 53.8	3 23.1	3 23.1	2 15.4	4 30.8
	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n 割合(%)	44 100.0	1 2.3	1 2.3	8 18.2	12 27.3	8 18.2	4 9.1	2 4.5	16 36.4
	排便管理（消化管ストーマ）	n 割合(%)	30 100.0	0 0.0	1 3.3	7 23.3	6 20.0	5 16.7	4 13.3	3 10.0	11 36.7
	排便管理（排便、洗腸、浣腸）	n 割合(%)	72 100.0	0 0.0	3 4.2	12 16.7	21 29.2	23 31.9	8 11.1	7 9.7	20 27.8
	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n 割合(%)	27 100.0	0 0.0	0 0.0	5 18.5	6 22.2	8 29.6	3 11.1	2 7.4	9 33.3
医師の指示書に基づくその他のケア	n 割合(%)	38 100.0	0 0.0	1 2.6	5 13.2	6 15.8	10 26.3	4 10.5	3 7.9	21 55.3	

利用者が必要とする医療的ケアの内容×取得している加算

21 種類の医療的ケアの選択肢のうち、15 種類において、「医療連携体制加算（Ⅶ）」を取得している事業所が最も多かった。

図表 223 利用者が必要とする医療的ケアの内容×取得している加算

			合計	Q196.取得している加算																		
				医療的ケア 対応支援加 算	医療連携体 制加算 (Ⅰ)	医療連携体 制加算 (Ⅱ)	医療連携体 制加算 (Ⅲ)	医療連携体 制加算 (Ⅳ)	医療連携体 制加算 (Ⅴ)	医療連携体 制加算 (Ⅵ)	医療連携体 制加算 (Ⅶ)	看護職員配 置加算	重度障害者 支援加算	加算は取っ ていない								
		n	254	20	13	5	3	29	7	6	85	38	51	90								
		割合(%)	100.0	7.9	5.1	2.0	1.2	11.4	2.8	2.4	33.5	15.0	20.1	35.4								
Q 1 4 8 ・ 利 用 者 が 必 要 と す る 医 療 的 ケ ア の 内 容	人工呼吸器の管理	n	12	3	1	1	1	3	1	0	6	2	2	1								
		割合(%)	100.0	25.0	8.3	8.3	8.3	25.0	8.3	0.0	50.0	16.7	16.7	8.3								
	気管切開の管理	n	9	1	1	1	1	2	0	0	5	2	2	2								
		割合(%)	100.0	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	55.6	22.2	22.2	22.2								
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n	2	0	1	1	1	1	0	0	2	0	0	0								
		割合(%)	100.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0								
	酸素療法	n	24	2	1	1	1	5	1	0	6	5	5	12								
		割合(%)	100.0	8.3	4.2	4.2	4.2	20.8	4.2	0.0	25.0	20.8	20.8	50.0								
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n	38	5	4	2	1	9	1	1	13	6	13	8								
		割合(%)	100.0	13.2	10.5	5.3	2.6	23.7	2.6	2.6	34.2	15.8	34.2	21.1								
	ネブライザーの管理	n	12	4	2	1	1	2	0	0	5	3	3	2								
		割合(%)	100.0	33.3	16.7	8.3	8.3	16.7	0.0	0.0	41.7	25.0	25.0	16.7								
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n	14	1	1	1	1	2	1	0	6	1	3	5								
		割合(%)	100.0	7.1	7.1	7.1	7.1	14.3	7.1	0.0	42.9	7.1	21.4	35.7								
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n	39	6	2	2	1	11	0	5	17	5	12	9								
		割合(%)	100.0	15.4	5.1	5.1	2.6	28.2	0.0	12.8	43.6	12.8	30.8	23.1								
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n	6	2	0	0	0	0	0	0	1	2	1	3								
		割合(%)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7	50.0								
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1								
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0								
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n	50	5	1	1	0	6	2	1	17	6	6	18								
	割合(%)	100.0	10.0	2.0	2.0	0.0	12.0	4.0	2.0	34.0	12.0	12.0	36.0									
皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n	6	1	0	0	1	0	0	0	3	1	1	1									
	割合(%)	100.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	16.7	16.7									
血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n	38	4	1	1	1	5	1	0	16	9	8	10									
	割合(%)	100.0	10.5	2.6	2.6	2.6	13.2	2.6	0.0	42.1	23.7	21.1	26.3									
血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n	16	2	0	0	1	0	1	0	2	3	1	9									
	割合(%)	100.0	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	12.5	18.8	6.3	56.3									
継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n	21	2	2	0	0	0	0	0	6	2	0	12									
	割合(%)	100.0	9.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	9.5	0.0	57.1									
間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n	13	0	1	1	1	2	1	1	6	3	1	6									
	割合(%)	100.0	0.0	7.7	7.7	7.7	15.4	7.7	7.7	46.2	23.1	7.7	46.2									
持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n	44	7	1	1	0	7	1	2	15	8	14	13									
	割合(%)	100.0	15.9	2.3	2.3	0.0	15.9	2.3	4.5	34.1	18.2	31.8	29.5									
排便管理（消化管ストーマ）	n	30	4	1	0	1	0	2	1	10	7	4	9									
	割合(%)	100.0	13.3	3.3	0.0	3.3	0.0	6.7	3.3	33.3	23.3	13.3	30.0									
排便管理（排便、洗腸、浣腸）	n	72	10	6	4	2	17	1	3	28	13	23	13									
	割合(%)	100.0	13.9	8.3	5.6	2.8	23.6	1.4	4.2	38.9	18.1	31.9	18.1									
痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n	27	3	2	1	1	4	1	0	10	4	6	7									
	割合(%)	100.0	11.1	7.4	3.7	3.7	14.8	3.7	0.0	37.0	14.8	22.2	25.9									
医師の指示書に基づくその他のケア	n	38	4	3	1	0	6	2	0	13	6	8	10									
	割合(%)	100.0	10.5	7.9	2.6	0.0	15.8	5.3	0.0	34.2	15.8	21.1	26.3									

利用者が必要とする医療的ケアの内容×受入のために施した整備や工夫の内容（ハード面）

医療的ケアの内容によって、受入のために施した整備の内容にはばらつきが見られた。

なお、「その他」と回答した 68 事業所のうち 43 事業所が「特に整備は行っていない」と回答していることに留意が必要である。

図表 224 利用者が必要とする医療的ケアの内容×受入のために施した整備や工夫の内容（ハード面）

				合計	Q134.受入のために施した整備や工夫の内容									
					スロープの設置や建物の改修工事等により、バリアフリー化した	浴室を改修した	機械浴の設備を新たに導入した	トイレを改修した	必要な箇所に手すりを設置した	吊り下げ式のリフトを設置した	医療機器を購入した	コンセントの増加等の電気工事を行った	非常用電源を新たに導入した	その他
			n	254	33	9	18	11	36	7	17	2	5	68
			割合(%)	100.0	13.0	3.5	7.1	4.3	14.2	2.8	6.7	0.8	2.0	46.1
Q14.利用者が必要とする医療的ケアの内容	人工呼吸器の管理	n	12	3	1	3	2	2	1	2	1	1	1	3
		割合(%)	100.0	25.0	8.3	25.0	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	25.0
	気管切開の管理	n	9	1	0	1	0	0	1	2	0	1	1	5
		割合(%)	100.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1	11.1	55.6
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	酸素療法	n	24	3	1	1	1	3	0	3	0	0	0	9
		割合(%)	100.0	12.5	4.2	4.2	4.2	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n	38	10	4	10	2	8	3	8	1	2	2	8
		割合(%)	100.0	26.3	10.5	26.3	5.3	21.1	7.9	21.1	2.6	5.3	5.3	21.1
	ネブライザーの管理	n	12	1	0	1	0	0	0	2	1	0	0	6
		割合(%)	100.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	50.0
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n	14	1	1	2	0	1	1	1	0	0	0	7
		割合(%)	100.0	7.1	7.1	14.3	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	50.0
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n	39	11	4	8	2	7	4	4	1	4	4	7
		割合(%)	100.0	28.2	10.3	20.5	5.1	17.9	10.3	10.3	2.6	10.3	10.3	17.9
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n	6	2	1	0	0	2	1	0	0	0	0	2
		割合(%)	100.0	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n	50	5	3	4	3	11	1	2	1	1	1	19
		割合(%)	100.0	10.0	6.0	8.0	6.0	22.0	2.0	4.0	2.0	2.0	2.0	38.0
	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n	6	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
		割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n	38	5	2	5	3	6	1	1	1	1	1	13
		割合(%)	100.0	13.2	5.3	13.2	7.9	15.8	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	34.2
	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n	16	3	2	2	3	6	1	0	0	1	1	5
		割合(%)	100.0	18.8	12.5	12.5	18.8	37.5	6.3	0.0	0.0	6.3	6.3	31.3
継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n	21	4	2	2	1	5	1	0	1	1	1	7	
	割合(%)	100.0	19.0	9.5	9.5	4.8	23.8	4.8	0.0	4.8	4.8	4.8	33.3	
間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n	13	0	0	0	0	3	0	1	1	0	0	2	
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	
持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、胃ろう又は尿路ストーマ）	n	44	8	3	8	2	10	1	4	0	1	1	8	
	割合(%)	100.0	18.2	6.8	18.2	4.5	22.7	2.3	9.1	0.0	2.3	2.3	18.2	
排便管理（消化管ストーマ）	n	30	1	2	2	3	3	1	1	0	1	1	6	
	割合(%)	100.0	3.3	6.7	6.7	10.0	10.0	3.3	3.3	0.0	3.3	3.3	20.0	
排便管理（摘便、洗腸、洗腸）	n	72	14	3	9	6	11	5	11	0	2	2	20	
	割合(%)	100.0	19.4	4.2	12.5	8.3	15.3	6.9	15.3	0.0	2.8	2.8	27.8	
瘻管時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	n	27	5	0	0	2	2	1	6	0	1	1	9	
	割合(%)	100.0	18.5	0.0	0.0	7.4	7.4	3.7	22.2	0.0	3.7	3.7	33.3	
医師の指示書に基づくその他のケア	n	38	9	2	4	2	12	1	3	2	1	1	10	
	割合(%)	100.0	23.7	5.3	10.5	5.3	31.6	2.6	7.9	5.3	2.6	2.6	26.3	

（「その他」には「特に整備は行っていない」（43件）を含む）

利用者が必要とする医療的ケアの内容×受入のために施した整備や工夫の内容（ソフト面）

21 種類の医療的ケアの選択肢のうち、14 種類において、「利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提供してもらった」と回答した事業所が6割を超えていた。また、看護師等を含めた事業所の職員の増員については、医療的ケアの内容によって対応の有無にばらつきが見られた。

図表 225 利用者が必要とする医療的ケアの内容×受入のために施した整備や工夫の内容（ソフト面）

		Q145.医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備や工夫の内容											
		合計	看護師・准看護師を増員した	職員を増員した	個人単位で居宅介護等のヘルパーを利用することにした	利用者の家族に医療的ケア等について聞き取った	利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提出してもらった	利用者ごとの医療的ケア実施手順書を作成した	夜間や緊急時に、利用者の主治医や地域の訪問看護師等に連絡や相談ができる体制を整えた	手技を身に付けたり知識を身に付けるための研修参加を職員に積極的に促している	定期的に事業所や法人内部で医療的ケアに関する研修や勉強会を行っている	他の医療的ケアが必要な方を受け入れている事業所と情報交換する	その他
Q145.利用者が必要とする医療的ケアの内容		n 254 割合(%) 100.0	39 15.4	40 15.7	26 10.2	70 27.6	126 49.6	68 26.8	113 44.5	53 20.9	45 17.7	28 11.0	44 17.3
	人工呼吸器の管理	n 12 割合(%) 100.0	6 50.0	6 50.0	4 33.3	5 41.7	11 91.7	5 41.7	6 50.0	3 25.0	5 41.7	1 8.3	1 8.3
	気管切開の管理	n 9 割合(%) 100.0	4 44.4	4 66.7	6 33.3	3 55.6	5 77.8	7 55.6	5 77.8	7 55.6	4 44.4	2 22.2	0 0.0
	鼻咽喉頭エアウェイの管理	n 2 割合(%) 100.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	酸素療法	n 24 割合(%) 100.0	3 12.5	6 25.0	2 8.3	8 33.3	18 75.0	9 37.5	14 58.3	6 25.0	6 25.0	2 8.3	1 4.2
	吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	n 38 割合(%) 100.0	13 34.2	14 36.8	8 21.1	21 55.3	29 76.3	19 50.0	26 68.4	16 42.1	10 26.3	6 15.8	0 0.0
	ネブライザーの管理	n 12 割合(%) 100.0	5 41.7	6 50.0	3 25.0	8 66.7	12 100.0	8 66.7	10 83.3	6 50.0	6 50.0	4 33.3	0 0.0
	経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	n 14 割合(%) 100.0	4 28.6	6 42.9	4 28.6	8 57.1	10 71.4	10 57.1	10 71.4	5 35.7	5 35.7	1 7.1	0 0.0
	経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	n 39 割合(%) 100.0	12 30.8	14 35.9	9 23.1	17 43.6	25 64.1	20 51.3	24 61.5	12 30.8	6 15.4	5 12.8	2 5.1
	経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	n 6 割合(%) 100.0	2 33.3	4 66.7	2 33.3	3 50.0	5 83.3	4 66.7	6 100.0	2 33.3	3 50.0	1 16.7	0 0.0
	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）	n 1 割合(%) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	皮下注射（インスリン、麻薬等含）	n 50 割合(%) 100.0	9 18.0	6 12.0	4 8.0	11 22.0	25 50.0	11 22.0	19 38.0	5 10.0	6 12.0	5 10.0	9 18.0
	皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）	n 6 割合(%) 100.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	0 0.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0
	血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）	n 38 割合(%) 100.0	8 21.1	5 13.2	3 7.9	11 28.9	22 57.9	12 31.6	15 39.5	8 21.1	8 21.1	3 7.9	6 15.8
	血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	n 16 割合(%) 100.0	3 18.8	2 12.5	3 18.8	3 18.8	7 43.8	4 25.0	5 31.3	2 12.5	4 25.0	0 0.0	3 18.8
	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）	n 21 割合(%) 100.0	4 19.0	4 19.0	4 19.0	4 19.0	14 66.7	4 19.0	11 52.4	1 4.8	6 28.6	1 4.8	3 14.3
	間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	n 13 割合(%) 100.0	4 30.8	2 15.4	2 15.4	1 7.7	4 30.8	1 7.7	5 38.5	2 15.4	0 0.0	4 30.8	1 7.7
	持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	n 44 割合(%) 100.0	11 25.0	3 6.8	4 9.1	10 22.7	18 40.9	12 27.3	20 45.5	5 11.4	7 15.9	7 15.9	1 2.3
	排便管理（消化管ストーマ）	n 30 割合(%) 100.0	7 23.3	3 10.0	2 6.7	7 23.3	16 53.3	7 23.3	13 43.3	8 26.7	9 30.0	3 10.0	1 3.3
	排便管理（排便、洗腸、洗腸）	n 72 割合(%) 100.0	20 27.8	19 26.4	9 12.5	28 38.9	45 62.5	30 41.7	43 59.7	25 34.7	15 20.8	13 18.1	4 5.6
	痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の	n 27 割合(%) 100.0	7 25.9	8 29.6	4 14.8	17 63.0	19 70.4	12 44.4	16 59.3	11 40.7	8 29.6	7 25.9	0 0.0
	医師の指示書に基づくその他のケア	n 38 割合(%) 100.0	8 21.1	7 18.4	5 13.2	16 42.1	24 63.2	13 34.2	20 52.6	13 34.2	14 36.8	5 13.2	3 7.9

資格保有職員の配置状況×利用者が必要とする医療的ケアの内容

医療的ケアの内容によって、資格保有職員の配置状況にばらつきが見られた。特に、1事業所あたりの「看護師」の配置人数については、「継続的な透析」では0.5人で、「中心静脈カテーテルの管理」や「鼻咽頭エアウェイの管理」では3.7人を超えており、大きな差が見られた。

図表 226 職員の保有資格×利用者が必要とする医療的ケアの内容

		受入が可能な医療的ケアの種類																												全体			
		人工呼吸器の管理		気管切開の管理		鼻咽喉エアウェイの管理		酸素療法		吸引（口鼻腔内、気管内）		ネブライザーの管理		経管栄養		中心静脈カテーテルの管理		皮下注射		血糖管理		継続的な透析		導尿		排便管理		産學時の対応				医師の指示書に基づく その他のケア	
		配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数	配置人数	1事業所当たりの 配置人数				
職員の 保有 資格 （ 延べ 人数）	医師	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.02	0	0.00	1	0.02	1	0.02	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.01	0	0.00	0	0.00	1	0.00		
	看護師	33	2.36	35	1.84	26	3.71	40	1.11	51	1.06	38	2.11	54	0.96	16	5.33	63	0.98	62	1.15	15	0.50	60	0.87	84	0.92	44	1.19	13	0.54	154	0.61
	准看護師	5	0.36	5	0.26	2	0.29	9	0.25	12	0.25	5	0.28	10	0.18	0	0.00	23	0.36	17	0.31	13	0.43	18	0.26	26	0.29	9	0.24	5	0.21	60	0.24
	社会福祉士	7	0.50	12	0.63	4	0.57	14	0.39	29	0.60	18	1.00	49	0.88	0	0.00	40	0.63	33	0.61	18	0.60	56	0.81	57	0.63	21	0.57	10	0.42	167	0.66
	精神保健福祉士	3	0.21	3	0.16	1	0.14	9	0.25	7	0.15	4	0.22	11	0.20	0	0.00	39	0.61	29	0.54	9	0.30	21	0.30	29	0.32	6	0.16	5	0.21	86	0.34
	介護福祉士	40	2.86	72	3.79	41	5.86	163	4.53	179	3.73	78	4.33	226	4.04	17	5.67	182	2.84	155	2.87	70	2.33	252	3.65	298	3.27	157	4.24	62	2.58	748	2.94
	医療的ケア児等コーディネーター	0	0.00	2	0.11	0	0.00	1	0.03	6	0.13	1	0.06	4	0.07	0	0.00	2	0.03	0	0.00	0	0.00	3	0.04	4	0.04	5	0.14	0	0.00	8	0.03
	喀痰吸引等研修（第1号研修）修了者	27	1.93	29	1.53	22	3.14	29	0.81	33	0.69	25	1.39	39	0.70	10	3.33	14	0.22	13	0.24	14	0.47	27	0.39	34	0.37	29	0.78	25	1.04	51	0.20
	喀痰吸引等研修（第2号研修）修了者	5	0.36	9	0.47	5	0.71	11	0.31	24	0.50	9	0.50	18	0.32	10	3.33	8	0.13	9	0.17	3	0.10	7	0.10	15	0.16	10	0.27	6	0.25	31	0.12
	喀痰吸引等研修（第3号研修）修了者	25	1.79	36	1.89	21	3.00	48	1.33	78	1.63	35	1.94	107	1.91	5	1.67	1	0.02	0	0.00	12	0.40	49	0.71	61	0.67	53	1.43	10	0.42	125	0.49
	強度行動障害支援者養成研修又は行動援護従事者養成研修修了者	4	0.29	11	0.58	1	0.14	26	0.72	71	1.48	20	1.11	111	1.98	0	0.00	64	1.00	51	0.94	31	1.03	115	1.67	166	1.82	48	1.30	43	1.79	398	1.57
	介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級含む）	12	0.86	13	0.68	6	0.86	15	0.42	27	0.56	15	0.83	21	0.38	1	0.33	26	0.41	23	0.43	18	0.60	41	0.59	39	0.43	21	0.57	26	1.08	104	0.41
	介護福祉士実務者研修（旧ホームヘルパー1級・介護職員基礎研修含む）	4	0.29	17	0.89	10	1.43	35	0.97	34	0.71	24	1.33	36	0.64	0	0.00	23	0.36	18	0.33	7	0.23	41	0.59	62	0.68	50	1.35	11	0.46	111	0.44
	介護支援専門員	2	0.14	2	0.11	1	0.14	1	0.03	4	0.08	2	0.11	4	0.07	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.03	4	0.06	4	0.04	1	0.03	1	0.04	10	0.04
社会福祉主事任用資格	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	0.08	3	0.06	0	0.00	3	0.05	0	0.00	4	0.06	2	0.04	2	0.07	7	0.10	6	0.07	1	0.03	2	0.08	18	0.07	
保育士	0	0.00	3	0.16	0	0.00	1	0.03	8	0.17	5	0.28	7	0.13	0	0.00	3	0.05	2	0.04	3	0.10	16	0.23	8	0.09	5	0.14	5	0.21	25	0.10	
その他	2	0.14	9	0.47	1	0.14	4	0.11	15	0.31	9	0.50	15	0.27	0	0.00	10	0.16	11	0.20	5	0.17	21	0.30	14	0.15	10	0.27	5	0.21	41	0.16	
該当事業所数		14	-	19	-	7	-	36	-	48	-	18	-	56	-	3	-	64	-	54	-	30	-	69	-	91	-	37	-	24	-	254	-

類型×経過措置⁵を活用している利用者がいるか

経過措置を活用している利用者の有無について、「日中サービス支援型」の方が4ポイントほど「いる」と回答した事業所が多かった。なお、「外部サービス利用型」では、制度上経過措置の活用が認められていないため、本設問の回答からは除外している。

図表 227 類型×経過措置を活用している利用者がいるか

			合計	Q198.経過措置を活用している利用者がいるか	
				いる	いない
		n	241	41	200
		割合(%)	100.0	17.0	83.0
類 型	介護サービス包括型	n	192	31	161
		割合(%)	100.0	16.1	83.9
	日中サービス支援型	n	49	10	39
		割合(%)	100.0	20.4	79.6

(経過措置の活用が認められていない「外部サービス利用型」及び類型無効回答を除く)

＜F. クロス集計：医療的ケアが必要な方を受け入れたことがない事業所への設問＞

建物の種別×受け入れ可能な条件

医療的ケアが必要な方の受入れが可能になるための条件について、いずれの建物の種別においても、「受け入れるための施設・設備整備への補助がある場合」や「医療的ケアが実施できる看護師や介護職が採用できた場合」と回答した事業所が、それぞれ約半数を超えていた。

図表 228 建物の種別×受け入れ可能な条件

			合計	Q203.受け入れ可能な条件									
				受け入れるための施設・設備整備への補助がある場合	近隣の訪問看護ステーション等の支援が受けられる体制が整った場合	職員が医療的ケアの手法に関する研修を受けられる場合	医療的ケアが実施できる看護師や介護職が採用できた場合	地域の医療的ケア者受け入れ事業所と協力・相談体制が取れる場合	受け入れることによる加算が充実した場合	医療職以外が実施可能な医療的ケアの拡大や免責等、法的な整備が行われた場合	現在の設備・体制で受入が可能	その他	
		n	1974	1087	619	315	1174	493	489	454	52	151	
		割合(%)	100.0	55.1	31.4	16.0	59.5	25.0	24.8	23.0	2.6	7.6	
Q 8 ・ 建 物 の 種 別	既存の一般住宅	n	763	467	250	120	428	192	227	163	23	53	
		割合(%)	100.0	61.2	32.8	15.7	56.1	25.2	29.8	21.4	3.0	6.9	
	新築のグループホーム用住宅	n	860	424	288	130	530	235	201	207	20	62	
		割合(%)	100.0	49.3	33.5	15.1	61.6	27.3	23.4	24.1	2.3	7.2	
	既存の集合住宅（マンションやアパート）	n	466	271	154	70	277	133	113	108	10	35	
		割合(%)	100.0	58.2	33.0	15.0	59.4	28.5	24.2	23.2	2.1	7.5	
	新築のグループホーム用集合住宅（マンションやアパート）	n	80	46	21	14	45	11	19	20	1	8	
		割合(%)	100.0	57.5	26.3	17.5	56.3	13.8	23.8	25.0	1.3	10.0	
	法人所有の既存の建物をグループホーム用に転用	n	266	152	82	35	165	59	61	59	11	22	
		割合(%)	100.0	57.1	30.8	13.2	62.0	22.2	22.9	22.2	4.1	8.3	
その他	n	41	22	15	6	25	7	10	12	2	5		
	割合(%)	100.0	53.7	36.6	14.6	61.0	17.1	24.4	29.3	4.9	12.2		

⁵グループホームを利用する重度の障害者（区分4以上等の要件あり）に限って、個人単位の居宅介護等の利用を認める経過措置のこと。

事業所の医療職の体制×受け入れ可能な条件

医療的ケアが必要な方の受入れが可能になるための条件について、いずれの事業所の医療職の体制においても、「医療的ケアが実施できる看護師や介護職が採用できた場合」と回答した事業所が半数以上であった。

図表 229 事業所の医療職の体制×受け入れ可能な条件

				Q203.受け入れ可能な条件								
				受け入れるための施設・設備整備への補助がある場合	近隣の訪問看護ステーション等の支援が受けられる体制が整った場合	職員が医療的ケアの手法に関する研修を受けられる場合	医療的ケアが実施できる看護師や介護職が採用できた場合	地域の医療的ケア者受け入れ事業所と協力・相談体制が取れる場合	受け入れることによる加算が充実した場合	医療職以外が実施可能な医療的ケアの拡大や免責等、法的な整備が行われた場合	現在の設備・体制で受入が可能	その他
		n	1974	1087	619	315	1174	493	489	454	52	151
		割合(%)	100.0	55.1	31.4	16.0	59.5	25.0	24.8	23.0	2.6	7.6
Q94・事業所の医療職の体制	常勤医師	n	7	1	1	1	4	1	1	3	1	2
		割合(%)	100.0	14.3	14.3	14.3	57.1	14.3	14.3	42.9	14.3	28.6
	非常勤医師	n	24	12	5	9	14	1	7	6	2	1
		割合(%)	100.0	50.0	20.8	37.5	58.3	4.2	29.2	25.0	8.3	4.2
	嘱託医	n	314	168	118	44	205	88	66	69	5	22
		割合(%)	100.0	53.5	37.6	14.0	65.3	28.0	21.0	22.0	1.6	7.0
	常勤看護師	n	180	104	47	30	93	51	58	39	6	16
		割合(%)	100.0	57.8	26.1	16.7	51.7	28.3	32.2	21.7	3.3	8.9
	非常勤看護師	n	252	135	88	50	140	60	54	71	7	17
		割合(%)	100.0	53.6	34.9	19.8	55.6	23.8	21.4	28.2	2.8	6.7
	常勤准看護師	n	62	35	24	7	32	13	19	12	4	5
		割合(%)	100.0	56.5	38.7	11.3	51.6	21.0	30.6	19.4	6.5	8.1
	非常勤准看護師	n	72	40	21	13	46	15	24	14	1	2
		割合(%)	100.0	55.6	29.2	18.1	63.9	20.8	33.3	19.4	1.4	2.8
	医療職を配置していない	n	1246	685	372	193	752	306	311	287	31	98
	割合(%)	100.0	55.0	29.9	15.5	60.4	24.6	25.0	23.0	2.5	7.9	

類型×困難と判断する理由

医療的ケアが必要な方の受入れを困難と判断する理由について、すべての類型で「医療的ケアができる看護師等や介護職員等がいないから」と回答した事業所が最も多く、6割を超えていた。「日中サービス支援型」の事業所では、他の2類型に比べ、廊下幅や階段等の建物の設備に関する理由を挙げた事業所は10ポイント以上少なかったが、「医療的ケアが必要な利用者と他利用者との双方の安全が確保できないと考えたから」と回答した事業所は10ポイント以上多かった。

図表 230 類型×困難と判断する理由

			合計	Q201.困難と判断する理由								
				廊下の幅や居室、浴室等が医療的ケア者に対応できる十分な大きさではないから	階段があるが、スロープやエレベーターの設置が難しいから	必要な医療機器を購入する金銭的余裕がないから	医療的ケアができる看護師等や介護職員等がいないから	職員の負担が増大するのを避けたかったから	医療的ケアを実施することに職員の理解が得られなかったから	医療的ケアが必要な利用者と他利用者との双方の安全が確保できないと考えたから	緊急時の対応に不安があったから	その他
		n	1974	907	724	411	1359	327	45	518	135	
		割合(%)	100.0	45.9	36.7	20.8	68.8	16.6	2.3	26.2	6.8	
Q6・ 類型	介護サービス包括型	n	1603	753	617	346	1111	279	39	413	87	
		割合(%)	100.0	47.0	38.5	21.6	69.3	17.4	2.4	25.8	5.4	
	外部サービス利用型	n	186	93	73	33	132	26	4	34	18	
		割合(%)	100.0	50.0	39.2	17.7	71.0	14.0	2.2	18.3	9.7	
	日中サービス支援型	n	185	61	34	32	116	22	2	71	30	
		割合(%)	100.0	33.0	18.4	17.3	62.7	11.9	1.1	38.4	16.2	

5. 共同生活援助事業所へのヒアリング調査

本章では、共同生活援助事業所へのヒアリング調査の内容及び結果について記載する。

(1) 調査概要

検討委員会における議論を踏まえ、以下の内容でヒアリング調査を実施した。

図表 231 事業所向けヒアリング調査の概要

調査対象	1. 医療的ケアを必要とする者を受け入れたことがある事業所（4事業所） ・ 医療的ケアが必要な方を受け入れることを想定して立ち上げた事業所 ・ 運営する中で利用者に医療的ケアが必要になった事業所 ・ 医療的ケアが必要な方からの入居希望があり、受入を開始した事業所 2. 医療的ケアを必要とする者の受入を断念したことがある事業所（1事業所）
調査対象の抽出方法	・ 検討委員会で議論の上、上記のように医療的ケアを必要とする者を受け入れた経緯で分類し、特徴に偏りがないよう調査対象事業所を設定した。 ・ 2. 医療的ケアを必要とする者の受入を断念したことがある事業所は、質問紙調査の結果から該当事業所を抽出して選定した。
調査方法	事前にヒアリングシートを記入いただいた上で、対面またはオンラインによる実施
調査期間	令和8年2月
主な調査項目	1. 基本情報（全事業所への設問） ・ 開設年度、所在地、法人格 ・ 実施している障害福祉サービスや医療サービス等 ・ サービス類型 ・ 建物の種別や立地等の条件 ・ 共同生活住居数、定員数 ・ 障害種別や障害程度区分、年代ごとの利用者数及びそのうち医療的ケアを必要とする利用者の数 ・ 職員配置の状況 ・ 取得している加算 ・ 地域の医療資源の状況 ・ 医療的ケアを必要とする者を受け入れたことの有無 2. 医療的ケアを必要とする者を受け入れたことがある事業所への設問 ・ 利用者が必要とする医療的ケアの内容やその対応頻度、支援体制 ・ 医療的ケアを必要とする利用者の状態像 ・ 医療的ケアを必要とする者の受入を開始したきっかけ ・ 受入のために施した整備や工夫の内容、おおよその費用 ・ 受入を開始する際に直面した課題や困難 ・ 利用者の日々の過ごし方 ・ 職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度

	3. 医療的ケアを必要とする者を受け入れたことがない事業所への設問 ・ 受入れを断念した際の利用者本人の意向 ・ 医療的ケアを必要とする者の受入を困難と判断する理由 ・ 医療的ケアが必要な方を受け入れることが可能になるために考えられる条件
--	--

(2) 調査結果

ヒアリング調査の結果を以下に記載する。

① 事業所 A（医療的ケアを必要とする者の受入れを想定して立ち上げた事業所）

○実施日時：令和 8 年 2 月 13 日（金）10:00～12:00

○実施方法：対面で実施

○同席者：法人理事長（共同生活援助事業所管理者兼務）、共同生活援助事業所サービス管理責任者、訪問看護事業所管理者

図表 232 基本情報

問	回答
事業所の開設年	2020 年（令和 2 年）
貴事業所の類型	日中サービス支援型
利用者の主たる障害種別	重症心身障害
共同生活住居数と定員数	・ 2 住居、定員合計 9 名
利用者数（障害種別）	・ 重症心身障害：8 名 （8 名全員が医療的ケアを必要とする者） ・ 知的障害 A1、身体障害 1 級、自閉傾向が強い方が 1 名 （この方の医療的ケアはてんかん時の座薬のみ）
利用者数（障害支援区分）	・ 区分 6：9 名
利用者数（年代）	・ 18 歳～20 代：4 名 ・ 30 代：3 名 ・ 40 代：2 名
住居建物の種別	・ 新築のグループホーム用住宅
開設時に重視した立地等の条件	・ 土地所有者が福祉関連施設の建設を希望していたことから、特段立地等に問題がなかったため決定
法人で運営している医療サービスや障害福祉サービス等	・ 医療サービス：訪問看護ステーション ・ 障害福祉サービス等：重度訪問介護、短期入所、共同生活援助事業所 ・ 地域生活支援事業：なし
職員体制	・ 管理者：1 名 ・ サービス管理責任者：1 名 ・ 世話人：常勤 4 名 ・ 生活支援員：非常勤 15 名 ・ 看護職員（訪問看護事業所所属）：常勤 5 名、非常勤 15 名
職員の主な資格保有状況（延べ人数）	・ 介護福祉士：3 名 ・ 喀痰吸引等研修（第 1 号研修）修了者：1 名 ・ 喀痰吸引等研修（第 2 号研修）修了者：1 名 ・ 喀痰吸引等研修（第 3 号研修）修了者：9 名
事業所の医療職の配置体制	・ 嘱託医 ・ 常勤看護師（訪問看護ステーションを併設） ・ 非常勤看護師（訪問看護ステーションを併設）
地域の衣装資源の状況	・ 車で 15 分程度走れば医療機関がある ・ 定期的な訪問診療を受けている利用者がいる ・ 定期的な訪問看護を受けている利用者がいる ・ 近所に重症心身障害者の地域生活に理解のある診療所がある

夜間支援等体制加算の取得 住居数	なし
登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況	- 登録喀痰吸引等事業者として登録している - 登録特定行為事業者として登録している

図表 233 対応している医療的ケアの内容と支援の体制

医療的ケアの内容	実施有無	おおよその実施頻度等	実施者		
			医師 (外部の医師を含む)	看護師 または 准看護師	それ以外の 職員
①人工呼吸器の管理	○	必要時		○	
②気管切開の管理	○	必要時		○	○
③鼻咽頭エアウェイの管理	○	必要時		○	
④酸素療法	○	必要時		○	
⑤吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	○	必要時		○	○
⑥ネブライザーの管理	○	必要時		○	
⑦経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	○	必要時		○	○
⑧経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	○	必要時		○	○
⑨経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）					
⑩中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）					
⑪皮下注射（インスリン、麻薬等含）					
⑫皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）					
⑬血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）					
⑭血糖測定（埋め込み式血糖測定による）					
⑮継続的な透析（血液透析、腹膜透析）					
⑯間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	○	必要時		○	
⑰持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）					
⑱排便管理（消化管ストーマ）					
⑲排便管理（排便、洗腸、浣腸）	○	必要時		○	
⑳痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	○	必要時		○	
㉑医師の指示書に基づくその他のケア	○	必要時		○	
<補足> - てんかん時の座薬挿入のみ必要な1名以外は、重症心身障害で、ひととおりの医療的ケアが必要。 - 上記の1名は、共同生活援助事業所入居に関し保護者から強い要望があったため入居しているが、他の利用者と状態像が大きく異なるため、本人にとってベストな環境とは言えないと思い、対応に苦慮している状況。 - 重症心身障害の方のうち、1名は交通災害による中途障害。					

- 重度訪問介護の事業も実施していて、看護師は訪問看護と兼務している。地域の一般の方への訪問看護はほとんど行っておらず、共同生活援助事業所での支援にほぼ専任となっている。

図表 234 医療的ケアを必要とする者への支援の状況

問	回答
医療的ケアが必要な方の主な過ごし方	• 平日の日中は利用者の体調に合わせて通所または共同生活援助事業所内で過ごす • 平日の夕方は利用者全員がホームで過ごす • 休日は、利用者の一部は自宅で過ごす
利用者のすみわけ	• 男女で住居を分けている • 歩くことができる自閉傾向の利用者（医療的ケアはてんかん時の座薬のみ）も同じホームで過ごしているが、目が離せないため、支援に苦慮する場面がある
事業所の職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度	• 利用者は全員月 2 回の訪問診療を受けており、それ以外の体調不良時等は往診に来てもらうことが多い • 共同生活援助事業所の職員が通院に付き添うのは不定期に医療機関受診が必要になったときくらい
個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置を活用している利用者の有無	• 該当者あり 共同生活援助事業所と同じ法人の事業所を利用している利用者も、他の法人の事業所を利用している利用者もいる
医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備のおおよその費用	• 土地所有者が福祉施設を建てたいと考えており、事情を話したところ、建物の設計段階から一緒に入らせてもらい、重症心身障害に対応する共同生活援助事業所を建てることができた。完成後、建物の賃貸する形で使わせてもらっている。こうした経緯から、建築費用に関して持ち出しはない • 市からの補助金（350 万円）を建物の賃貸借契約の保証金に充てた • 建物内の様々な設備（スロープの設置や洗濯機等の設置等）は法人持ち出しや政策金融公庫からの融資により導入した • 機械浴等の大型設備は基本的にはリース契約にしている
医療的ケアが必要な方の受入のために施したソフト面での工夫	• 共同生活援助事業所と同時に訪問看護ステーションを立ち上げた • 重度訪問介護事業も行うことで共同生活援助事業所利用者への 24 時間の支援体制を整えている • 個人単位で居宅介護等のヘルパーを利用することになっている • 利用者の家族に医療的ケア等について聞き取った • 利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提供してもらった • 利用者ごとの医療的ケア実施手順書を作成した • 夜間や緊急時に、利用者の主治医や地域の訪問看護師等に連絡や相談ができる体制を整えた • 手技を身に付けたり知識を身に付けるための研修参加を職員に積極的に促している（任意で喀痰吸引研修を会社負担で受けられるようにしている） • 定期的に事業所や法人内部で医療的ケアに関する研修や勉強会を行っている • 人員体制上、看護師と支援員の 2 名体制になるため、その体制で受け入れ可能かどうかを検討・家族に説明するようにしている

取得している加算	医療連携体制加算（Ⅳ）
医療的ケアに関する自治体による補助	- 施設・設備整備補助 - 運営費補助（家賃、水道料、重度障害者支援の補助等）
過去に受け入れていた方の退居理由と退居先	ご本人がお亡くなりになった
医療的ケアが必要な方への支援にあたって相談する外部の関係者や関係機関	- 利用者のかかりつけ医・主治医 （重症心身障害者の地域生活に理解のある診療所で、利用者の紹介もしてもらっている） - 訪問看護ステーション - 相談支援専門員 - 居宅介護事業所や重度訪問介護事業所 - 利用者の通う日中活動事業所、学校、企業等 （自立支援）協議会 - 利用者の家族 - 利用者の後見人

図表 235 医療的ケアを必要とする者への支援に関する課題や意見

問	回答
医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難	- 医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保 - 利用者の急変に対応できる人員体制の確保 24時間看護師が配置できるような体制を確保するためには、特例対象（重度疾患や重症心身障害等）に該当もしくは特別指示書が必要で、そうでない方も含めた全体として看護師を常時配置するには重度訪問介護を活用するなどの制度に合わせた工夫が必要
現在抱えている課題や困りごと	- 医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保 - 利用者の急変に対応できる人員体制の確保 - 共同生活援助事業の報酬では、支援に必要な人員体制を確保することが難しく、実態としては訪問看護ステーションでの診療報酬や重度訪問介護事業での収入を共同生活援助事業に回している - 幼少期からずっと保護者と自宅で暮らしていた方で、共同生活援助事業所に入ってから毎日保護者が共同生活援助事業所に入り浸るようなケースがあり、そうした保護者からは「もっとうちの子を見てほしい」等の過剰な要望があり、対応に苦慮している - 短期入所を開始した際に児童の受入れを検討したが、近隣のこども病院から遠いことや容態が変わりやすいことから受入れに難しさを感じた
現行の制度に対する意見等	- こうした共同生活援助事業所を運営するためには、自立支援給付の単価増等、関連制度の拡充を切に願う - 重度訪問介護の経過措置がなくなってしまうと運営が成り立たなくなってしまう。この制度はなくさないでほしい

② 事業所B（利用者に医療的ケアが必要になり対応を開始した事業所）

○実施日時：令和8年2月5日(木)13:30～15:00

○実施方法：対面で実施

○同席者：法人理事長、共同生活援助事業所所長、相談支援事業所所長、訪問系事業所所長

図表 236 基本情報

問	回答
事業所の開設年	2003年（平成15年）
貴事業所の類型	介護サービス包括型
利用者の主たる障害種別	知的障害
共同生活住居数と定員数	・10住居、定員合計58名
利用者数（障害種別）	・身体障害：1名 ・知的障害：43名 ・重度重複障害：11名（うち3名が医療的ケアを必要とする者）
利用者数（障害支援区分）	・区分2：1名 ・区分3：11名（うち1名が医療的ケアを必要とする者） ・区分4：15名 ・区分5：10名 ・区分6：18名（うち2名が医療的ケアを必要とする者）
利用者数（年代）	・18歳～20代：3名 ・30代：16名（うち1名が医療的ケアを必要とする者） ・40代：7名（うち1名が医療的ケアを必要とする者） ・50代：10名 ・60代：11名 ・70代：9名（うち1名が医療的ケアを必要とする者）
住居建物の種別	・既存の一般住宅 ・新築のグループホーム用住宅 ・法人所有の既存の建物をグループホーム用に転用
開設時に重視した立地等の条件	・コンビニやスーパーマーケットが近いなど、買い物に便利なこと ・多くの利用者が通う可能性のある事業所等が近くにあること ・駐車スペースや建物以外の敷地面積が十分にあること ・上記に加えて、津波に関するハザードマップを考慮した
法人で運営している医療サービスや障害福祉サービス等	・医療サービス：無し ・障害福祉サービス等：居宅介護、重度訪問介護、行動援護、短期入所、生活介護、共同生活援助、就労継続支援B型、計画相談支援 ・地域生活支援事業：日中一時支援
職員体制	・管理者：1名 ・サービス管理責任者：2名 ・世話人・生活支援員：常勤27名 ・世話人：非常勤11名 ・生活支援員：非常勤13名（居宅介護事業所と兼務し夜勤対応） ・看護職員：4名 ・その他（事務職員等）：2名

職員の主な資格保有状況 (延べ人数)	・看護師：2名 ・准看護師：2名 ・社会福祉士：1名 ・介護福祉士：20名 ・喀痰吸引等研修（第3号研修）修了者：8名 ・強度行動障害支援者養成研修又は行動援護従事者養成研修修了者：22名
事業所の医療職の配置体制	・常勤看護師 ・常勤准看護師 ・非常勤准看護師
地域の衣装資源の状況	・事業所の徒歩圏内に医療機関がある ・車で15分程度走れば医療機関がある ・定期的な訪問看護を受けている利用者がいる
夜間支援等体制加算の取得 住居数	・夜間支援等体制加算（Ⅰ）：7住居（うち医療的ケアを必要とする者入居中が3住居） ・夜間支援等体制加算（Ⅲ）：3住居
登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況	・登録喀痰吸引等事業者として登録している ・登録特定行為事業者として登録している

図表 237 対応している医療的ケアの内容と支援の体制

医療的ケアの内容	実施有無	おおよその実施頻度等	実施者		
			医師 (外部の医師を含む)	看護師 または 准看護師	それ以外の 職員
①人工呼吸器の管理					
②気管切開の管理	○	稀に対応		○	○
③鼻咽頭エアウェイの管理					
④酸素療法	○			○	
⑤吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	○	1日8回		○	○
⑥ネブライザーの管理	○	1日1回			○
⑦経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）					
⑧経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	○	1日2回		○	
⑨経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）					
⑩中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）					
⑪皮下注射（インスリン、麻薬等含）					
⑫皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）					
⑬血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）					
⑭血糖測定（埋め込み式血糖測定による）					
⑮継続的な透析（血液透析、腹膜透析）					
⑯間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）					
⑰持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）					
⑱排便管理（消化管ストーマ）					
⑲排便管理（排便、洗腸、浣腸）	○	1日1回		○	
⑳痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	○	稀に対応		○	○
㉑医師の指示書に基づくその他のケア					
<補足> - 平成 24 年の喀痰吸引等研修制度化以前から医療的ケアに対応しており、主治医と家族から認められた職員のみ医療的ケアを実施している。 - 過去には人工呼吸器の管理が必要な方にも対応していた。 - 人工呼吸器の管理、酸素療法、吸引については、夜間での支援も生じている。短期入所の利用で吸引が必要な場合、看護師が付きっきりで対応することもある。					

図表 238 医療的ケアを必要とする者への支援の状況

問	回答
医療的ケアが必要な方の主な過ごし方	• 平日の日中は生活介護事業所へ通所（看護師を3人配置している活動班で日中活動） • 平日の夕方や休日は、季節によって買い物や近隣の散策、家庭菜園等を楽しんでいる
利用者のすみわけ	• おおよその年代でホームを分けている • 車椅子利用者を1か所にまとめず、身体障害がない方と同じホームにしているが、それにより車椅子利用者の行動範囲が狭まるのを防いでいるように感じる。（冬にはスキー場で車椅子利用者も一緒にスノーモービルを楽しんだ）
事業所の職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度	• 週に1回程度（医療的ケアを必要とする者以外も含めると月に60回ほど） • 夜間の救急にかかる際は、戻れるのが朝方になることも多く、基本は法人の幹部職員（超過勤務手当が不要）が対応することが多い
個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置を活用している利用者の有無	• 該当者あり、共同生活援助事業所と同じ法人の事業所を利用している
医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備のおおよその費用	• 重度重複障害者が利用できる共同生活援助事業所を2件新築（1億円、7,500万円） • 既存の住居の改修として浴室を改修（1,000万円） • 機械浴の導入（各住居300～450万円） • 国の社会福祉施設等施設整備費補助金を一部活用 • 上記に加え、リフターも設置したいと考えている • 災害時に備え、発電機も整備している
医療的ケアが必要な方の受入のために施したソフト面での工夫	• 看護師・准看護師を増員した • 職員を増員した • 個人単位で居宅介護等のヘルパーを利用することにした • 利用者の家族に医療的ケア等について聞き取った • 利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提供してもらった • 利用者ごとの医療的ケア実施手順書を作成した • 夜間や緊急時に、利用者の主治医や地域の訪問看護師等に連絡や相談ができる体制を整えた • 手技を身に付けたり知識を身に付けるための研修参加を職員に積極的に促している • 定期的に事業所や法人内部で医療的ケアに関する研修や勉強会を行っている
取得している加算	• 看護職員配置加算
医療的ケアに関する自治体による補助	• 自治体による補助は受けていない

過去に受け入れていた方の退居理由と退居先	・ 障害の重度化により事業所での対応が難しくなったと医師が判断し、入院を勧められた ・ 症状が重篤化し、現行制度では医療者でないと行えない人工呼吸器の管理が必要になり、やむなく退所して自宅に戻った ・ 医療者でないと行えない酸素療法や人工呼吸器の管理が必要なため、現在退所を検討している方がいるが、本人・家族は共同生活援助事業所利用継続を希望している
医療的ケアが必要な方への支援にあたって相談する外部の関係者や関係機関	・ 利用者のかかりつけ医・主治医 ・ 訪問看護ステーション ・ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職 ・ 相談支援専門員 ・ 居宅介護事業所や重度訪問介護事業所 ・ 利用者の通う日中活動事業所、学校、企業等 ・ 利用者の家族

図表 239 医療的ケアを必要とする者への支援に関する課題や意見

問	回答
医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難	・ 医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保 ・ 利用者の急変に対応できる人員体制の確保 ・ 支援に必要な設備の導入・建物のリフォーム等の費用負担 ・ 医療的ケアが必要な方への支援リソースの集中（他の利用者へのサービスの低下の懸念）
現在抱えている課題や困りごと	・ 共同生活援助事業の報酬では、支援に必要な複数名の看護師の人件費を負担することが難しい
現行の制度に対する意見等	・ 重度重複障害の者を受け入れるためには面積の大きな建物、エレベーター、機械浴、スプリンクラー、空調等の相当な施設・設備が必要で、適切な補助がないと整備するのはとても難しい。年間で施設整備の補助金がもらえる施設・事業所の数も限られており、結局は法人が全額自費で整備するしかない状況だ ・ 国の人員配置基準をはるかに超える数の人員を配置しており、法人内の他事業の利益を共同生活援助事業の赤字に回すことでなんとかしている状況。本来は共同生活援助事業のみで黒字になるような手厚い報酬が必要だ。報酬制度もどんどん複雑になっており、加算ではなく基本報酬を上げてほしい ・ 平成 24 年の喀痰吸引等研修制度化以前から医療的ケアを行っており、制度が始まったことで介護職員の実施可能なケアの範囲が狭まってしまった。介護職員であっても適切な研修を受ければ実施可能な行為や、医師や看護師とビデオ通話することで対応ができる行為（酸素療法を目盛りの調整等）もあり、現行の介護職員が実施可能な医行為の範囲を拡大してほしい。 ・ 個人単位ヘルパーについて、国庫負担基準を超えてしまう場合、実際には支給量を制限するのではなく、市町村が給付費を負担しており、市町村にとって大きな負担になっている ・ 訪問看護について、主たる居住地への訪問しか認められないため、自宅への一時帰宅の際に利用できず、一時帰宅時は家族の負担が大きくなってしまっており、制度の改正が必要ではないか

③ 事業所C（利用者に医療的ケアが必要になり対応を開始した事業所）

○実施日時：令和8年2月10日(火)13:00～14:30

○実施方法：対面で実施

○同席者：施設長、主任支援員（サービス管理責任者）、支援員

※補足：ヒアリング時点では医療的ケアを必要とする者は入居していなかったため、基本情報には医療的ケアを必要とする者が含まれていない。支援の状況等については、医療的ケアを必要とする者が入居していた当時の内容を含んで回答いただいた。

図表 240 基本情報（現在）

問	回答
事業所の開設年	2009年（平成21年）
貴事業所の類型	介護サービス包括型
利用者の主たる障害種別	知的障害
共同生活住居数と定員数	・17住居、定員合計84名 （ヒアリングを行った共同生活住居は定員10名）
利用者数（障害種別）	・知的障害：10名
利用者数（障害支援区分）	・区分3：2名 ・区分4：3名 ・区分5：3名 ・区分6：2名
利用者数（年代）	・30代：2名 ・40代：2名 ・50代：2名 ・60代：2名 ・70代：2名
住居建物の種別	・新築のグループホーム用住宅
開設時に重視した立地等の条件	・多くの利用者が通う可能性のある事業所等が近くにあること ・法人本部、系列施設や事業所等が近くにあること
法人で運営している医療サービスや障害福祉サービス等	・医療サービス：無し ・障害福祉サービス等：生活介護、施設入所支援、自立生活援助、共同生活援助、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労定着支援、就労選択支援、計画相談支援、障害児相談支援、放課後等デイサービス ・地域生活支援事業：日中一時支援、地域活動支援センター、基幹相談支援センター、障害者相談支援事業
職員体制	・管理者：1名 ・サービス管理責任者：1名 ・世話人：常勤5名 ・生活支援員：非常勤9名
職員の主な資格保有状況（延べ人数）	・社会福祉士：1名 ・介護福祉士：1名
事業所の医療職の配置体制	・医療職を配置していない

地域の衣装資源の状況	- 事業所の徒歩圏内に医療機関がある - 定期的な訪問診療を受けている利用者がいる - 定期的な訪問看護を受けている利用者がいる - 緊急時の往診に対応してくれる医療機関がある
夜間支援等体制加算の取得 住居数	- 夜間支援等体制加算（Ⅰ）：14 - 夜間支援等体制加算（Ⅲ）：2
登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況	いずれも登録していない

図表 241 対応している医療的ケアの内容と支援の体制（医療的ケアを必要とする者入居当時）

医療的ケアの内容	実施有無	おおよその実施頻度等	実施者		
			医師（外部の医師を含む）	看護師または准看護師	それ以外の職員
①人工呼吸器の管理					
②気管切開の管理					
③鼻咽頭エアウェイの管理					
④酸素療法	○	適宜		○	
⑤吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）					
⑥ネブライザーの管理					
⑦経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）					
⑧経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）					
⑨経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）					
⑩中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）					
⑪皮下注射（インスリン、麻薬等含）					
⑫皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）					
⑬血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）					
⑭血糖測定（埋め込み式血糖測定による）					
⑮継続的な透析（血液透析、腹膜透析）					
⑯間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）					
⑰持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）					
⑱排便管理（消化管ストーマ）	○	適宜		○	
⑲排便管理（摘便、洗腸、浣腸）					
⑳痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置					
㉑医師の指示書に基づくその他のケア					
＜補足＞ ・ 特になし					

図表 242 医療的ケアを必要とする者への支援の状況（医療的ケアを必要とする者入居当時）

問	回答
医療的ケアが必要な方の主な過ごし方	・ 加齢や疾病のため、通所が難しくなっていたため、基本的には共同生活援助事業所内で過ごしていた ・ 毎日訪問看護を受けていた
利用者のすみわけ	・ もともと医療的ケアが必要なかった方が加齢や疾病により医療的ケアが必要になったという経緯であり、引き続き共同生活援助事業所で暮らせるよう体制を工夫していった ・ 病気が進行していくにつれて、共同生活援助事業所で暮らすよりも医療設備の整った環境で過ごす方が望ましいかもしれないと考え、家族ともゆくゆくはホスピスに入ることを相談していた
事業所の職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度	・ 毎日訪問看護を受けており、付き添いは不要だった
個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置を活用している利用者の有無	・ なし
医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備のおおよその費用	・ 本人が心身障害者医療費助成の対象になっていたため、法人の持ち出しがほぼ必要なく、介護保険や医療保険の制度と合わせ、必要なもの（介護用ベッド、車いす、点滴スタンド、ストーマ装具等）を揃えることができた
医療的ケアが必要な方の受入のために施したソフト面での工夫	・ もともと2階に居住していたが、エレベーターがないこともあり、職員が見守りしやすい1階に移っていただいた ・ 主に知的障害の方向けの共同生活援助事業所であることもあり、看取りについては想定しておらず、疾病による医療的ケアを必要とする者の対応の際に医療機関に協力を依頼し、看取りについての研修を行った
取得している加算	・ 医療連携体制加算（Ⅰ） ・ 医療連携体制加算（Ⅶ） ※医療的ケアを必要とする者の有無にかかわらず取得
医療的ケアに関する自治体による補助	・ なし
過去に受け入れていた方の退居理由と退居先	・ ご本人が亡くなったため利用終了
医療的ケアが必要な方への支援にあたって相談する外部の関係者や関係機関	・ 近隣の医療機関（緊急時への往診対応） ・ 訪問看護ステーション（日々の訪問看護、相談対応） ・ ご本人の主治医（今後の治療や暮らしに関する相談） ・ ご家族

図表 243 医療的ケアを必要とする者への支援に関する課題や意見

問	回答
医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難	・看取りについて研修を受けたものの、看護職ではない支援員にとっては自分に対応する可能性があるということでの精神的な負担が大きかった ・ご家族は「グループホームでの生活が生きがいだ」と言っており、事業所としてはご家族やご本人の想いに応えたいものの、看護職員のいないなかでどこまでできるかという不安があった ・日中も共同生活援助事業所で過ごすことが多く、職員を配置する必要があったため、以前に比べて人件費がかかってしまう状況になった ・病気の進行によって必要なケア（普通食からきざみ食に変わる等）がどんどん変わっていき、その対応に準備が必要だった ・医療的ケアを必要とする者の対応が必要になったことで、他の利用者への支援が手薄になってしまった場面はあったかもしれない
現在抱えている課題や困りごと	・利用者の高齢化が進み、徐々に障害支援区分が上がっていき、服薬の支援等もより丁寧に行う必要が出てきている ・知的障害が重度の方を主に受け入れていることや、男女5名ずつ受け入れており同性介助の必要性もあることから、職員を他の住居よりも手厚く配置しており、全体で収支のバランスを取っている ・事務作業に時間を取られることが多く、夜勤のときも利用者に関われるのは1時間くらいになってしまい、もどかしい ・短期入所も併設しているが、共同生活援助事業所利用者の支援と両立する必要があるため、随時見守りが必要な方の短期入所の利用を断らざるを得ないことがある
現行の制度に対する意見等	・共同生活援助事業の報酬が徐々に減ってきており、収支状況は厳しくなっている。障害の程度が重度ではなくでも手厚い支援が必要な方もおり、単純に区分のみで基本報酬の単価を決めることは適切なのか疑問だ ・営利目的の事業所も増えており仕方がないこととは思いますが、事業所運営にあたり守らなければならないことや整備しなければならないマニュアル等が徐々に増えており、その対応に時間を要している ・利用者が1日の3分の2の時間を過ごす暮らしの場であり、長く存続することが利用者にも求められている事業と思っており、そのためには職員が安心して働き続けることができる環境であることが重要。報酬が上がることで潤沢に職員を配置し、職員も心のゆとりをもって支援を行うことができるようになると良い ・高齢の施設や病院と違い、医療的ケアや看取りの必要性があることについて、職員にも心の準備が必要だ。知的障害を対象とした共同生活援助事業所では、事業所としてできるところまでという考え方がオーソドックスであり、終の棲家というよりは日常生活を送る場所であるというイメージが強く、看取り対応まで対応できる場所は少ないのではないか ・看取りの必要性があるとなると、職員の精神的な負担を考えると、事業所内に管理者や看護師が常にいるような体制であることが望ましい

現行の制度に対する意見等 (続き)	• 医療的ケアが必要な方を受けるにあたっては看護師が常駐する必要があると思うが、常勤換算 1 以上の看護師配置は実際には 2 名以上雇用する必要がある、報酬体系と実際の人件費との兼ね合いからなかなか厳しいと感じている
------------------------------	--

④ 事業所D（医療的ケアを必要とする者からの入居希望に応える形で受入開始した事業所）

○実施日時：令和8年2月27日（金）15:00～16:30

○実施方法：オンラインで実施

○同席者：法人代表取締役

※補足：大きく分けて3つの共同生活住居があり、主にそのうち最も多く医療的ケアを必要とする者の方が利用している住居の内容を回答いただいた。

図表 244 基本情報

問	回答
事業所の開設年	2023年（令和5年）
貴事業所の類型	日中サービス支援型
利用者の主たる障害種別	定めていない
共同生活住居数と定員数	・3住居、定員合計57名 （以下、主にこのうち定員20名の1住居についての回答）
利用者数（障害種別）	・身体障害と知的障害の方が約半数ずつ ・医療的ケアが必要なのは8名程度
利用者数（障害支援区分）	・区分4～区分6の方がおり、大多数が区分5・区分6
利用者数（年代）	・10代～70代までおり、40代が他に比べて少ない
住居建物の種別	・新築のグループホーム用住宅
開設時に重視した立地等の条件	・交通の便が良いこと ・コンビニやスーパーマーケットが近いなど、買い物に便利なこと ・駐車スペースや建物以外の敷地面積が十分にあること
法人で運営している医療サービスや障害福祉サービス等	・医療サービス：無し ・障害福祉サービス等：短期入所、共同生活援助
職員体制 （2住居分）	・管理者：1名 ・サービス管理責任者：2名 ・世話人：15名（常勤換算12名） ・生活支援員：15名（常勤換算12名） ・看護職員：4名
職員の主な資格保有状況 （事業所全体）	・看護師：9名 ・社会福祉士：1名 ・精神保健福祉士：1名 ・介護福祉士：15名 ・喀痰吸引等研修（第1号研修）修了者：1名 ・喀痰吸引等研修（第2号研修）修了者：4名 ・強度行動障害支援者養成研修基礎研修：14名
事業所の医療職の配置体制	・常勤看護師 ・常勤准看護師 ・非常勤看護師 ・非常勤准看護師
地域の医療資源の状況	・公共交通機関で無理なく行ける圏内に医療機関がある ・車で15分程度走れば医療機関がある ・定期的な訪問診療を受けている利用者がある ・緊急時の往診に対応してくれる医療機関がある

夜間支援等体制加算の取得 住居数	取得していない
登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況	- 登録喀痰吸引等事業者として登録している - 登録特定行為事業者として登録している

図表 245 対応している医療的ケアの内容と支援の体制

医療的ケアの内容	実施有無	おおよその実施頻度等	主な実施者		
			医師 (外部の医師を含む)	看護師 または 准看護師	それ以外の 職員
①人工呼吸器の管理					
②気管切開の管理	○	適宜		○	
③鼻咽頭エアウェイの管理					
④酸素療法	○	適宜		○	○
⑤吸引（口鼻腔又は気管内吸引に限る）	○	適宜		○	○
⑥ネブライザーの管理	○	適宜		○	
⑦経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管）	○	適宜		○	○
⑧経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう）	○	適宜		○	○
⑨経管栄養（持続経管注入ポンプ使用）	○	適宜		○	
⑩中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等）					
⑪皮下注射（インスリン、麻薬等含）	○	適宜		○	○
⑫皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用）					
⑬血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外）					
⑭血糖測定（埋め込み式血糖測定による）	○	適宜		○	
⑮継続的な透析（血液透析、腹膜透析）					
⑯間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿）	○	適宜		○	
⑰持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ）	○	適宜		○	○
⑱排便管理（消化管ストーマ）	○	適宜		○	
⑲排便管理（排便、洗腸、浣腸）	○	適宜		○	
⑳痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置	○	適宜		○	
㉑医師の指示書に基づくその他のケア	○	適宜		○	
<補足> - 現在は対象者がいないものも含む - インスリンの皮下注射や間欠的導尿は利用者自身で対応している方もいる - 夜間を含む頻回な吸引が必要な方はいない					

図表 246 医療的ケアを必要とする者への支援の状況

問	回答
医療的ケアが必要な方の主な過ごし方	共同生活援助事業所内でレクリエーションや軽作業、散歩などをしたり、外部の日中活動サービスを利用したり、利用者ごとに異なる
利用者のすみわけ	強度行動障害のある方も同じ住居で受け入れており、1階を医療的ケアが必要な方、2階を強度行動障害のある方で大きく分けている
事業所の職員による医療的ケアを必要とする者の通院への付き添いの頻度	- 通院の頻度は、3か月に1回～2週間に1回と利用者により異なるが、平均すると1～2か月に1回 - 職員が付き添って通院しており、平均すると毎日利用者の一人は医療機関に行くような頻度
個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置を活用している利用者の有無	該当者なし
医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備のおおよその費用	- 新築の建物を共同生活援助事業所として使用しており、スロープ、手すり、エレベーター、機械浴、リフト等設置あり - 利用者が入居してから新たに医療機器（吸引器、酸素濃度の測定器、モニター等を購入
医療的ケアが必要な方の受入のために施したソフト面での工夫	- 看護師・准看護師を配置した - 職員を多めに配置した - 利用者の家族に医療的ケア等について聞き取った - 利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提供してもらった - 利用者ごとの医療的ケア実施手順書を作成した - 夜間や緊急時に、利用者の主治医や地域の訪問看護師等に連絡や相談ができる体制を整えた - 手技を身に付けたり知識を身に付けるための研修参加を職員に積極的に促している - 定期的に事業所や法人内部で医療的ケアに関する研修や勉強会を行っている
取得している加算	医療連携体制加算（Ⅳ）
医療的ケアに関する自治体による補助	自治体による補助は受けていない
過去に受け入れていた方の退居理由と退居先	- この3か月程度の間に胃ろうの方が2名お亡くなりになった - 呼吸停止しているのを夜勤者が見つけ、往診の医師に来てもらって対応した - 立ち上げ当初から、看取りまでできる共同生活援助事業所にしたいと考えていた
医療的ケアが必要な方への支援にあたって相談する外部の関係者や関係機関	- 利用者のかかりつけ医・主治医 - 訪問看護ステーション - 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職 - 相談支援専門員 - 医療的ケア児等コーディネーターや医療的ケア児等支援センター - 利用者の通う日中活動事業所、学校、企業等 - 社会福祉協議会 - 自立支援協議会 - 利用者の家族

図表 247 医療的ケアを必要とする者への支援に関する課題や意見

問	回答
医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難	• 医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保（新たにもう1件共同生活援助事業所を立ち上げようと考えているが、看護師の確保が想定よりも遅れている状況） • 支援に必要な設備の導入・建物のリフォーム等の費用負担（行政の支援は申請から受領までに手間や時間がかかりすぎるため、自前で整備してしまっている） • 医療的ケアが必要な方への支援リソースの集中（他の利用者へのサービスの低下の懸念） • 住居を増やす際に医療的ケアの方を受け入れる体制を整えていたところ、強度行動障害のある方からの利用希望が想定よりも多かった
現在抱えている課題や困りごと	• 海沿いの地域のため、災害（地震による津波）を心配している
現行の制度に対する意見等	• 共同生活援助事業所の報酬上も看取りに対する加算があると良い • 区分3と区分4では基本報酬が大きく変わるが、区分3でも手厚い支援を必要とするケースもあり、区分3の方ばかりを受け入れると経営が厳しくなるように感じる • 看護師を24時間配置することと看護師配置加算が実際のコストに見合っていないため、医療連携加算を取っている • 現在の利用者であれば収支に問題はないが、看護師を夜間も配置するとなると赤字になる可能性がある • 看護師を常勤で1名は配置していた方が安心だが、現行の報酬体系では、資格のある介護職員で体制を整えた方が経営的には人件費が安く済む • 障害者福祉の現場経験の少ない看護師よりも、現場経験の豊富な准看護師の方が支援の現場では重宝される状況がある • 設備の導入には年間で数十万程度かかっており、申請から受領までの時間や手間を考え、行政による補助等は活用していない。こうした設備整備のためのタイムリーに受け取れる助成金があれば利用したい

⑤ 事業所E（医療的ケアを必要とする者の受入れを断念したことがある事業所）

○実施日時：令和8年2月27日(金)12:00～13:00

○実施方法：オンラインで実施

○同席者：共同生活援助事業所サービス管理責任者

図表 248 基本情報

問	回答
事業所の開設年	2015年（平成27年）
貴事業所の類型	介護サービス包括型
利用者の主たる障害種別	身体障害
共同生活住居数と定員数	1住居、定員6名
利用者数（障害種別）	- 身体障害：5名 - 知的障害：4名（身体障害と重複） （現在5名入居中。脳性麻痺が原因の身体障害で、日常生活動作は一定程度可能なご自身で公共交通機関を使い就労先に通っている方々。知的障害のある方も比較的理解力が高い方が多い）
利用者数（障害支援区分）	- 区分3：2名 - 区分4：3名
利用者数（年代）	18歳～20代：2名 30代：2名 50代：1名
住居建物の種別	新築のグループホーム用住宅
開設時に重視した立地等の条件	- 交通の便が良いこと - コンビニやスーパーマーケットが近いなど、買い物に便利なこと - 多くの利用者が通う可能性のある事業所等が近くにあること - 法人本部、系列施設や事業所等が近くにあること
法人で運営している医療サービスや障害福祉サービス等	- 医療サービス：無し - 障害福祉サービス等：短期入所、生活介護、施設入所支援、共同生活援助、計画相談支援、障害児相談支援、障害児通所支援
職員体制	- 管理者：1名 - サービス管理責任者：1名 - 世話人：非常勤2名 - 生活支援員：常勤1名 - 看護職員：常勤1名（法人所属、普段は入所施設に勤務）
職員の主な資格保有状況（延べ人数）	- 看護師：1名 - 社会福祉士：2名 - 介護福祉士：3名
事業所の医療職の配置体制	非常勤准看護師（法人所属の常勤看護師が週1回健康相談を行う）
地域の衣装資源の状況	- 事業所の徒歩圏内に医療機関がある - 公共交通機関で無理なく行ける圏内に医療機関がある
夜間支援等体制加算の取得住居数	夜間支援等体制加算（Ⅱ）
登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況	いずれも登録していない

図表 249 医療的ケアを必要とする者への対応に関する現状

問	回答
これまでの医療的ケアを必要とする者の受入に関する問い合わせの有無	• 問い合わせがあったが、受入が困難と考え、利用に至らなかった • これまでに医療的ケアがあるというだけで断ったことはなく、お話を伺う中で夜中のケアに対する懸念やグループホームの生活リズム（ほとんどの利用者が朝7時台に身支度を終えて外出する）等を理解した上で、別の事業所を利用することになった
困難と判断する理由	• 駅近の事業所で、ご自身で就労先に通えるような状態像の方をターゲットに開所しており、医療的ケアの頻度や濃度が濃い方を受け入れることを想定した体制（ハード面、ソフト面共に）になっていない • 設備面では、身体障害を主たる対象としており、廊下幅や平屋であるため、車いす利用者でも問題なく暮らせるが、機械浴を設置していないなど重度の方は受入が難しい • 体制面では日中サービス支援型ではないため日中の職員配置をしておらず、就労や日中活動がない方の受入れは難しい • また、夜間体制も手厚いわけではなく、常時見守りが必要な方は受入が難しい • 定期的な通院はご自身またはご家族の付き添いで行ってもらっており、職員が頻回に通院に付き添ったり看護師が常勤で配置されていたりなどの医療面でのサポート体制は整っていない • 看護職員の常勤配置はしておらず、必要な医療濃度の高い方の受入れは職員の精神的負担が大きい可能性がある • 法人の入所施設では看護師の配置や夜間の見守りに対応できるため、その方が安心と考え、共同生活援助事業所ではなく施設入所を望む利用者もいた。また、近隣に医療的ケアに対応できる法人があり、必要な医療的ケアが多い場合にはそちらに相談するなど、地域の中で利用者に合わせたすみ分けができているというのも理由の一つ
医療的ケアがあっても受入れができそうな状態像	• 夜中のみの酸素療法など、軽度な医療的ケアであれば対応することはできるかもしれない（その場合、基本的には看護職員以外での対応になるため、アクシデント発生時に短時間で命に関わるような方は、対応する職員の精神的な負担も鑑み、受入れが難しい可能性が高い） • 現在の利用者が将来的に医療的ケアを必要とする場合、ご本人の希望に沿ってできる限り共同生活援助事業所に住み続けられるように対応したい

6. まとめ

各調査結果および検討委員会での議論を踏まえ、共同生活援助事業所における医療的ケアを必要とする者等の重度障害者の受入れに関する現状や課題、今後の必要な施策等について、今後必要な施策を検討するうえで前提とすべき2つの実態とともに、次のとおり整理した。

(1) 実態Ⅰ：医療的ケアが必要な方の状態像の多様性

本事業では、医療的ケアが必要な方の状態像（障害や疾病の程度、必要とする医療的ケアの内容や頻度等）が多様であることを踏まえて調査設計を行った。その結果、こうした状態像の違いにより必要とする設備や支援体制、共同生活援助事業所に対する思いや期待に大きな差がみられることが明らかとなった。

例えば、本事業のヒアリング調査にご協力いただいた当事者のなかには、睡眠時にのみ酸素療法が必要で、ご自身によるチューブの着脱が可能な方もいれば、重症心身障害で1日を通して複数の医療的ケアや身体介助を必要とするような方もいた（3. 当事者へのヒアリング調査参照）。このように、医療的ケアの内容や頻度だけでも多様な状態像の方がおり、これに障害種別や障害の程度、疾病の有無等の様々な要素も加わることから、医療的ケアが必要な方に係る制度設計においては、こうした多様性に十分に留意することが求められる。

また、本事業の事業所に対する調査では、多くの事業所が夜間も含めた看護職員の確保を課題と挙げていた。今後、こうした課題に対する効果的な施策を検討するためには、今回調査した内容（医療的ケアの内容、頻度及び実施者等）のみならず、医療的ケアの対応に要する時間や医療的ケアが必要な時間帯、看護職以外の職員にとっての医療的ケアの難易度等についても追加して調査を行う必要がある。

(2) 実態Ⅱ：医療的ケアを必要とする者が共同生活援助事業所で暮らしている事例の認知度の低さ

本調査を通じ、医療的ケアを必要とする者が実際に共同生活援助事業所で暮らしている事例が十分に共有・認知されていないことが、事業所側・当事者側の双方において「医療的ケアが必要である以上、共同生活援助事業所での生活は不可能である」との先入観を生み出している可能性が示唆された。

この先入観が、事業所においては、実態以上に受入れを困難視する判断につながり、当事者・家族においては、暮らしの場の選択肢としての共同生活援助事業所を端から除外してしまっている可能性がある。質問紙調査の自由記述欄において、「どんな条件がそろっても医療的ケアが必要な方を受け入れることはできない」と回答した事業所も複数あり、また、当事者においても「共同生活援助事業所で暮らせるとは思わない」という回答が散見されていた。

しかし実際には、本事業の調査から共同生活援助事業所で生活している医療的ケアを必要とする者の事例も多数確認されている。それらの事例から、共同生活援助事業所での生活には医療的ケアの内容や支援体制が大きく影響すると考えられる。こうした具体的な生活実態や支援の工夫の事例を広く共有していくことが、受入れの裾野を広げ、当事者の住まいの選択肢を実質的に拡張する上で重要であると考えられる。

もっとも、上記のような前提を踏まえたとしても、医療的ケアを必要とする者の受入れを現実的に検討する段階において事業所が直面する困難は依然として大きい。具体的には、調査結果から、人員の確保や夜間・緊急時対応への不安、設備整備や運営コストの負担、制度の複雑さなど、受入れに伴う課題が構造的でなく多岐にわたっていることが明らかとなり、個々の事業所の努力のみでは解決できないことも多いと考えられた。

今後、好事例の認識が広まったとしても、事業所の受入れが進まなかったり、当事者の共同生活援助事業所での生活に対する本人や家族等の不安が軽減されない可能性がある。そう考えられる要因について次項以降で整理する。

(3) 当事者の生活実態と共同生活援助事業所へ望むこと

本事業では、主に以下の2つのリサーチクエスションへの解を求めるために当事者向けの調査（質問紙調査・ヒアリング調査）を行った。

A) 医療的ケアを必要とする者は共同生活援助事業所でどのような生活をしているか

B) 医療的ケアを必要とする者やその家族は、共同生活援助事業所にどんな支援を望んでいるか

リサーチクエスション A については共同生活援助事業所で暮らしている者、B については共同生活援助事業所以外で暮らしている者に関する問いであると整理する。本節では当事者向け調査の結果を共同生活援助事業所で暮らしている者と共同生活援助事業所以外で暮らしている者に分けて分析をしたうえで、今後の施策検討に必要な点を整理する。

なお、本質問紙調査では、図表 13 回答の方法のとおり、当事者本人の回答は 4.3%であり、回答の多くが代理回答であることに注意されたい。

また、暮らしの場所については、図表 42 現在の住まいのとおり、「自宅（家族と同居）」が 214 人（61.3%）で最も多く、次いで「グループホーム」が 79 人（22.6%）、「医療機関に入院中・療養介護利用中」が 33 人（9.5%）、「障害者支援施設・重症心身障害児者施設」が 16 人（4.6%）、「自宅（一人暮らし）」が 0.3%であった。本節においては、暮らしの場所による比較を行うため、以下のとおり大きく3つの集団に分けて記載する。

- ・「共同生活援助事業所で暮らす者」

- …住まいの場所について「グループホーム」と回答した者（79 人）

- ・「自宅で暮らす者」

- …住まいの場所について「自宅（家族と同居）」または「自宅（一人暮らし）」と回答した者（合計 215 人）

- ・「施設等で暮らす者」

- …住まいの場所について「障害者支援施設・重症心身障害児者施設」または「医療機関に入院中・療養介護利用中」と回答した者（合計 49 人）

【ア. 必要とする医療的ケアの内容】

図表 87 のとおり、共同生活援助事業所で暮らす者が必要とする医療的ケアの種類としては、「排便管理（排便、洗腸、浣腸）」（25.3%）や「経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は

食道ろう)」(19.0%)、「吸引(口鼻腔又は気管内吸引に限る)」(15.2%)が多かった。自宅や施設等で暮らす者も医療的ケアの種類は同様であったが割合が大きく異なり、自宅で暮らす者は半数以上が「吸引(口鼻腔又は気管内吸引に限る)」(67.0%)、「経管栄養(胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう)」(59.1%)といった医療的ケアが必要と回答した。施設等で暮らす者も半数近くが「経管栄養(胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう)」(67.3%)、「吸引(口鼻腔又は気管内吸引に限る)」(49.0%)、といった医療的ケアが必要と回答した。

また、本調査で設定した医療的ケアの選択肢 21 種類のうち、一人当たりが必要とする医療的ケアの数は、回答者全体で平均 3.0 種類(中央値 3、最小値 0、最大値 10)であった。これについて現在の住まいで比較すると、自宅で暮らす者は平均 3.6 種類、共同生活援助事業所で暮らす者は平均 1.5 種類、施設等で暮らす者は 3.0 種類であった。

こうした結果から、自宅や施設等で暮らす者に比べ、共同生活援助事業所で暮らす者の方が、一人当たりの必要とする医療的ケアの種類が少ないことが分かった。医療的ケアの種類については、吸引や経管栄養を必要とする者が多いという似た傾向がありながらも、それぞれの医療的ケアを必要とする者の割合は大きく異なり、最も多いものでは、自宅や施設等で暮らす者では 6 割程度(吸引、経管栄養等)、共同生活援助事業所で暮らす者では 2 割程度(排便管理、経管栄養)という差が見られた。

【イ. 状態像】

図表 84、図表 85、図表 86 のとおり、共同生活援助事業所で暮らす者の状態像としては、障害支援区分は「区分 6」が 45.6%、本人から他者へのコミュニケーション手段は「会話」が 58.2%、運動機能は「歩くことができる」、「寝返りができる」が 46.8%でそれぞれ最も多かった。

一方、自宅で暮らす者の状態像としては、障害支援区分は「区分 6」が 71.6%、本人から他者へのコミュニケーション手段は「表情、目の動き」が 68.4%、運動機能は「寝たきり」が 70.2%でそれぞれ最も多かった。また、施設等で暮らす者の状態像としては、「障害支援区分 6」が 63.3%、本人から他者へのコミュニケーション手段は「表情、目の動き」が 63.3%、運動機能は「寝たきり」が 69.4%でそれぞれ最も多かった。

以上の結果から、共同生活援助事業所で暮らす者に比べ、自宅や施設等で暮らす者の方が、障害の状態が相対的に重度である傾向が見られた。

しかしながら、共同生活援助事業所で暮らす者のうち、43.0%は本人から他者へのコミュニケーション手段を「表情、目の動き」、19.0%は運動機能を「寝たきり」と回答しており、重度障害者でも共同生活援助事業所で暮らす者が一定数いることも分かった。

こうした結果から、共同生活援助事業所とそれ以外の暮らしの場では、統計的にみると当事者の状態像に大きな差がみられる一方で、本調査のヒアリング対象のように、個別の事例に着目すると、それぞれの集団で重度障害者が含まれることが示唆された。

【ウ. 生活の様子】

図表 88 のとおり、平日の日中に過ごす主な場所については、共同生活援助事業所で暮らす者は、「グループホーム」が 50.6%と最も多く、次いで「生活介護事業所」が 35.4%、「就労継続支援 A 型事業所または就労継続支援 B 型事業所」が 16.5%、「就労先」が 6.3%であった。

一方、自宅で暮らす者では「生活介護事業所」が 60.0%で最も多く、次いで「自宅」が 33.0%、「学校・放課後等デイサービス・保育園等」が 15.8%であった。また、施設等で暮らす者では「その他」が 73.5%で最も多く、その内容としては「施設」または「入院中の病院」という回答が多かった。自宅または施設等で暮らす者のうち、「就労継続支援 A 型事業所または就労継続支援 B 型事業所」と回答したのは自宅で暮らす 2 名のみで、「就労先」と回答した者は一人もいなかった。

平日の日中に過ごす主な場所については、各々の状態像の影響を大きく受けることが予想されるが、全体として共同生活援助事業所で暮らす者は、自宅または施設等で暮らす者と比べ、相対的に就労系の日中活動または企業等での就労をしている者が多い傾向が見られた。

【エ. 現在の生活の満足度】

図表 54、図表 55、図表 56 のとおり、共同生活援助事業所で暮らす者の生活満足度については、食事・入浴・外出の 3 つの項目について、それぞれ「とても満足している」、「概ね満足している」と回答したのがいずれも合わせて 7 割を超えていた。入浴に関しては「とても満足している」と回答したのが 26.6%と、特に多かった。

一方、図表 67 のとおり、自宅で暮らす者では、「とても満足している」、「まあ満足している」⁶と回答したのが合わせて 66.5%で、施設等で暮らす者では合わせて 51.0%であった。

こうした結果から、共同生活援助事業所で暮らすの方が自宅や施設等で暮らす者に比べ、現在の生活に満足している者の割合が 1 ～ 2 割多いことが分かった。

【オ. 現在抱えている不安】

図表 60 のとおり、現在抱えている不安に関する設問では、共同生活援助事業所で暮らす者は、「特に不安や心配事はない」と回答したのが 29.1%で最も多く、次いで、「災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配」が 21.5%と、現在の暮らしそのものに不安を抱えていない者が多い傾向が見られた。また、「その他の選択肢（身体機能の低下、体調不良時の対応、外出の自由度等）」の回答については、いずれも 15%を下回っていた。

一方、図表 68 のとおり、自宅で暮らす者では、「一緒に暮らす家族が高齢になってきて、今の生活をいつまで続けることができるか心配」が 75.3%で最も多く、次いで、「災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配」が 60.9%で、家族の高齢化による生活の変化に不安を抱えている者が多かった。また、施設等で暮らす者では、「身体機能が低下してきていることが心配」が 55.1%で最も多く、次いで、「災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配」が 22.4%であった。「特に心配なことはない」と回答したのは、自宅で暮らす者では 3.3%、施設等で暮らす者では 10.2%にとどまった。

図表 80 のとおり、共同生活援助事業所以外の場合で暮らす者が共同生活援助事業所で暮らすことを想像した場合に心配な点については、70%以上が「日常的な医療的ケアがちゃんと受け

⁶ 満足度について、グループホームで暮らす者への設問での選択肢は「とても満足している」、「概ね満足している」、「あまり満足していない」、「満足していない」としており、グループホーム以外の場合で暮らす者への設問では「とても満足している」、「まあ満足している」、「どちらともいえない」、「あまり満足していない」、「満足していない」としていた。

られるか心配」、「急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配」と回答し、医療面での不安が大きいことが分かった。

こうした結果から、個々の状態像が異なるという前提はありながらも、共同生活援助事業所で暮らす者の方が抱えている不安は少ない傾向が見られた。

また、ヒアリング調査でも、共同生活援助事業所入居前に抱えていた体調不良時の対応への不安等について、「実際に入居してみると、体調不良時等への対応の体制が整っていて、安心して暮らせると感じた」という声が聞かれた。

以上より、共同生活援助事業所入居前には医療的ケアへの不安が大きい一方、実際に入居している当事者では不安は限定的で、入居後に不安が軽減される傾向がうかがえる。

なお、こうした不安については、次以降の共同生活援助事業所への入居希望や共同生活援助事業所に対するイメージとも一部関連すると考えられる。

【力. 現在または将来の共同生活援助事業所への入居希望】

図表 69 のとおり、共同生活援助事業所以外で暮らす者に対する共同生活援助事業所への「現時点での」入居希望に関する設問では、「希望しない」と回答したのが 49.3%で最も多かった。その理由としては、「日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配」と「急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配」が4割を超えて最も多く、次いで「このまま家族と一緒に暮らしたいから」が 39.1%であった。

一方で、図表 73 のとおり、「将来的な」共同生活援助事業所への入居希望に関する設問では、「回答しない/分からない」と回答したのが 33.7%で最も多く、「希望しない」と回答したのは 27.8%にとどまった。その理由としては、「グループホームでは医療的ケアや医療体制に不安があるから」といった回答が多く聞かれた。

こうした結果から、自宅や施設等で暮らす者の間では、現時点では医療的ケアへの不安から入居を希望しない者が多い一方、将来については判断を保留する層も多く、状況の変化に応じて入居を検討する可能性がうかがえる。

図表 106 のとおり、「現時点での」共同生活援助事業所への入居希望については、自宅で暮らす者のうち 28.4%が「希望する」または「こんな⁷グループホームであれば希望する」と回答した。その理由としては、「このまま自宅で暮らすのが難しくなってきたから」が 56.5%で最も多かった。

一方で、施設等で暮らす者では、53.1%が「希望しない」と回答し、その理由としては「日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配」と「急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配」が 24.5%で最も多かった。

以上より、現在の住まいにより共同生活援助事業所への入居希望やその理由が大きく異なり、自宅で暮らす者の方が共同生活援助事業所への入居希望が多い傾向が見られた。

⁷ 具体的な内容については、図表 70 のとおり、「医療面で安心できるグループホーム」を挙げたものが多かった。

(4) 事業所側の受入れの視点から見た実態と課題

本事業では、主に以下の2つのリサーチクエストへの解を求めるために事業所向けの調査（質問紙調査・ヒアリング調査）を行った。

C) 共同生活援助事業所では、医療的ケアを必要とする者を受け入れるためにどんな取組を行っているか

D) 共同生活援助事業所で医療的ケアを必要とする者を受け入れることが困難と考える理由は何か

リサーチクエストCについては医療的ケアを必要とする者を受け入れたことのある事業所、Dについては医療的ケアを必要とする者を受け入れたことのない事業所に関する問いであると整理する。本節では、事業所向け調査の結果を、医療的ケアを必要とする者を受け入れた経験の有無で分類して分析をしたうえで、今後の施策検討に必要な点を整理する。

【ア. 建物の構造や設備】

医療的ケアを必要とする者を受け入れている共同生活援助事業所では、新築の建物を使用しているなど、予め広い廊下幅やエレベーター、車椅子利用者でも使用できるトイレ、洗面台、風呂等の設備が整っている事業所も多い。これらは、医療的ケアを必要とする者への対応を想定して建設・整備された共同生活援助事業所で多く見られた特徴である。

一方、図表 207 のとおり、医療的ケアを必要とする者を受け入れたことのない事業所は、建物の構造を理由に医療的ケアを必要とする者を受け入れることが困難と考えるのが 45.9%であった。空いている一軒家を転用した共同生活援助事業所のようなケースでは、階段や狭い廊下幅等、整備が難しい構造上の問題を抱えている場合も多い。こうした共同生活援助事業所では車椅子利用者や寝たきりに近い方を受け入れることは難しく、物理的な理由から医療的ケアを必要とする者の受入れを断念していると考えられる。

解消できる余地があるような構造上の問題や設備不足といった理由により医療的ケアの必要な方の受入れが困難な場合には、これらの課題を解消するための施設・整備への補助や医療機器の購入等、施設整備費の重点的な配分が必要と考えられる。実際に質問紙調査の結果から得られた「医療的ケアの必要な方を受け入れるためにかかった費用」としては、スロープの設置や建物の改修によるバリアフリー化、手すりや機械浴の設置等様々な回答が挙げられた。具体的な金額については、回答のあった 58 事業所について、1 事業所あたりの平均金額は約 786 万円であった。なお、本調査ではどんな状態像の何名の利用者のためにかかった費用かといった具体的な状況までは情報を得られていないため、施策の検討にあたってはより詳細な調査を行う必要がある。

しかしながら、前述のとおり、医療的ケアの必要な方の状態像は多様で、階段がある建物でも問題なく暮らすことができるような方もいることから、実際の受入れにあたっては、構造上の課題以外にも解決すべき課題があると考えられる。

【イ. 人員体制】

人員配置に関する設問では、図表 150 のとおり、医療的ケアを必要とする者を受け入れている事業所では、職員研修や訪問看護との連携、外部サービスの活用等、様々な工夫を積み重ねて

いることが分かった。図表 151 のとおり、現在医療的ケアを必要とする者を受け入れている事業所が受け入れ開始時の課題や困難として挙げたのは「医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保」が最も多く、次いで「利用者の急変に対応できる人員体制の確保」であった。加えて、現在抱えている課題や困りごととして挙げたのも「利用者の急変に対応できる人員体制の確保」が最も多かった。

一方、図表 207 のとおり、医療的ケアを必要とする者を受け入れたことのない事業所は、受入れを難しいと考える理由について、「医療的ケアができる看護師等や介護職員等がないから」が最も多かった。

以上のことから、医療的ケアを必要とする者の受入れ状況に拘わらず、医療的ケアに対応する人員の確保に難しさを感じていることが分かった。

こうした課題がある一方で、医療的ケアを必要とする者を受け入れていない事業所の中には、「慢性的な人員不足が解消された場合には医療的ケアを必要とする者の受入れが可能」と考える事業所も一定数おり、共同生活援助事業所で十分な人員が確保できれば、医療的ケアを必要とする者の受入れが一定程度進む可能性も示唆された。

事業所が必要な人員を十分に配置するための対応策の一つとして、共同生活援助事業所を利用する重度の障害者（区分 4 以上等の要件あり）に限って、個人単位の居宅介護の利用を認める経過措置による居宅介護の利用や、報酬体系の見直しが想定されるが、前述のとおり、医療的ケアの必要な方の状態像は多様で、同じ障害支援区分であっても必要とする支援の内容や人員体制は大きく異なる場合もあり、障害支援区分等による一律の報酬設定ではなく、ある程度個々の状態像に応じた報酬体系とすることを求める声もあった。

【ウ. 働く職員にとっての心理的なハードル】

医療的ケアを必要とする者を受け入れていない事業所が受け入れ可能になるための条件について、条件ではなく「どんな条件がそろっても医療的ケアが必要な方を受け入れることはできない」、「今後も受入れの予定はない」と回答した事業所が一定数存在した。これを踏まえると、医療的ケアの有無そのものが、事業所での受け入れ判断において慎重姿勢を強める要因となっている可能性が示唆される。

実際には、前述の 2 つの前提のとおり、医療的ケアの内容や状態像は多様で、すべての医療的ケアを必要とする者が高度な医療行為や常時の見守りを要するわけではない。しかしながら、事業所がこうした実態を知らない場合には、医療的ケアを必要とする者の受入れに対して消極的な考えを持つことが予想される。こうした考えを持つ事業所を減らすために、医療的ケアには様々な内容、程度、対応頻度の違いがあり、自分の事業所でも受入れが可能なケースがあるかもしれないということについて、広く事業所に認識してもらう必要がある。

【エ. 看取りについて】

ヒアリング調査では、「看護職員以外の世話人や生活支援員が利用者の看取りを行うことについて、心理的なハードルがかなり高い」「介護保険のように看取りやターミナルケアに対する報酬上の加算を作るべきだ」という声も聞かれた。障害福祉サービスの一つである共同生活援助事業は、障害者の日常生活の一部をサポートするというイメージを強く持っている事業所も多

く、介護保険の事業所や医療機関と比較すると、事業所職員による看取りやターミナルケアには心理的なハードルが高い可能性がある。医療的ケアが必要な方の中にはターミナルケアを必要とする方もおり、看護職員が潤沢でない共同生活援助事業所ではこうした対応を難しいと考え、医療的ケアを必要とする者を受け入れることを躊躇する事業所が多いということも考えられる。

【オ．既存の利用者への対応の可能性】

一方で、図表 148 のとおり、医療的ケアへの対応を開始したきっかけについて、「入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから」という回答をした事業所は 50.0%であった。入居前から医療的ケアが必要な場合は受入れが難しい一方、入居後に医療的ケアが必要になった場合には継続居住できている事例が一定数存在することが示された。

また、図表 208 のとおり、今後利用者に医療的ケアが必要になった場合や医療的ケアを必要とする者から新たに入居希望があった場合の対応予定について、約 4 割の事業所が「積極的に対応したい」(1.5%)、「話を聞き、対応可能かどうか判断したい」(43.0%)と回答した。今後の共同生活援助事業所での医療的ケアを必要とする者の受け入れ拡大においては、こうした考えを持つ事業所を増やしていくことがポイントになると考えられる。

続いて、図表 220 のとおり、医療的ケアを必要とする者を受け入れたきっかけと医療的ケアの内容を比較してみると、医療的ケアを必要とする者を受け入れることを想定して立ち上げた事業所と既存の利用者に医療的ケアが必要になったことで対応を開始した事業所とでは、対応している医療的ケアの内容に一定の差が見られた。前者では、鼻咽頭エアウェイの管理、喀痰吸引、経管栄養、排便管理の 4 種類の医療的ケアについて、それぞれ全体の 6 割近くが対応していると回答した。後者では、最も多い 2 種類（鼻咽頭エアウェイの管理、排便管理）でも対応しているのが 4 割弱であり、喀痰吸引、経管栄養以外の医療的ケアに絞って対応を行っていることが窺える。

ヒアリング調査においても、利用者が直腸がんにより人工肛門をつけることとなったことで事業所としての医療的ケアへの対応を開始し、本人の希望に沿ってできる限り共同生活援助事業所での生活を続けられるよう、人員配置や訪問看護の活用等の工夫を行った事例があった。

このように、入居後に医療的ケアが必要となった場合には、本人への理解や本人と支援者との関係構築が進んでいることから、それまでの生活を継続できている事例も見られ、共同生活援助事業所での医療的ケアを必要とする者受入れの可否は、医療的ケアを必要とする者と事業者との個別的な関係の有無や、人員配置や設備面等の状況次第で可能性が広がることが示唆される。

（５）今後の施策検討に向けた示唆

本調査の結果からは、医療的ケアを必要とする者の地域生活を支えるためには、好事例の共有や情報提供、個別具体的な医療的ケアを必要とする者と事業者との関係性の構築等を通じて受入れのイメージやそれぞれの医療的ケアにおいて、共同生活援助事業所として提供が必要となる支援内容や人員や設備といったことを具体化するとともに、医療的ケアの内容や支援負荷の実態に

即した人員配置や報酬、設備整備への支援を組み合わせる検討することが重要であることが示唆される。

あわせて、医療的ケアの内容・頻度・時間帯や、対応に伴う職員の心理的ハードルといった観点を踏まえた制度設計を行うことで、事業所が受入れに対して前向きに検討することを可能とする環境整備が求められる。

また、本調査は、医療的ケアを必要とする者の状態像の多様性を前提として実施したものであるが、医療的ケアに要する時間や時間帯、対応の難易度、職員の心理的ハードルといった点については、調査における限界もあり、十分に把握できていない部分も残されている。今後の施策等の検討にあたっては、本事業における結果を踏まえ、さらに調査設計を工夫した調査を行うことで、より詳細な実態を把握できると考えられる。

付録

付録 1 当事者向け質問紙調査 調査項目一覧

令和7年度障害者総合福祉推進事業 課題番号14「共同生活援助における重度障害者への生活支援に係る調査研究」

当事者アンケート設問項目

調査票の概要						
番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須 ／任意	回答形式	選択肢
-	調査の趣旨・回答に関するお願い	-	【本調査の目的】本調査は、厚生労働省令和7年度障害者総合福祉推進事業 課題番号14「共同生活援助における重度障害者への生活支援に係る調査研究」の一環として実施します。本事業は、医療的ケアを必要とする方がグループホーム（共同生活援助）で暮らすことについての課題や生活の実態を把握することを目的として実施します。			
-		【本調査の回答対象者と回答のサポートについて】 本調査は、医療的ケアを必要とする方を調査対象として実施します。 ※ご本人の回答に際し、回答入力への支援が必要となる場合、ご家族や支援者の方が代理入力をしてください。回答の内容については、ご家族や支援者の方は回答の誘導を行わず、ご本人の意思を反映いただけるよう配慮をお願いします。なお、ご本人の理解が難しい設問がある場合、無理に回答はせず、無回答として次の質問に進んでください。				
-		本調査において、「医療的ケアを必要とする方」とは、次の医療的ケアのいずれかを日常的に必要とする方を指します。 ＜本調査における医療的ケア＞ ①人工呼吸器（鼻マスク式補助換気法、ハイフローセラピー（ネーザルハイフロー） 間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置（カフアシストやコンフォートカフ等）、高頻度胸壁振動装置（スマートベスト等）） ②気管切開の管理 ③鼻咽頭エアウェイの管理 ④酸素療法 ⑤吸引（口鼻腔内、気管内） ⑥ネブライザーの管理 ⑦経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう、食道ろう、持続経管注入ポンプ使用） ⑧中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等） ⑨皮下注射（インスリン、麻薬等の注射を含む、持続皮下注射ポンプの使用） ⑩血糖管理（定時血糖測定、持続血糖測定、埋め込み式血糖測定） ⑪継続的な透析（血液透析、腹膜透析） ⑫導尿（間欠的導尿、持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう、尿路ストーマ）） ⑬排便管理（消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸） ⑭痙攣時の対応(座薬挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置)				
-		【ご回答いただくにあたって】 ・ご回答は任意です。 ・回答の有無が事業所の職員やご家族の方に知られることはありません。 ・分からない質問や、答えづらい質問、答えたくない質問があれば、無回答で構いません。 ・ご回答いただいた内容は匿名にて集計し、結果をPwCコンサルティング合同会社のホームページ上に開示いたします。個人、利用している事業所名、地域等が特定されることはありません。				
-		■ご回答方法 ■ 回答用URLから回答を送信 ■お問合せ先 ■ インターネット環境により回答用URLからの回答送信が難しい場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。				
-	お問い合わせ先	-	調査実施主体 PwCコンサルティング合同会社 公共事業部 【住 所】〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー			
1	当事者基礎情報	1	回答の方法	必須	選択（単一回答） ＋記述	本人による回答 家族による代理入力（続柄： ） 日頃関わる事業所等の職員による代理入力 相談支援専門員による代理入力 ＋「その他」・「回答しない/分からない」
2		代理回答の方法	必須	選択（複数回答） ＋記述	本人が発した言葉をくみ取ること意思を推定し、その内容を代理で入力 本人の言葉以外での反応から意思を推定し、その内容を代理で入力 ＋「その他」・「回答しない/分からない」	
3		本人の意思の確認における工夫	必須	選択（複数回答） ＋記述	複数人により、同一の見解であった場合に本人の意思として推定 日頃の関わりの中で度々見受けられる反応を基に推定 ＋「その他」・「回答しない/分からない」	
4		年齢	必須	数値	＋「回答しない/分からない」	
5		性別	必須	選択（単一回答）	男性 女性 回答しない	
6		障害支援区分	必須	選択（単一回答）	非該当（区分から区分のどれにも当てはまらない） 区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6 未認定（障害支援区分認定調査をしていない） ＋「その他」・「回答しない/分からない」	
7		本人から他者へのコミュニケーション手段 （当てはまるものをすべて選択）	必須	選択（複数回答） ＋記述	表情、目の動き 声（あー、うー等のなん語を含む）や身ぶり手ぶり 単語による意思表示 会話 手話 文字盤 意思伝達装置 上記のいずれにおいてもコミュニケーションを図ることが難しい ＋「その他」・「回答しない/分からない」	
8		運動機能 （当てはまるものをすべて選択）	必須	選択（複数回答） ＋記述	走ることができる 歩くことができる 車椅子等で自ら移動ができる 伝い歩きができる つかまり立ちができる 背ばい・腹ばい・四つんばいで移動ができる 座位保持が可能 寝返りができる 寝たきり ＋「その他」・「回答しない/分からない」	

番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須／任意	回答形式	選択肢
		9	必要とする医療的ケアの内容と対応の頻度についてご回答ください。 （頻度はおおよそで構いません。補足がある場合には、下部の自由記述欄をお使いください。）	必須	選択（複数回答） + 記述	人工呼吸器の管理 ：（時間に回程度） 気管切開の管理 ：（時間に回程度） 鼻咽頭エアウェイの管理 ：（時間に回程度） 酸素療法 ：（時間に回程度） 吸引（口腔又は気管内吸引に限る） ：（時間に回程度） ネブライザーの管理 ：（時間に回程度） 経管栄養（経鼻胃管、経鼻腸管） ：（時間に回程度） 経管栄養（胃ろう、経胃ろう腸管、腸ろう又は食道ろう） ：（時間に回程度） 経管栄養（持続経管注入ポンプ使用） ：（時間に回程度） 中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等） ：（時間に回程度） 皮下注射（インスリン、麻薬等含） ：（時間に回程度） 皮下注射（持続皮下注射ポンプの使用） ：（時間に回程度） 血糖測定（持続血糖測定を含む。埋め込み式血糖測定以外） ：（時間に回程度） 血糖測定（埋め込み式血糖測定による） ：（時間に回程度） 継続的な透析（血液透析、腹膜透析） ：（時間に回程度） 間欠的導尿（間隔を空けて実施する導尿） ：（時間に回程度） 持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう又は尿路ストーマ） ：（時間に回程度） 排便管理（消化管ストーマ） ：（時間に回程度） 排便管理（排便、洗腸、浣腸） ：（時間に回程度） 痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動等の処置 ：（時間に回程度） 医師の指示書に基づくその他のケア + 「回答しない/分からない」
		10	現在の住まい	必須	選択（単一回答） + 記述	自宅（家族と同居） 自宅（一人暮らし） グループホーム 障害者支援施設 医療機関に入院中 + 「その他」・「回答しない/分からない」
		11	現在利用している障害福祉サービスや医療サービス等	必須	選択（複数回答） + 記述	<医療サービス> 訪問診療・往診/訪問看護/訪問歯科診療/訪問リハビリ 訪問薬剤/訪問栄養指導/ <障害福祉サービス・相談支援> 居宅介護/重度訪問介護/同行援護/行動援護/ 重度障害者等包括支援/短期入所/療養介護/ 生活介護/施設入所支援/自立生活援助/ 共同生活援助/自立訓練（機能訓練）/ 自立訓練（生活訓練）/就労移行支援/ 就労継続支援A型/就労継続支援B型/ 就労定着支援/就労選択支援/計画相談支援/障害児相談支援/ 地域移行支援/地域定着支援 <地域生活支援事業> 移動支援/日中一時支援/日常生活用具給付等事業/ 地域活動支援センター/基幹相談支援センター/障害者相談支援事業 <障害児通所支援> 障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援） + 「その他」・「回答しない/分からない」
		12	現在利用している都道府県・市町村特有のサービスや助成制度 （一つ前の問いでの回答の他に、お住まいの地域で利用できるサービスで使っているものがあれば、選択またはその他で記載してください）	必須	選択（複数回答） + 記述	ヘルパー派遣 日中活動 緊急時のショートステイ 在宅でのレスパイトサービス 自治体独自の障害者手当や家賃助成 特に利用していない + 「その他」・「回答しない/分からない」
		13	平日の日中に最も時間を長く過ごす場所（およそ週3日以上過ごす場所を選択してください）	必須	選択（複数回答） + 記述	生活介護事業所 就労継続支援A型事業所または就労継続支援B型事業所 就労先 学校 自宅 グループホーム + 「その他」・「回答しない/分からない」
2	グループホーム（共同生活援助）で暮らしている方への設問	－	ここからは、グループホームで暮らしている方への質問です。			
		1	グループホームに入居しておよそ何年経過しているか	必須	数値	+ 「回答しない/分からない」
		2	グループホームに入居する時点で医療的ケアが必要だったか	必須	選択（単一回答）	入居する時点で医療的ケアが必要だった グループホームに入居している間に医療的ケアが必要になった + 「その他」・「回答しない/分からない」
		3	グループホームに入居したきっかけ	必須	選択（複数回答） + 記述	自分で希望した 人に勧められた 家族と話し合って決めた 相談支援専門員と話し合って決めた 住んでいた施設の職員と話し合って決めた 通っていた事業所の職員と話し合って決めた 通っていた医療機関で勧められた + 「その他」・「回答しない/分からない」
		4	グループホームに入居した理由	必須	選択（複数回答） + 記述	グループホームが楽しそうだったから グループホームでの暮らしは自由に決められることが多いと思ったから 今の生活よりもグループホームで暮らす方が安心だと思ったから 知り合いや友達がグループホームで暮らしているのを見ていいなと思ったから 一緒に暮らしている家族に迷惑をかけたくないと思ったから このまま自宅で暮らすのが難しくなったから それまで住んでいたところに不満があったから + 「その他」・「回答しない/分からない」
		5	グループホームへの入居を検討中での困難や心配事	必須	選択（複数回答） + 記述	建物の構造や設備の面で受入れ体制が整っている（例：車いすでも暮らせる、機械浴があるなど）グループホームがなかなか見つからなかった 医療的ケアに対応できるスタッフがいるグループホームがなかなか見つからなかった グループホームに入居することを家族や周りの人が反対した グループホームのことで分からないことや困ったときに誰に相談すれば良いかわからなかった グループホームでの生活で具合が悪くなった時にどうしたら良いか心配だった グループホームでの生活で食事や洗濯等の家事を自分でできるか心配だった グループホームでの生活にどのくらいお金がかかるか心配だった + 「その他」・「回答しない/分からない」
		6	いまのグループホームに入るまでに入居を断られたことがあるか	必須	選択（単一回答） + 記述	ある（か所から断られた） ない + 「その他」・「回答しない/分からない」
		7	（前問で「①ある」の場合） グループホームに入居を断られた理由	必須	選択（複数回答） + 記述	廊下の幅や居室、浴室等が医療的ケア者に対応できる十分な大きさではないから 階段があるが、スロープやエレベーターの設置が難しいから 必要な機器を購入する金銭的余裕がないから 医療的ケアができるスタッフがいないから 緊急時の対応に不安があったから + 「その他」・「回答しない/分からない」

番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須／任意	回答形式	選択肢
		8	グループホームに入居して良かったことや安心な点	必須	選択（複数回答） + 記述	居心地が良い 食事の時間や内容、生活リズムなど、自分で自由に決められることが多い 個室で過ごせるので快適だ 困ったときには職員に相談することができるので安心だ 一緒に暮らすよりも家族の負担が減ったと思う 必要であれば家事をサポートしてもらえるので安心だ グループホームに入る前と同じ地域で生活ができているので、人間関係が大きく変わらなかった 一緒に暮らす仲間に話を聞いてもらうことができる + 「その他」・「回答しない／分からない」
		9	食事や入浴、外出について、いまの生活に満足しているかご回答ください。 「あまり満足していない」、「満足していない」場合には、何が変わると満足できそうかご回答ください。	必須	選択（複数回答） + 記述	食事、入浴、外出について、現状の生活に対する不満があるか →「とても満足している」「概ね満足している」「あまり満足していない」「満足していない」 + 「その他」・「回答しない／分からない」
		10	休日の余暇時間の過ごし方	必須	選択（複数回答） + 記述	グループホームの中で過ごすことが多い 一人で行きかけることが多い 支援者と一緒に出かけることが多い 自宅に帰って家族と過ごすことが多い + 「その他」・「回答しない／分からない」
		11	日頃の生活の中で関わる人	必須	選択（複数回答） + 記述	グループホームの支援員 グループホームの管理者・サービス管理責任者 家族 友人 学校の先生や職場の人 通所先の日中活動事業所の職員や仲間 相談支援専門員 主治医やかかりつけ医 訪問看護師 近隣の住民 市町村の職員 + 「その他」・「回答しない／分からない」
		12	困ったことがあった際の対応方法	必須	選択（複数回答） + 記述	グループホームの支援員や管理者、サービス管理責任者に相談する 家族に相談する 友人に相談する 学校の先生に相談する 職場の仲間に相談する 相談支援専門員に相談する 市町村の職員に相談する 自力で解決する + 「その他」・「回答しない／分からない」
		13	現在の生活への不満や心配事	必須	選択（複数回答） + 記述	特に不満や心配事はない 食事の時間や内容を自由に決めたい 入浴の時間を自由に決めたい もっと自由に外出したい 一人で過ごす時間を増やしたい グループホームの仲間とうまいいかない グループホームの支援員とうまいいかない 新しい日中の居場所を見つけたい 具合が悪くなった時にどうしたらよいか心配 身体機能が低下してきていることが心配 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配 自分で自由に使えるお金が少ない グループホームで暮らすにはお金がかかり、ずっと暮らしていけるか心配 + 「その他」・「回答しない／分からない」
		14	今後の生活の展望	必須	選択（単一回答） + 記述	一人暮らしをしたい このままグループホームで暮らし続けたい いずれは障害者支援施設に移りたい いずれは療養介護に移りたい 特に考えていない + 「その他」・「回答しない／分からない」
3	グループホーム（共同生活援助）以外で暮らしている方への設問	－	ここからは、グループホーム以外の場所で暮らしている方への質問です。 グループホームとは、障害のある方が地域の中で安心して暮らせるように支援する住まいのひとつです。数人で共同生活をしながら、日常生活に必要なサポート（食事の準備、掃除、金銭管理など）を受けることができます。 スタッフが常駐しており、困ったことがあればすぐに相談できる環境が整っています。自立を目指しながらも、無理なく自分らしい生活を送ることができる場所です。			
		1	過去にグループホームで暮らしたことがあるか	必須	選択（単一回答）	ある ない + 「その他」・「回答しない／分からない」
		2	グループホームから今の住まいに移った理由	必須	記述	
		3	過去にグループホームの体験利用や見学をしたことがあるか	必須	選択（単一回答）	宿泊体験をしたことがある 宿泊はしていないが、見学したことがある 体験利用も見学もしたことがない + 「その他」・「回答しない／分からない」
		4	グループホームへの入居に至らなかった理由	必須	選択（複数回答） + 記述	入りたいと思えるグループホームがなかった 建物の構造や設備の面で整っていない（例：車いすでも暮らせる、機械浴があるなど） グループホームがなかなか見つからなかった 医療的ケアに対応できるスタッフがいないグループホームが見つからなかった グループホーム側から断られた グループホームの生活は医療面が心配だと思った グループホームの生活では自由が制限されと思った グループホームの雰囲気が自分に合わなかった 集団生活になじみないと思った 住み慣れた場所から離れたくなかった 家族や周囲の支援者に反対された 費用が高い + 「その他」・「回答しない／分からない」
		5	（前問で「④グループホーム側から断られた」の場合） グループホームに入居を断られた理由	必須	選択（複数回答） + 記述	廊下の幅や居室、浴室等が医療的ケア者に対応できる十分な大きさではないから 建物の構造上、生活するには階段での移動が必要だが、スロープやエレベーターの設置が難しいから 必要な医療機器を購入する金銭的余裕がないから 医療的ケアができるスタッフがいないから 緊急時の対応に不安があったから + 「その他」・「回答しない／分からない」
		6	現在の暮らしの満足度	必須	選択（単一回答） + 記述	とても満足している まあ満足している どちらともいえない あまり満足していない 満足していない + 「その他」・「回答しない／分からない」
		7	その理由についてご回答ください。	任意	記述	
		8	現在の暮らしの心配ごと	必須	選択（複数回答） + 記述	特に心配なことはない 体調が悪くなった時にどうしたら良いか心配 身体機能が低下してきていることが心配 一緒に暮らす家族が高齢になってきて、今の生活をいつまで続けることができるか心配 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配 + 「その他」・「回答しない／分からない」
		9	現在、グループホームへの入居を希望するか	必須	選択（単一回答）	希望する （ ）なグループホームであれば希望する 希望しない + 「その他」・「回答しない／分からない」

番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須／任意	回答形式	選択肢
		10	(前問で①②の場合) その理由	必須	選択（複数回答）	グループホームが楽しそうだと思うから グループホームでの暮らしは自由に決められることが多いと思うから 今の生活よりもグループホームで暮らす方が安心だと思うから 知り合いや友達がグループホームで暮らしているのを見ていいなと思うから 一緒に暮らしている家族に迷惑をかけたくないと思うから このまま自宅で暮らすのが難しくなってきたから 今の生活に不満があるから + 「その他」・「回答しない/分からない」
		11	(前々で「③希望しない」の場合) その理由	必須	選択（複数回答）	日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配だから 急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配だから 支援員とうまくいくか心配だから 他の入居者とうまくいくか心配だから このまま家族と一緒に暮らしたいから 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配だから グループホームに入るのに必要なお金がない/わからないから + 「その他」・「回答しない/分からない」
		12	将来的にグループホームへの入居を希望するか	必須	選択（単一回答）	希望する () なグループホームであれば希望する 希望しない + 「その他」・「回答しない/分からない」
		13	その理由	任意	記述	
		14	もしグループホームで暮らす場合、どんなことを望むか	必須	選択（限定回答） + 記述	車いすでも暮らせたり、機械浴があるなど、必要な設備が整っていること 医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること 自分と支援員との相性が良いこと 住む地域や日中の居場所など、今とあまり変わらない生活を維持できること 食事が美味しいこと 建物が綺麗なこと 買い物がしやすい地域にあること 交通の便が良い地域にあること + 「その他」・「回答しない/分からない」
		15	もしグループホームで暮らす場合、何があると安心だと思うか	必須	選択（複数回答） + 記述	医療系の設備が充実していること 医療的ケアに対応できるスタッフが確保されていること 支援員が多いこと 訪問診療や訪問看護が受けられるなど、外部の医療機関との連携体制が確保されていること 地域との連携があること 事業所の経営基盤が整っていて、経営が安定していること + 「その他」・「回答しない/分からない」
		16	もしグループホームで暮らす場合、どんなことが心配か	必須	選択（複数回答） + 記述	日常的な医療的ケアがちゃんと受けられるか心配 急変時に医療的ケアがちゃんと受けられるか心配 支援員とうまくいくか心配 他の入居者とうまくいくか心配 災害時に無事に避難したり生活を維持できるか心配 グループホームに入ったり暮らしていくためのお金が足りるか心配 + 「その他」・「回答しない/分からない」
		4	ヒアリング調査ご協力の可否	必須	選択（単一回答）	協力できる 詳細を聞いてから協力の可否を判断する 協力できない + 「その他」・「回答しない/分からない」

付録2 事業所向け質問紙調査 調査項目一覧

令和7年度障害者総合福祉推進事業 課題番号14「共同生活援助における重度障害者への生活支援に係る調査研究」
事業所アンケート設問項目

調査票の概要							補足
番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須 ／任意	回答形式	選択肢	
-	調査の趣旨・回答に関するお願い	-	【本調査の目的】本調査は、厚生労働省令和7年度障害者総合福祉推進事業 課題番号14「共同生活援助における重度障害者への生活支援に係る調査研究」の一環として実施します。本事業は、医療的ケアを必要とする方が共同生活援助事業所で暮らすことについての課題や支援の実態を把握することを目的として実施します。				
		-	本調査において、「医療的ケアを必要とする方」とは、次の医療的ケアのいずれかを日常的に必要とする方のことを指します。 ＜本調査における医療的ケア＞ ①人工呼吸器（鼻マスク式補助換気法、ハイフローセラピー（ネーザルハイフロー） 間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置（カファシストやコンフォートカフ等）、高頻度胸壁振動装置（スマートベスト等）） ②気管切開の管理 ③鼻咽頭エアウェイの管理 ④酸素療法 ⑤吸引（口鼻腔内、気管内） ⑥ネブライザーの管理 ⑦経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう、食道ろう、持続経管注入ポンプ使用） ⑧中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等） ⑨皮下注射（インスリン、麻薬等の注射を含む、持続皮下注射ポンプの使用） ⑩血糖管理（定時血糖測定、持続血糖測定、埋め込み式血糖測定） ⑪継続的な透析（血液透析、腹膜透析） ⑫導尿（間欠的導尿、持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう、尿路ストーマ）） ⑬排便管理（消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸） ⑭痙攣時の対応（座薬挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置）				
		-	【ご回答いただくにあたって】 ・全ての項目に回答いただいた後、「送信」ボタンを押下すると、回答は終了です。 ・ご回答いただいた内容は匿名にて集計し、集計結果は、個人、事業所名、地域等が特定されない形で集計され、PwCコンサルティング合同会社のホームページ上に開示いたします。 ・貴事業所の情報が特定されたり、回答結果によって不利益を被るようなことは一切ありませんので、安心してご回答くださいますと幸いです。 調査へのご協力に同意いただける場合は、「同意する」を選択した上で、質問にご回答ください。				
		-	■ご回答方法 ■ 回答用URLから回答を送信 ■お問合せ先 ■ インターネット環境により回答用URLからの回答送信が難しい場合は、事務局メールアドレスまでご連絡ください。 メールアドレス：xxx				
-	お問い合わせ先	-	調査実施主体 PwCコンサルティング合同会社 公共事業部 【住 所】〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー				
1	事業所基礎情報	-	現在運営している共同生活援助事業所について、回答をお願いします。 なお、定員や職員に関する設問については、住居ごとではなく、指定を受けている事業所単位で回答してください。				
		1	事業所の開設年度（西暦）	必須	数値		
		2	事業所の所在地	必須	選択（単一回答）	（都道府県を列記）	
		3	事業所名	任意	記述		
		4	該当する法人格	必須	選択（単一回答）	●都道府県、市区町村、一部事務組合 ●社会福祉法人 ●医療法人 ●営利法人（株式・合名・合資・合同会社） ●特定非営利活動法人（NPO） ●独立行政法人 ●その他	
		5	同法人で共同生活援助事業所以外に運営している医療サービス、障害福祉サービス等	必須	選択（複数回答） ＋記述	＜医療サービス＞ 訪問診療・往診/訪問看護/訪問歯科診療/訪問リハビリ 訪問薬剤/訪問栄養指導/ ＜障害福祉サービス・相談支援＞ 居宅介護/重度訪問介護/同行援護/行動援護/ 重度障害者等包括支援/短期入所/療養介護/ 生活介護/施設入所支援/自立生活援助/ 共同生活援助/自立訓練（機能訓練）/ 自立訓練（生活訓練）/就労移行支援/ 就労継続支援A型/就労継続支援B型/ 就労定着支援/就労選択支援/計画相談支援/障害児相談支援/ 地域移行支援/地域定着支援 ＜地域生活支援事業＞ 移動支援/日中一時支援/日常生活用具給付等事業/ 地域活動支援センター/基幹相談支援センター/障害者相談支援事業 ＜障害児通所支援＞ 障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援） ＋「その他」	
		6	貴事業所の類型	必須	選択（単一回答）	●介護サービス包括型 ●外部サービス利用型 ●日中サービス支援型	
		7	利用者の主たる障害種別	必須	選択（単一回答）	●身体 ●知的 ●精神（発達障害・高次脳機能障害を含む） ●難病 ●定めていない	
		8	建物の種別 （複数住居ある場合は、必要に応じて複数回答してください）	必須	選択（複数回答）	●既存の一般住宅 ●新築のグループホーム用住宅 ●既存の集合住宅（マンションやアパート） ●新築のグループホーム用集合住宅（マンションやアパート） ●法人所有の既存の建物をグループホーム用に転用 ＋「その他」	
9	開設時に建物の立地等の条件についてどんな点を重視したか	必須	選択（複数回答） ＋記述	●交通の便が良いこと ●コンビニやスーパーマーケットが近いなど、買い物に便利なこと ●多くの利用者が通う可能性のある事業所等が近くにあること ●駐車スペースや建物以外の敷地面積が十分にあること ●医療機関が近くにあること ●法人本部、系列施設や事業所等が近くにあること ＋「その他」			

番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須 ／任意	回答形式	選択肢	補足
		10	貴事業所の共同生活住居数と定員数	必須	数値	住居の数： 定員（すべての住居の合計）：	
		11	障害種別ごとの入居者数	必須	数値	●身体（ ）名 ●知的（ ）名 ●精神（発達障害・高次脳機能障害を含む）（ ）名 ●難病（ ）名 ●重症心身障害（ ）名	（複数の種別に該当する利用者については、主たる障害種別に計上）
		12	障害支援区分別の利用者数	任意	数値	●非該当（区分1から区分6のどれにも当てはまらない）（ ）名 ●区分1（ ）名 ●区分2（ ）名 ●区分3（ ）名 ●区分4（ ）名 ●区分5（ ）名 ●区分6（ ）名 ●未認定（障害支援区分認定調査をしていない）（ ）名	
		13	年代別の利用者数	任意	数値	●18歳未満（ ）名 ●18歳・19歳・20歳代（ ）名 ●30歳代（ ）名 ●40歳代（ ）名 ●50歳代（ ）名 ●60歳代（ ）名 ●70歳代（ ）名 ●80歳以上（ ）名	
		14	そのうち、医療的ケアが必要な利用者の数	任意	数値	●18歳未満（ ）名 ●18歳・19歳・20歳代（ ）名 ●30歳代（ ）名 ●40歳代（ ）名 ●50歳代（ ）名 ●60歳代（ ）名 ●70歳代（ ）名 ●80歳以上（ ）名	
		15	職員配置数（実員数及び常勤換算数）	必須	数値	●管理者 ●サービス管理責任者 ●世話人 ●生活支援員 ●看護職員（上記に該当する職員以外） ●その他の職員（上記に該当する職員以外）	（実員数、常勤換算数のそれぞれを数値で回答）
		16	職員の資格保有状況	必須	数値	●医師（ ）名 ●看護師（ ）名 ●准看護師（ ）名 ●社会福祉士（ ）名 ●精神保健福祉士（ ）名 ●介護福祉士（ ）名 ●医療的ケア児等コーディネーター（ ）名 ●喀痰吸引等研修（第1号研修）修了者（ ）名 ●喀痰吸引等研修（第2号研修）修了者（ ）名 ●喀痰吸引等研修（第3号研修）修了者（ ）名 ●強度行動障害支援者養成研修又は行動援護従事者養成研修修了者（ ）名	
		17	事業所の医療職の体制	必須	選択（複数回答） ＋記述	●常勤医師 ●非常勤医師 ●嘱託医 ●常勤看護師 ●非常勤看護師 ●常勤准看護師 ●非常勤准看護師 ●医療職を配置していない	
		18	夜間支援等体制加算の取得状況について、該当する共同生活住居の数を記入してください	必須	選択（複数回答） ＋記述	●夜間支援等体制加算（Ⅰ）：（ ）住居 ●夜間支援等体制加算（Ⅱ）：（ ）住居 ●夜間支援等体制加算（Ⅲ）：（ ）住居 ●夜間支援等体制加算（Ⅳ）：（ ）住居 ●夜間支援等体制加算（Ⅴ）：（ ）住居 ●夜間支援等体制加算（Ⅵ）：（ ）住居 ●夜間支援等体制加算を取得している住居はない	
		19	地域の医療資源の状況 （利用者がかかることのできる近隣の医療機関へのおおよそのアクセス状況や訪問診療及び往診の状況）	必須	選択（複数回答） ＋記述	●事業所の徒歩圏内に医療機関がある ●公共交通機関で無理なく行ける圏内に医療機関がある ●車で15分程度走れば医療機関がある ●医療機関まで行くのに30分以上かかる ●定期的な訪問診療を受けている利用者がいる ●定期的な訪問看護を受けている利用者がいる ●緊急時の往診に対応してくれる医療機関がある ●上記のいずれにも当てはまらない	
		20	登録喀痰吸引等事業者または登録特定行為事業者の登録状況	必須	選択（複数回答） ＋記述	●登録喀痰吸引等事業者として登録している ●登録特定行為事業者として登録している ●1年以内に登録喀痰吸引等事業者としての登録を予定している ●1年以内に登録特定行為事業者としての登録を予定している ●いずれも登録していない	
		21	これまでに医療的ケアが必要な方を受け入れたことがあるか	必須	選択（単一回答） ＋記述	●現在、医療的ケアが必要な方を受け入れている ●現在はいないが、過去に受け入れたことがある ●現在はいないが、これから受け入れる予定/受け入れを検討する予定がある ●過去に検討したことがあるが、受け入れに至らなかった ●これまでに検討したことがなく、受け入れたことがない	

番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須 ／任意	回答形式	選択肢	補足
		22	(前問で「②現在はいないが、過去に受け入れたことがある」の場合) 過去に受け入れていた医療的ケアの必要な方が退居した理由	必須	選択（複数回答） + 記述	●障害の重度化により事業所での対応が難しくなったため ●事業所で対応できる人員が不足したため ●本人から別の共同生活援助事業所へ転居したいという希望があったため ●本人から一人暮らしをしたいという希望があったため ●本人から家族と一緒に暮らしたいという希望があったため ●家族から退居希望があったため ●本人が死亡したため + 「その他」	(詳細な状況があれば補足いただく)
2	これまでに医療的ケアを受け入れたことのある事業所への設問	-	ここからは、現在医療的ケアが必要な方を受け入れている事業所、または、これまでに医療的ケアが必要な方を受け入れたことのある事業所への質問です。 なお、過去に医療的ケアが必要な方を受け入れていて、現在は対象者がいない場合には、受け入れていた当時の状況をご回答ください。				
		1	現在、事業所で受入が可能な医療的ケアの種類と該当する利用者数	必須	選択（複数回答） + 記述	●人工呼吸器（鼻マスク式補助換気法、ハイフローセラー（ネーザルハイフロー）間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置（カフアシストやコンフォートカフ等）、高頻度胸壁振動装置（スマートベスト等）） ●気管切開の管理 ●鼻咽頭エアウェイの管理 ●酸素療法 ●吸引（口鼻腔内、気管内） ●ネブライザーの管理 ●経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう、食道ろう、持続経管注入ポンプ使用） ●中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等） ●皮下注射（インスリン、麻薬等の注射を含む、持続皮下注射ポンプの使用） ●血糖管理（定時血糖測定、持続血糖測定、埋め込み式血糖測定） ●継続的な透析（血液透析、腹膜透析） ●導尿（間欠的導尿、持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう、尿路ストーマ）） ●排便管理（消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸） ●痙攣時の対応(座薬挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置) ●医師の指示書に基づくその他のケア（※具体的に回答いただく）	
		2	これまでに事業所で受け入れたことのある医療的ケアが必要な方の状態像 (状態像は日中の主な過ごし方で回答してください)	必須	選択（複数回答） + 記述		
		3	直近 2 年間で退居した利用者の移行先とその数	必須	数値	●医療機関・療養介護：()名 ●障害者支援施設：()名 ●別の共同生活援助事業所：()名 ●一人暮らし：()名 ●家族との同居：()名 ●死亡：()名 ●直近 2 年間には退居者がいない	
		4	直近 2 年間で退居した利用者の退居理由 (複数該当する場合は、最も当てはまるものに計上してください)	必須	数値	●障害の重度化により事業所での対応が難しくなったため：()名 ●事業所で対応できる人員が不足したため：()名 ●本人から転居の希望があったため：()名 + 「その他」	
		5	医療的ケアが必要な方の受入を開始したきっかけ	必須	選択（複数回答） + 記述	●医療的ケアが必要な方を対象として事業所を開設した ●入居中の利用者に医療的ケアが必要になったから ●医療的ケアが必要な方やその家族から利用の相談があったから ●別の事業所から相談があったから ●相談支援事業所から相談があったから ●医療的ケア児等コーディネーターから相談があったから ●行政から相談があったから + 「その他」	
		6	医療的ケアが必要な方の受入のために施した整備や工夫の内容、およびその費用 (改修費用についてなんらかの補助を受けた場合、事業所が負担した額を回答してください)	任意	選択（複数回答） + 記述	(ハード面) ●スロープの設置や建物の改修工事等により、バリアフリー化した ●浴室を改修した ●機械浴の設備を新たに導入した ●トイレを改修した ●必要な箇所に手すりを設置した ●吊り下げ式のリフトを設置した ●医療機器を購入した ●コンセントの増加等の電気工事を行った ●非常用電源を新たに導入した (ソフト面) ●看護師・准看護師を増員した ●職員を増員した ●個人単位で居宅介護等のヘルパーを利用することにした ●利用者の家族に医療的ケア等について聞き取った ●利用者の主治医やかかりつけ医に医療的ケア等についての指示書や意見書を提供してもらった ●利用者ごとの医療的ケア実施手順書を作成した ●夜間や緊急時に、利用者の主治医や地域の訪問看護師等に連絡や相談ができる体制を整えた ●手技を身に付けたり知識を身に付けるための研修参加を職員に積極的に促している ●定期的に事業所や法人内部で医療的ケアに関する研修や勉強会を行っている ●他の医療的ケアが必要な方を受け入れている事業所と情報交換する + 「その他」	

番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須 ／任意	回答形式	選択肢	補足
		7	医療的ケアが必要な方の受入を開始する際に直面した課題や困難	必須	選択（複数回答） ＋記述	●医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保 ●利用者の急変に対応できる人員体制の確保 ●支援に必要な設備の導入・建物のリフォーム等の費用負担 ●医療的ケアが必要な方への支援リソースの集中（他の利用者へのサービスの低下の懸念） ●他の利用者を受容してもらえるかという不安 ＋ 「その他」「特になし」	
		8	現在抱えている課題や困りごと	必須	選択（複数回答） ＋記述	●医療の知識や医療的ケアの経験がある職員の確保 ●利用者の急変に対応できる人員体制の確保 ●支援に必要な設備の導入・建物のリフォーム等の費用負担 ●医療的ケアが必要な方への支援リソースの集中（他の利用者へのサービスの低下の懸念） ●利用者の高齢化に伴う医療的ケアや服薬管理の負担の増加 ●看取り・ターミナルケアの対応 ●災害時の対応 ＋ 「その他」「特になし」	
		9	医療的ケアが必要な方への支援の内容・その頻度や担当職員	必須	選択（複数回答） ＋記述	●人工呼吸器（鼻マスク式補助換気法、ハイフローセラピー（ネーザルハイフロー）間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置（カフアシストやコンフォートカフ等）、高頻度胸壁振動装置（スマートベスト等）） ●気管切開の管理 ●鼻咽頭エアウェイの管理 ●酸素療法 ●吸引（口鼻腔内、気管内） ●ネブライザーの管理 ●経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう、食道ろう、持続経管注入ポンプ使用） ●中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等） ●皮下注射（インスリン、麻薬等の注射を含む、持続皮下注射ポンプの使用） ●血糖管理（定時血糖測定、持続血糖測定、埋め込み式血糖測定） ●継続的な透析（血液透析、腹膜透析） ●導尿（間欠的導尿、持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう、尿路ストーマ）） ●排便管理（消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸） ●痙攣時の対応(座薬挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置) ●医師の指示書に基づくその他のケア（※具体的に回答いただく）	
		10	医療的ケアが必要な方の平日の日中/平日の夕方や夜間/休日の主な過ごし方 （平日については週に3回程度行うもの、休日については月に2回程度行うものを選択いただく）	必須	選択（複数回答） ＋記述	●日中活動事業所に通っている ●就労先に通っている ●通学している ●事業所でのレクリエーション活動等に参加している ●事業所の職員と一緒に炊事や家事を行っている ●居室で過ごしている ●外出する ●家族・親族等の家に帰省する ＋ 「その他」	（選択肢×平日日中/平日夜/休日 のマトリクス表形式にて回答いただく）
		11	前問の過ごし方について、どのように決めているか	必須	選択（複数回答） ＋記述	●毎日本人の意向を確認している ●基本的にはルーティンになっているが、ときどき本人の意向を確認している ●個別支援計画作成時やモニタリング時に本人の意向を確認している ●本人の意向は確認せず、あらかじめ事業所で決めたスケジュールに沿って支援している ＋ 「その他」	
		12	事業所の職員による医ケア者の通院への付き添いの頻度 （事業所の職員が付き添いを行うおおよその頻度を回答してください。 （例：利用者Aさんは毎週月曜日、利用者Bさんは毎週水曜日に通院し、それに職員が付き添う場合、「週に2～3回」を選択してください。））	必須	選択（単一回答） ＋記述	●ほぼ毎日 ●週に2～3回 ●週に1回 ●2～3週に1回 ●月に1回 ●数か月に1回 ●原則、通院に職員が付き添うことはない ＋ 「その他」	
		13	医療的ケアが必要な方への支援にあたって、困りごとを相談する外部の関係者や関係機関	必須	選択（複数回答） ＋記述	●利用者のかかりつけ医・主治医 ●訪問看護ステーション ●理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職 ●相談支援専門員 ●医療的ケア児等コーディネーターや医療的ケア児等支援センター ●居宅介護事業所や重度訪問介護事業所 ●利用者の通う日中活動事業所、学校、企業等 ●社会福祉協議会 ●（自立支援）協議会 ●利用者の家族 ●利用者の後見人 ＋ 「その他」「特になし」	
		14	取得している加算	必須	選択（複数回答） ＋記述	●医療的ケア対応支援加算 ●医療連携体制加算（Ⅰ） ●医療連携体制加算（Ⅱ） ●医療連携体制加算（Ⅲ） ●医療連携体制加算（Ⅳ） ●医療連携体制加算（Ⅴ） ●医療連携体制加算（Ⅵ） ●医療連携体制加算（Ⅶ） ●看護職員配置加算 ●重度障害者支援加算 ●加算は取っていない	
		15	医療的ケアに関する自治体による補助	必須	選択（複数回答） ＋記述	●施設・設備整備補助 ●運営費補助 ●職員の研修等に関する補助 ●その他（それ以外に医療的ケアに関する補助） ●自治体による補助は受けていない	
		16	個人単位で居宅介護や重度訪問介護を利用できる経過措置を活用している利用者がいるか	必須	選択（単一回答）	●いる ●いない	

番号	大問タイトル	番号	項目	回答必須 ／任意	回答形式	選択肢	補足
		17	(前問で「①いる」の場合) 利用している居宅介護や重度訪問介護の事業所の法人は、グループホームと同じか	必須	選択 (複数回答)	●グループホームと同じ法人の事業所を利用している ●グループホームと異なる法人の事業所を利用している	
3	これまでに医療的ケア者を受け入れたことのない事業所への設問	-	ここからは、これまでに医療的ケアが必要な方を受け入れたことがない事業所への質問です。				
		1	これまでの医療的ケア者の受入に関する問い合わせの有無	必須	選択 (複数回答)	●問い合わせがあったが、利用者側の都合で利用に至らなかった ●問い合わせがあったが、受入が困難と考え、利用に至らなかった ●これまでに問い合わせが来たことはない	
		2	困難と判断する理由	必須	選択 (限定回答) + 記述	●廊下の幅や居室、浴室等が医療的ケア者に対応できる十分な大きさではないから ●階段があるが、スロープやエレベーターの設置が難しいから ●必要な医療機器を購入する金銭的余裕がないから ●医療的ケアができる看護師等や介護職員等がいないから ●職員の負担が増大するのを避けたかったから ●医療的ケアを実施することに職員の理解が得られなかったから ●医療的ケアが必要な利用者とは利用者ととの双方の安全が確保できないと考えたから ●緊急時の対応に不安があったから + 「その他」	(上位3つ程度を回答してもらうこととする)
		3	今後、入居中の利用者に医療的ケアが必要になった場合や、医療的ケアが必要な方から入居希望があった場合の対応予定	必須	選択 (単一回答)	●積極的に対応したい ●話を聞き、対応可能かどうか判断したい ●対応することは難しいと考える	
		4	どのような条件が満たされれば、医療的ケアが必要な方を受け入れることが可能になるか	必須	選択 (限定回答) + 記述	●受け入れるための施設・設備整備への補助がある場合 ●近隣の訪問看護ステーション等の支援が受けられる体制が整った場合 ●職員が医療的ケアの手技に関する研修を受けられる場合 ●医療的ケアが実施できる看護師や介護職が採用できた場合 ●地域の医療的ケア者受け入れ事業所と協力・相談体制が取れる場合 ●受け入れることによる加算が充実した場合 ●医療職以外が実施可能な医療的ケアの拡大や免責等、法的な整備が行われた場合 ●現在の設備・体制で受入が可能 + 「その他」	(上位3つ程度を回答してもらうこととする) (⑦の場合は他の選択肢を選べないように設定)
4	ヒアリング調査ご協力の可否	1	本調査では、ご回答いただいた内容の詳細を伺うため、いくつかの事業所のみなさまへヒアリング調査を実施したいと考えています。業務ご多忙のところ恐れ入りますが、ヒアリング調査にご協力いただけるかどうか、ご回答ください。	任意	選択 (単一回答)	●協力できる ●詳細を聞いてから協力の可否を判断する ●協力できない	

令和7年度 障害者総合福祉推進事業
指定課題 14「共同生活援助における重度障害者への生活支援に係る調査研究」
事業報告書

発行日：令和8年3月
発行：PwC コンサルティング合同会社